

シムルヲ以テ目的トスヘシ

第二條 小學校教員教務研究會ノ設置區域ハ一郡市長ノ所轄内ヲ一區若シクハ數區ニ分テテ之ヲ定メ會場ハ區域内小學校又ハ其他便宜ノ場所ニ定ムヘシ

第三條 小學校教員教務研究會ノ會員ハ區域内市町村立私立小學校長及教員全員ヲ以テ之ニ充ツヘシ

但シ高等小學校長教員ト尋常小學校長教員ト區別シテ會員ヲ組織スルハ便宜ニ依ル

第四條 小學校教員教務研究會ニハ會員ノ互選又ハ郡市長ノ特選ヲ以テ主事及其代理者各一人ヲ置キ會務ヲ整理セシムヘシ

第五條 小學校教員教務研究會ノ開期ハ一ケ年六回以内トシ毎回開會ノ日數ハ二日以内トスヘシ

第六條 小學校教員教務研究會ニ要スル費用ハ設置區域内各小學校ノ經費中ヨリ支辨セシムヘシ

○市町村立小學校教員服制

明治三十五年六月七日  
愛媛縣訓令第二十號

郡 市町村立小學校

市町村立小學校教員服制左ノ通之ヲ定ム

市町村立小學校教員服制

第一條 男教員ノ制服左ノ如シ

一 上衣

形狀 脊廣立襟

色 黒又ハ紺

襟章 單瓣櫻花中央凸起金鍍

一 袴

形狀 普通

色 上衣ト同色

一 帽

形狀 海軍形

色 黒

徽章 襟章ト同一ニシテ經一寸ノモノ

第二條 女教員ノ制服左ノ如シ

一 服 無地紋付

一 袴 普通

第三條 新任ノ場合ハ六ケ月以内制服ヲ着用セサルコトヲ得

第四條 病氣其他止ヲ得サル事故ニ因リ制服ヲ着用スルコト能ハサルトキハ其理由ヲ具シテ學校

長ニ届出ツヘシ

前項ノ事故一ケ月以上ニ涉ルトキハ監督官廳ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 制服ハ學校儀式ノ場合ニ着用スルモ妨テシ

第六條 學校儀式ノ場合ノ外ハ女教員ニアリテハ服ハ通常適宜ノモノヲ用ヒ男教員ニアリテハ夏ハ白又ハ鼠ノ上衣及ヒ袴ヲ用ヒ帽子ニ覆布ヲナスコトヲ得

第七條 本服制ハ代用教員ニ適用セス

附 則

第八條 本服制ハ明治三十五年十月一日ヨリ施行ス

第九條 從來ノ制服所持ノ者ハ仍之ヲ用フルコトヲ得

○市町村立小學校栽樹規程

明治二十九年九月二十九日  
愛媛縣訓令第四十九號

郡市町村、市町村立小學校

市町村立小學校栽樹規程

第一條 本規程ハ小學校兒童ヲシテ樹木ノ栽培法及ヒ森林愛護ノ必要ヲ知ラシメ以テ實業及ヒ經濟上ノ思想ヲ養成シ兼テ愛郷心ノ涵養學校基本財産ノ増殖ヲ以テ目的トス

第二條 市町村ハ學校所屬地又ハ市町村共有地等ニ於テ便宜栽樹地ヲ設クヘシ  
但市町村ニ於テ栽樹地ヲ設ク難キ場合ニ於テハ其事情ヲ知事ニ開申スヘシ

第三條 市町村長ハ栽培スヘキ樹木ノ種類、株數、栽樹日並ニ保護ノ方法等施行規則ヲ定メ學校長又ハ首席教員連署ノ上豫メ市ハ知事ニ町村ハ郡長ニ開申スヘシ

第四條 小學校、教員等ハ便宜兒童ノ爲メニ樹木ノ性質、効用、栽培法及ヒ山林ト國土トノ關係學校基本財産ノ必要等ヲ講話シ又兒童ヲ指揮シテ樹木ノ栽植、培養等ニ從事スヘシ

第五條 市町村ハ成木伐採等ノ爲メ臨時收入金ヲ得タルキハ其全部若クハ純益金ハ學校ノ基本財産トナスヘシ

第六條 郡市長ハ毎年ノ始メニ於テ前年中ニ於ケル管内實施ノ實況ヲ調査シ其年三月三十一日迄ニ知事ニ報告スヘシ

第七條 本規程施行ノ時期ハ郡市長ニ於テ之ヲ定メ知事ニ開申スヘシ  
但本文施行ノ時期ハ明治三十年九月ヲ過クルコトヲ得ス

○市町村立小學校栽樹規程施行要項

明治二十九年九月二十九日  
愛媛縣訓令第五十號

郡市町村、市町村立小學校

小學兒童ニ實業ノ思想ヲ與ヘテ着實ノ良風ヲ訓致シ浮薄ノ心情ヲ抑制スルハ兒童訓練ノ要務ニシテ學校ノ基本財産ヲ増殖シテ學校維持ノ基礎ヲ鞏固ニシ天災地變モ其影響ヲ及ボス能ハサラシムルハ學校經濟上目下ノ急務ニ屬ス然リ而シテ縣下各市町村ニ於テ其法ヲ設ケタル者未タ甚々多カラサルハ洵ニ遺憾トスル所ナリ抑其方法タル一ニシテ止マザルヘシト雖克ク一舉兩得ノ効ヲ收メ殆ント遺憾ナキモノハ栽樹ノ方法ニ如クハナシ蓋栽樹ハ兒童ニ實業ノ思想ヲ與ヘ着實ノ良風ヲ養ヒ而シテ資力ヲ費ス少シテ利益ヲ收ムル巨大ニ假令目下ノ急務ニ應スル能ハサルモ最モ永遠ノ長計ニ

屬ス况ヤ本縣ハ地勢山地多キニモ拘ハラズ到ル所樹木ヲ濫伐シ鬱葱タル山林モ次第ニ禿瘠ニ變シ連年水旱交々至リ其慘害ヲ蒙ルノ悲境ニ沈淪スルニ於テヲヤ小學校栽樹規程ノ發布實ニ止ムヲ得サルナリ尙左ノ施行要項ニ準據シ誠實ニ之カ實行ヲ期シ着々其實益ヲ收メ人生至要ノ教育事業ヲシテ益完美ニ其基礎ヲシテ愈ヨ鞏固ニ至ラシムルコトヲ勤ムヘシ

市町村立小學校栽樹規程施行要項

- 第一條 栽樹日ハ毎年一回又ハ二回其土地適當ノ季節ニ於テ成ヘク祝祭日又ハ休日ヲ撰フヘシ但之ヲ課スルハ男生徒ノミトシ尋常科第三學年以上トスヘシ
- 第二條 栽培スヘキ樹木ノ種類ハ松、杉、檜、桐、樟、櫟、樺、等成ルヘク培養シ易クシテ其土質適當ノモノタルヘシ
- 第三條 苗樹ハ學校構内又ハ其近傍ニ苗床地ヲ設ケテ之ヲ培養シ或ハ生徒各自ヲシテ豫メ之ヲ準備セシメ若クハ學校費ヲ以テ之ヲ購入スル等便宜タルヘシ但毎回栽植スヘキ苗樹數ハ生徒一人ニ付二株乃至六株ヲ適當トス
- 第四條 市町村長學務委員及ヒ學校長教員ハ常ニ栽樹シタル樹木ヲ監護シテ其繁茂ヲ圖ルヘシ
- 第五條 學校長、教員ハ適當ノ季節ニ於テ休日若クハ終業後生徒ヲ指揮監督シテ栽植シタル樹木ノ培養ヲナスヘシ
- 第六條 學校長教員ハ平素理科地理科等教授ノ際ハ勿論栽樹日ノ前後ニ於テハ殊ニ注意シテ栽植シタル樹木ノ性質効用栽培法及山林ト國土トノ關係學校基本財産ノ必要等ヲ詳細講話スヘシ
- 第七條 栽植シタル樹木成育シテ成木トナルモ之ヲ一時ニ伐採セシテ順次ニ伐採スルノ慣行ト

ナスヘシ

第八條 學校長又ハ首席教員ハ栽樹記錄ヲ編製シ栽樹實施ノ年月栽樹ノ種類株數培養月及伐採セシ年月株數等栽樹ニ關スル一切ノ事項ヲ記錄スヘシ

○尋常小學校ノ設置及兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務免除

明治三十四年六月五日  
愛媛縣告示第百五十四號

- 小學校令第十二條第二項ニヨリ左記區域ニ限リ當該町村ニ對シ尋常小學校ノ設置及兒童教育事務ノ委託ニ關スル義務ヲ免除ス
- 南宇和郡綠僧都村大字綠字大久保 (明治三十五年愛媛縣告示第七十九號ヲ以テ削除)
- 同 郡同 村字本田
- 越智郡鈍川村大字木地字上之成 (明治三十六年愛媛縣告示第三百六十號同三十七年同第百三十一號ヲ以テ削除)
- 同 郡今治町大字今治村字比岐島
- 同 郡魚島村字高井神
- 同 郡同 村大字野々江字シチノサカ
- 同 郡同 村字江ノ島
- 北宇和郡下灘村字曲島浦 (明治三十八年愛媛縣告示第百五十一號同四十年同第百三十一號ヲ以テ削除)
- 同 郡同 村字網綱代



時之カ實施ヲナセルモノ一百二十餘校面積壹百三十町餘步樹數拾五萬壹千餘株ニ達シタルモ山來山林原野ニ富メル本縣ノ地勢ニ省ミルトキハ尙其ノ發達ノ甚タ遲緩ナル感ナクンハアラス

願ルニ本縣ノ小學校兒童ハ明治三十五年度調査ニ於テ其數約十萬壹千餘人ニシテ今假ニ一人平均十株ノ栽樹ヲナサシムルトキハ實ニ壹百壹萬餘株ノ多キヲ致シ伐期ニ於ケル收入ヲ一株壹圓ト假定スルモ尙壹百壹萬餘圓ヲ收利シ得ヘク又小學校數ハ六百餘ニシテ一校平均一町步ノ栽樹ヲナスモノトセハ六百餘町步ノ面積ヲ得一町步ノ伐期ニ於ケル收入ヲ三千圓ト假定セハ壹百八拾萬圓ノ巨額ヲ收利シ得ヘク又輪伐ノ方法ヲ行ハ、年收優ニ參萬六千圓ヲ得ルコト敢テ難カラス況ンヤ樹木ノ種類ニ依リテハ其ノ收益ノ特ニ多大ナル者アルヲヤ故ニ之ヲ連年繼續施行セハ實ニ巨額ノ基金ヲ收得シ以テ幾多ノ小學校費ヲ支持スルカ如キハ實ニ易々タルノミ之レ今回ノ開戰ヲ機トシ特ニ紀念學林ノ設置ヲ獎勵スル所以ナリトシ市町村村學校組合若クハ市町村內ノ區ハ宜シク左記ノ方法ニ準據シ速ニ之カ實施ヲ計ルヘシ

若シ夫レ土地ノ情況ニ依リ適當ノ栽樹地ヲ得ル能ハサルモノニアリテハ便宜之ニ代フルニ紀念學校基本財産設置ノ方法ヲ以テシ國民ノ永遠忘ル可ラサル今日ノ事變ヲ念ハシムルト共ニ學校經濟ノ基礎ヲ鞏固ニシ教育事業ヲシテ益々完美ニ發展セシメンコトヲ勉ムヘシ

開戰紀念學林設置規程

第一條 市町村ニ於テハ日露開戰紀念ノ爲本規程ニ依リ紀念學林ヲ設置スヘシ

土地ノ狀況ニ依リ紀念學林ヲ設置シ能ハサルモノハ適宜他ノ方法ニ依リ紀念學林基本財産ノ設置ヲ爲シ之ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其方法ヲ具シ豫メ監督官廳ニ開申スヘシ

第二條 紀念學林地ハ其學校ノ設立維持ヲ負擔スル市町村其他公共團體所有ノ山林原野若ハ從來慣行アル入會其ノ他ノ共有地ヲ充用シ又ハ國有私有等ノ林野ヲ拂受或ハ借受之ニ充ツヘシ

第三條 紀念學林地ハ成ヘク左ノ各項ニ據リ土地ヲ選定スヘシ

- 一、土質及方向ノ適良ナルコト
- 一、運搬上ノ便利ヲ有スルコト
- 一、學校ニ遠距離ナラサル位置若ハ兒童通學路ニ沿フコト
- 一、所屬市町村若ハ部落ノ衛生風致其ノ他公益上効用多大ナルコト
- 一、森林ニ接續スルコト

第四條 栽植スヘキ樹木ノ種類ハ杉、扁柏、松、樟、樺、樅、椴、栗、櫟、榲桲等土地ニ適應スルモノニ就キ選定スヘシ

第五條 造林ニ不當ナル地ニアリテハ便宜竹類其ノ他有益ナル菓樹ヲ選定スルコトヲ得

且其保護ニ關スル規約等ヲ揭示スヘシ

第六條 紀念學林ハ適宜ノ方法ヲ以テ測量ヲ爲シ栽植ノ順序ヲ定メ毎回其區域ヲ明ニシ每區回數栽植年月日及植付樹數等ヲ記載シタル標札ヲ掲クヘシ

第七條 市町村ニ於テハ紀念學林臺帳ヲ備ヘ左ノ事項ヲ記載スヘシ

但植込ノ區域ヲ示シ植込順序ニ依リ番號ヲ附シタル栽樹圖ヲ添付スヘシ

- 一、設置年月日
  - 一、所有地借地ノ區別借地ナルトキハ國有公有私有ノ別所有主ノ住所氏名及借地ノ期限借地料
  - 一、地目及反別
  - 一、郡市町村大字字名及地番
  - 一、栽植補植間伐々採ノ年月日林地區劃ノ番號樹種並ニ樹數
  - 一、除草補植及間伐ノ概況
  - 一、栽植及補植ニ從事シタル兒童數學年別氏名並ニ費用ノ總額
  - 一、巡視及手入年月日並ニ其狀況
  - 一、間伐並ニ伐採樹木ノ價額學校基本財産投入ニ關スル事項
  - 一、其ノ他必要ナル事項
- 第八條 從來設置セル小學校栽樹地ハ此ノ際更ニ之ヲ擴張シテ紀念學林トナスコトヲ得
- 第九條 明治二十九年訓令第四十九號第一條第四條乃至第六條及同年訓令第五十號各條ノ規程ハ本規程實施ニ關シ之ヲ準用ス
- 第十條 本規程第一條ノ紀念學林ハ本年十月末日ニ限り設置ノ準備ヲ了ヘ十二月末日迄ニ其栽植ヲ爲スヘシ但春季栽植ヲ適當トスルモノニアリテハ明年三月末日迄之ヲ延期スルコトヲ得

## 第一編 中學校及高等女學校

### ◎總則

#### ○中學校令

明治三十二年二月六日  
勅令第二十八號

朕中學校令ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

- 第一條 中學校ハ男子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス
- 第二條 北海道及府縣ニ於テハ土地ノ情況ニ應シ一箇以上ノ中學校ヲ設置スヘシ  
文部大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テ府縣ニ中學校ノ増設ヲ命スルコトヲ得
- 第三條 前條ノ中學校ノ經費ハ北海道及沖繩縣ヲ除ク外府縣ノ負擔トス
- 第四條 郡市町村北海道及沖繩縣ノ區ヲ含ム又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内小學教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限り中學校ヲ設置スルコトヲ得
- 第五條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ中學校ヲ設置スルコトヲ得
- 第六條 土地ノ情況ニ依リ中學校ノ分校ヲ必要トスルトキハ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ設置スルコトヲ得但シ一校ニ付一分校ニ限ル
- 第七條 中學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ  
中學校ノ設置廢止ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム(明治三十二年文部省令第十四號ヲ以テ設置廢止規則公布)
- 第八條 公立中學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第九條 中學校ノ修業年限ハ五箇年トス但シ一箇年以内ノ補習科ヲ置クコトヲ得

第十條 中學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ年齢十二年以上ニシテ尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ(明治四十年勅令第二(百八十號ヲ以テ改正))

第十一條 中學校ノ學科及其程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十二條 中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

中學校教科書ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十三條 中學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ但シ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

中學校教員免許狀ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

第十四條 公立中學校職員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外地方長官之ヲ定ム(明治四十年勅令第二(百八十號ヲ以テ改正))

第十五條 中學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム(明治三十二年文部省令第三號ヲ以テ編制及設備規則公布)

第十六條 公立中學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ減免スルコトヲ得

授業料入學料等ノ額ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム(明治四十年勅令第二(百八十號ヲ以テ改正))

第十七條 本令ノ規定ニ依ラサル學校ハ中學校ト稱スルコトヲ得ス

第十八條 本令施行ノ爲メニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第十九條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第二十條 既設ノ尋常中學校分校ニシテ第六條ノ制限ニ超過スルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經テ本令施行ノ日ヨリ五箇年以内存置スルコトヲ得

第二十一條 明治十九年勅令第十五號中學校令第十二條ニ依リ設置シタル農業工業商業等ノ專修

科ハ本令施行ノ日ニ於テ現ニ在學スル生徒ノ卒業スル迄之ヲ存置スルコトヲ得

第二十二條 既設ノ公立尋常中學校ハ本令施行ノ日ヨリ當然中學校ト看做ス

他ノ法令中尋常中學校トアルハ本令施行ノ日ヨリ當然中學校ト看做ス

本令ハ明治四十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十條ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス(明治四十年勅令第二(百八十號ヲ以テ追加))

修業年限四箇年ノ尋常小學校ノ課程ヲ卒リタル者ノ入學ニ付テハ第十條施行後ト雖仍從前ノ例ニ依ル(七)

○中學校令施行規則

明治三十四年三月五日  
文部省令第三號

第一章 學科及其ノ程度

- 第二章 學年教授日數及式日
- 第三章 編制
- 第四章 設備
- 第五章 設置及廢止
- 第六章 入學、在學、退學及懲戒
- 第七章 補則
- 第八章 附則

中學校令施行規則

第一章 學科及其ノ程度

- 第一條 中學校ノ學科目ノ修身、國語及漢文、外國語、歷史、地理、數學、博物、物理及化學、法制及經濟、圖畫、唱歌、唱歌、體操トス
- 外國語ハ英語、獨語又ハ佛語トス
- 法制及經濟、唱歌ハ當分ノヲ缺クコトヲ得
- 第二條 修身ハ教育ニ關スル勸語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ中等以上ノ社會ニ於ケル男子ニ必要ナル品格ヲ具ヘシメンコトヲ期シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス
- 修身ハ初ハ嘉言善行等ニ徴シ生徒ノ日常ノ行狀ニ因ミテ道德ノ要領ヲ教示シ進ミテハ稍、秩序ヲ整ヘテ自己、家族、社會及國家ニ對スル責務ヲ知ラシメ又倫理學ノ一斑ヲ授クヘシ
- 第三條 國語及漢文ハ普通ノ言語文章ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ得シメ文學上

ノ趣味ヲ養ヒ兼テ智德ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語及漢文ハ現時ノ國文ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ノ國文ニ及ホシ又實用簡易ナル文ヲ作ラシメ文法ノ大要、國文學史ノ一般ヲ授ケ又平易ナル漢文ヲ講讀セシメ且習字ヲ授クヘシ

第四條 外國語ハ普通ノ英語、獨語又ハ佛語ヲ了解シ且之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ兼テ智識ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス

外國語ハ發音、綴字ヨリ始メ簡易ナル文章ノ讀方、譯解、書取、作文ヲ授ケ進ミテハ普通ノ文章ニ及ホシ又文法ノ大要、會話及習字ヲ授クヘシ

第五條 歷史ハ歷史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、邦國盛衰ノ由ル所ヲ理會セシメ特ニ我國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニスルヲ以テ要旨トス

歷史ハ日本歷史及外國歷史トス日本歷史ニ於テハ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ重要ナル事蹟ヲ授ケ外國歷史ニ於テハ世界大勢ノ變遷ニ關スル事蹟ヲ主トシ著名ナル諸國ノ興亡、人文ノ發達及我國ノ文化ニ關係アル事蹟ノ大要ヲ知ラシムヘシ

第六條 地理ハ地球ノ形狀、運動並ニ地球表面及人類生活ノ狀態ヲ理會セシメ我國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス

地理ハ日本地理並ニ我國ト重要ノ關係アル諸外國ノ地理ノ大要ヲ知ラシメ又地文ノ一斑ヲ授クヘシ

第七條 數學ハ數量ノ關係ヲ明ニシ計算ニ習熟セシメ兼テ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス



數學ハ算術、代數、幾何及三角法ヲ授クヘシ (明治三十五年文部省令第二號ヲ以テ改正)

第八條 博物ハ天然物ニ關スル智識ヲ與ヘ其ノ相互及人生ニ對スル關係ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

博物ハ重要ナル植物、動物、礦物ニ關スル一般ノ智識竝ニ人體ノ構造、生理及衛生ノ大要ヲ授クヘシ

第九條 物理及化學ハ自然ノ現象ニ關スル智識ヲ與ヘ其ノ法制竝ニ人生ニ對スル關係ヲ理會セシムルヲ以テ要旨トス

物理及化學ハ重要ナル物理上及化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用、元素及化合物ニ關スル智識ヲ授クヘシ

第十條 法制及經濟ハ法制及經濟ニ關スル事項ニ就キ國民ノ生活ニ必要ナル智識ヲ得シムルヲ以テ要旨トス

法制及經濟ハ現行法規ノ大要及理財、財政ノ一斑ヲ授クヘシ

第十一條 圖書ハ物體ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ能ヲ得シメ意匠ヲ練リ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

圖書ハ自在畫及用器畫トシ自在畫ニ於テハ寫生畫ヲ主トシ臨畫ヲ加ヘ授ク又時々自己ノ考案ヲ以テ畫カシメ用器畫ニ於テハ幾何畫ヲ授クヘシ

第十二條 唱歌ハ歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ兼テ德性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

唱歌ハ單音唱歌ヲ授ク又便宜輪唱歌、複音唱歌ヲ授クヘシ

第十三條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメテ之ヲ強健ナラシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ精神ヲ快活剛毅ナラシメ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ普通體操及兵式體操トシ普通體操ニ於テハ矯正術、徒手體操、陸鈴體操、球竿體操及棍棒體操ヲ授ク兵式體操ニ於テハ柔軟體操、器械體操、各個教練、小隊教練及中隊教練ヲ授クヘシ

第十四條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學科目	年	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身		一	一	一	一	一
國語及漢文		七	七	七	六	六
外國語		六	六	七	七	七
歷史		三	三	三	三	三
地理		三	三	三	三	三
數學		四	四	四	四	四
博物		二	二	二	二	二
				第一學期 第二學期 第三學期	二 二 二	

明治三十五年  
文部省令第二  
號ヲ以テ改正  
同上

明治三十五年  
文部省令第二  
號ヲ以テ改正

第二編 總則 (中學校令施行規則)

物理及化學					第一學期 第二學期 第三學期 四三三	四
法制及經濟						二
圖畫	一	一	一	一	一	
唱歌	一	一	一	一		
體操	三	三	三	三	三	三
計	二八	二八	二九	三〇	三〇	三〇

法制及經濟ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ每週教授時數ハ便宜他ノ學科目ニ配當スヘシ (明治四十年一月文部省令第二號ヲ以テ改正)

前表ノ外生徒ノ志望ニ依リ第五學年ニ於テ圖畫一時ヲ課スルコトヲ得

體操ハ前表ノ教授時數ヲ三時以內増加シテ之ヲ課スルコトヲ得 (明治四十一年一月文部省令第二號ヲ以テ改正)

第十五條 補習科ノ學科目ハ第一條ノ學科目中ニ就キ之ヲ定ムヘシ但シ土地ノ情況ニ依リ隨意科

目トシテ實業ニ關スル學科目ヲ加フルコトヲ得 (明治四十一年一月文部省令第二號ヲ以テ但書追加)

第二章 學年、教授日數及式日

第十六條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

學年ハ分テ三學期トシ第一學期ハ四月一日ヨリ八月三十一日マテトシ第二學期ハ九月一日ヨリ十二月三十一日マテトシ第三學期ハ翌年一月一日ヨリ三月三十一日マテトス

前二項ノ規定ハ補習科ニ關シテハ之ヲ適用セス

第十七條 教授日數ハ每學年二百日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第十八條 傳染病豫防ノ爲必要ナルトキ其ノ他非常變災アルトキハ臨時休業ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ事由アルトキハ地方長官ハ道廳府縣立以外ノ中學校ノ休業ヲ命スルコトヲ得

第十九條 紀元節、天長節及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第三章 編制

第二十條 中學校ノ生徒數ハ四百人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ六百人マテ之ヲ増スコトヲ得

分校ノ生徒數ハ三百人以下トス

補習科ノ生徒數ハ前學年ニ於テ當該學校ヲ卒業シタル者ノ數ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十一條 學級ハ同學年ノ生徒ヲ以テ之ヲ編制スヘシ

一 學級ノ生徒數ハ五十人以下トス

第二十二條 學級以上ニ於ケル各學年ノ學級數ハ第一學年ノ學級數ニ超過スルコトヲ得ス但シ特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限リニアラス(明治三十六年七月文部省令第二十八號ヲ以テ改正)

前項ノ場合ニ於テ分校ノ學級數ハ本校ノ學級數ニ算入ス(同上)

第二十三條 修身、唱歌及體操ハ學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第二十四條 分校ニハ第四學年以上ノ生徒ヲ置クコトヲ得ス

第二十五條 教員ノ數ハ五學級以下ノ學校ニ於テハ一學級毎ニ二人以上トシ五學級以上一學級ヲ加フル毎ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ増スヘシ但シ一學級毎ニ一人ハ他ノ職ヲ兼テス又ハ他ノ職ヨリ兼テサルコトヲ要ス

第四章 設備

第二十六條 中學校又ハ其ノ分校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備ヘ又必要ノ場合ニハ寄宿舎ヲ設クヘシ(明治三十七年文部省令第三號ヲ以テ改正)

第二十七條 校地、校舍及體操場ハ學校ノ規模ニ適應スルヲ要ス(明治三十七年文部省令第二號ヲ以テ改正)

校地ハ道德上並ニ衛生上害ナキ所タルヘシ校舍ハ教授上、管理上並ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナランコトヲ要ス(同上)

第二十八條 同上削除

第二十九條 同上削除

第三十條 同上削除

第三十一條 同上削除

第三十二條 同上削除

第三十三條 校具ハ圖書、器械、器具、標本、模型及表簿等トス

第三十四條 中學校又ハ其ノ分校ニ於テ備フヘキ表簿ノ種類左ノ如シ

一 中學校ニ關係アル法令

二 學則、日課表、教科用圖書配當表及學校醫視察簿

三 職員ノ名簿、履歷書、出勤簿並ニ擔任學科目及時間表

四 生徒ノ學籍簿、出席簿、身體檢査ニ關スル表及徵兵猶豫ニ關スル書類

五 入學試驗及學年試驗ノ問題、答案及成績表

六 資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書、器械、器具、標本、模型ノ目錄

七 往復書類

生徒學籍簿ニハ生徒ノ氏名、族籍、居所、生年月、入學前ノ學歷、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年卒業ノ年月日入學試驗ノ有無、轉學、退學ノ事由、徵兵事故、保證人ノ氏名及居所等ヲ記載スヘシ(明治三十九年文部省令第二號ヲ以テ改正)

第一項ノ表簿中生徒學籍簿ハ永久之ヲ保存シ其ノ他ノ表簿ハ、五箇年以上之ヲ保存スヘシ

第三十五條 土地ノ情況ニ依リ學校長、舍監及教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第三十六條 校舍、寄宿舎ノ建設又ハ變更ハ道廳府縣立中學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ届出ツヘク其ノ他ノ中學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ(明治三十六年文部省令第四號ヲ以テ改正)

前項ニ依リ地方長官ニ於テ認可ヲ爲シタルトキハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ届出ツヘシ(同上)

第三十七條 (明治三十七年文部省令第三號ヲ以テ削除)

第五章 設置及廢止

第三十八條 中學校又ハ其ノ分校ノ設置ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

一 名 稱

二 生徒定員

三 開校年月

四 經費及維持ノ方法

前項ノ事項ノ外公立學校ニ就キテハ地方長官ニ於テ位置ノ認可ヲ申請シ私立學校ニ就キテハ設立者ニ於テ位置ヲ具シ申請スヘシ

第一項第一號乃至第三號及位置ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前二項ノ位置ニ關スル申請ニハ校地ノ面積、地質、屋外體操場ノ區域、面積並ニ附近ノ情況ヲ記載シタル圖面及飲用水ノ定性分析表ヲ添附スヘシ

第三十九條 中學校又ハ其ノ分校ノ廢止ニ就キ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由及生徒ノ處分

方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

中學校ヲ廢止シタルトキハ三十日以内ニ第三十四條第一項第四號ノ生徒學籍簿ヲ地方長官ニ提出スヘク地方長官ハ十五ヶ年以上之ヲ保存スヘシ監督官廳ノ命令ニ依リ中學校ヲ閉鎖シタルトキ亦同シ(明治三十六年七月文部省令第二十八號ヲ以テ改正)

第四十條 公立中學校ノ費用負擔者ヲ變更シ、私立中學校ヲ公立中學校ニ公立中學校ヲ私立中學校ニ變更シ、若ハ分校ヲ獨立ノ中學校ト爲サントスルトキハ第三十八條第一項ノ事項ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六章 入學、在學、退學及懲戒

第四十一條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ三十日以内トス但シ缺員アルトキハ第二學期ノ始ヨリ十日以内ニ臨時入學セシムルコトヲ得(明治四十一年一月文部省令第二號ヲ以テ改正)

前項ノ規定ハ補習科ノ生徒入學ニ關シテハ之ヲ適用セス(明治三十六年七月文部省令第二十八號ヲ以テ改正)

第五學年ニハ轉學又ハ當該學年ニ於テ退學シタル者ノ再入學ヲ除クノ外新ニ生徒ノ入學ヲ許スコトヲ得(明治四十一年一月文部省令第二號ヲ以テ改正)

第四十二條 第一學年入學志願者中尋常小學校ヲ卒業セサル者ニ就キテハ試驗ニ依リテ其ノ學力ヲ檢定スヘシ(明治四十一年一月文部省令第二號ヲ以テ改正)

第二學年入學志願者中尋常小學校ヲ卒業シタル者ハ其ノ他ノ志願者ニ先チテ入學ヲ許スコトヲ得(同上)

尋常小學校ヲ卒業シタル者ノ數入學ヲ許スヘキ人員ニ超過スルトキハ試驗ニ依リテ入學者ヲ選

扱スヘシ(上)

第四十三條 前條第一項ノ試験ハ國語、算術、日本歴史、地理、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リテ之ヲ行フヘシ(上)

第四十四條 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齢ニ達シ前各學年ノ課程ヲ卒リタル者ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

前項入學者ノ學力ハ前各學年ノ程度ニ於テ其ノ各學科目ニ就キ試験ニ依リテ檢定スヘシ

第四十五條 中學校生徒ニシテ退學シタル者退學シタルトキヨリ一箇年以内ニ於テ中學校ニ入學ヲ志願シタルトキハ同一學年以下ノ學年ニ限リ入學ヲ許可スルコトヲ得(明治三十六年七月文部省令第二十八號ヲ以テ改正)

前項ノ場合ニ於テ其退學シタル中學校ニ再入學ヲ志願シタル者ニ限リ試験ニ依ラサルコトヲ得(上)

第四十六條 他ノ中學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認メタル場合ニ限リ其ノ生徒ノ在學證明書及成績表ヲ移轉先學校ニ送付スヘシ(明治四十一年一月文部省令第二號ヲ以テ改正)

移轉先學校ニ於テハ缺員アル場合ニ限リ前項生徒ノ轉學ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ轉學ヲ許可スル生徒ハ試験ヲ行ハスシテ同一學年ニ編入スルコトヲ得

第四十七條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ但シ正當ノ事由アリテ試験ニ欠席シタル者ニ對シテハ平素ノ學業ノ成績ノミヲ考查シテ之ヲ定ムルコトヲ得(明治三十五年文部省令第二號ヲ以テ改正)

試験ハ分テ學期試験及學年試験トシ學期試験ハ第一學期及第二學期內ニ於テ之ヲ行ヒ學年試験

ハ學年末ニ於テ之ヲ行フヘシ但正當ノ事由アリテ試験ニ欠席シタル者ノ爲特ニ追試験ヲ行フコトヲ得(上)

試験ハ國語及漢文、外國語、數學、圖畫、唱歌、體操ニ就キテハ之ヲ行ハサルコトヲ得

第四十八條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第四十九條 學校長ハ中學校ヲ卒業セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

第五十條 補習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校ヲ卒業シタル者タルヘシ

補習科生徒ノ在學期間ハ中學校ヲ卒業シタル日ヨリ起算シニケ年ヲ超ユルコトヲ得ス(明治四十年文部省令第二號ヲ以テ改正)

補習科ヲ修了シ又ハ退學シタル者補習科ニ再入學スルトキハ其修了又ハ退學前ニ於ケル補習科在學ノ期間ハ之ヲ前項ノ期間ニ算入ス(上)

學校長ハ補習科ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書ヲ授與スルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ退學ヲ命スヘシ

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

三 引續キ一箇年以上缺席シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ引續キ一箇月以上缺席シタル者

五 出席常ナラサル者(明治四十一年一月文部省令第二號ヲ以テ改正)

第五十二條 生徒退學セントスルトキハ學校長ノ許可ヲ受クヘシ

第五十三條 學校長ハ教育上必要ト認めタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第七章 補則

第五十四條 中學校ノ學則ヲ定メタルトキハ遲滯ナク文部大臣ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

一 休業日ニ關スル事項

二 學科課程、教授時數ニ關スル事項

三 課程ノ修了及卒業ノ認定ニ關スル事項 (明治三十五年文部省令第二號ヲ以テ改正)

四 生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項

五 授業料、入學料等ニ關スル事項

六 寄宿舎ニ關スル事項

第五十五條 道廳府縣立以外ノ中學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ

前項ノ文書中、學校ノ設置及廢止ニ關スル申請ニ就キテハ地方長官ハ其ノ意見ヲ具スヘシ

第五十六條 本令中、學校長トアルハ私立學校ニ在リテハ其ノ學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スル者ヲ包含ス

第八章 附則

第五十七條 本令ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第五十八條 本令施行ノ際現ニ中學校ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ニ關シテハ其

ノ生徒ノ卒業スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

第五十九條 明治二十七年文部省令第七號及同第十三號ノ規定ニ依リ設ケタル中學校ノ實科ハ本令ノ施行ノ際現ニ在學スル生徒ノ卒業スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ル

第六十條 明治三十二年文部省令第三號第二十三條乃至第二十五條ノ規定ニ依リ中學校ノ編制及設備ニ關シ文部大臣ノ與ヘタル認可ハ本令ノ規定ニ依リ其ノ効力ヲ失フコトナシ

第六十一條 明治十九年文部省令第十四號、明治二十七年文部省令第七號、同第十三號、明治三十二年文部省令第三號、同第四號、同第十四號、同第三十三號ハ之ヲ廢止ス

(備考)

明治三十五年文部省令第二號ハ同四月一日ヨリ施行

同省令施行ノ際現ニ中學校ニ在學スル生徒ニ課スヘキ學科目及其ノ程度ハ便宜斟酌シテ之ヲ定ムルコトヲ得

明治四十一年文部省令第二號ヲ以テ改正ノ條項ハ同年四月一日ヨリ施行

○高等女學校令

明治三十二年二月七日 勅令第三十一號

第一條 高等女學校ハ女子ニ須要ナル高等普通教育ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 北海道及府縣ニ於テハ高等女學校ヲ設置スヘシ

前項ノ校數ハ土地ノ情况ニ應シ文部大臣ノ指揮ヲ承ケ地方長官之ヲ定ム

第三條 前條ノ高等女學校ノ經費ハ北海道及沖繩縣ヲ除ク外府縣ノ負擔トス

第四條 郡市町村北海道及沖繩縣ノ區ヲ含ム又ハ町村學校組合ハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内小學教  
育ノ施設上妨ナキ場合ニ限リ高等女學校ヲ設置スルコトヲ得

第五條 郡市町村立ノ高等女學校ニシテ府縣立高等女學校ニ代用スルニ足ルヘキモノアルトキハ  
地方長官ニ於テ文部大臣ノ認可ヲ受ケ府縣費ヲ以テ相當ノ補助ヲ與ヘ第二條ノ設置ニ代フルコ  
トヲ得

第六條 私人ハ本令ノ規定ニ依リ高等女學校ヲ設置スルコトヲ得

第七條 高等女學校ノ設置廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ(明治三十二年文部省令第十四號ヲ以テ設置廢止規則公布)

第八條 公立高等女學校ノ位置ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ地方長官之ヲ定ム

第九條 高等女學校ノ修業年限ハ四箇年トス但シ土地ノ情況ニ依リ一箇年ヲ延長スルコトヲ得(明治四十年勅令第二百八十一號ヲ以テ改正)

第十條 高等女學校ニ於テハ二箇年以内ノ補習科ヲ置クコトヲ得(明治四十年勅令第二百八十一號ヲ以テ改正)

第十一條 高等女學校ニ於テハ女子ニ必要ナル技藝ヲ專修セントスル者ノ爲ニ技藝專修科ヲ置ク  
コトヲ得

第十二條 高等女學校ニ於テハ其ノ卒業生ニシテ某學科ヲ專攻セントスル者ノ爲ニ專攻科ヲ置クコトヲ得  
又ハ之ト同等ノ學力ヲ有スル者タルヘシ(上同)

第十三條 高等女學校ノ學科及其ノ程度ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム(明治卅二年文部省令第七號  
スル規  
則公布)

第十四條 高等女學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校  
長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スルノ必要アルトキハ地方長官ハ文部大  
臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

第十五條 高等女學校ノ檢定ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム(明治三十二年文部省令第二十三號  
ヲ以テ教科書檢定規則中追加)

第十六條 高等女學校ノ教員ハ文部大臣ノ授與シタル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ但シ文部大  
臣ノ定ムル所ニ依リ本文ノ免許狀ヲ有セサル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第十七條 公立高等女學校職員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關スル規則ハ別段ノ規定アルモノヲ除  
クノ外地方長官之ヲ定ム(明治四十年勅令第二  
百八十號ヲ以テ改正)

第十八條 公立高等女學校ノ編制及設備ニ關スル規則ハ文部大臣之ヲ定ム(明治三十二年文部省令第五號  
ヲ以テ編制及設備規則公布)

第十九條 公立高等女學校ニ於テハ授業料ヲ徵收スヘシ但シ特別ノ場合ニ於テハ之ヲ減免スルコ  
トヲ得

第二十條 授業料入學料等ノ額ハ公立學校ニ在リテハ地方長官ニ於テ私立學校ニ在リテハ設立者ニ於テ文  
部大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ム(明治四十年勅令第三百  
八十一號ヲ以テ改正)

第二十一條 本令ノ規定ニ依ラサル學校ハ高等女學校ト稱スルコトヲ得ス

第二十二條 本令施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ文部大臣之ヲ定ム

附 則

第二十三條 本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ本令施行ノ日ヨリ四箇年以内第二條ノ設置ヲ延期スルコトヲ得

本令ハ明治四十年八月一日ヨリ之ヲ施行ス但第十條ハ明治四十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス(明治四十年勅令第二百八十二號ヲ以テ追加)

修業年限三箇年ノ高等女學校ハ本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ノ卒業ニ至ル迄仍之ヲ存続スルコトヲ得(同上)

修業年限四箇年ノ尋常小學校ノ課程ヲ卒リタル者ノ入學ニ付テハ第十條施行後ト雖仍從前ノ例ニ依ル(同上)

○高等女學校令施行規則

明治四十一年五月十三日  
文部省令第二十號ヲ以テ改正

- 第一章 學科及其ノ程度
- 第二章 學年、教授日數及式日
- 第三章 編制
- 第四章 設備
- 第五章 設置及廢止
- 第六章 入學、在學、退學及懲戒
- 第七章 補則

第八章 附則

高等女學校令施行規則

第一章 學科及其ノ程度

第一條 高等女學校ノ學科目ハ修身、國語、外國語、歷史、地理、數學、理科、圖畫、家事、裁縫、音樂、體操トス

外國語ハ英語又ハ佛語トス

外國語ハ之ヲ缺キ又ハ隨意科目ト爲スコトヲ得

圖畫音樂ノ一課目又ハ二課目ハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ缺クコトヲ得

第一項ノ學科目ノ外文部大臣ノ認可ヲ受ケ隨意科目トシテ土地ノ情況ニヨリ必要ナル學科目ヲ加フルコトヲ得

生徒身體ノ情況ニヨリ學習スルコト能ハサル學科目ハ之ヲ其生徒ニ課セサルコトヲ得

第三條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キ道德上ノ思想及情操ヲ養成シ中等以上ノ社會ニ於ケル女子ニ必要ナル品格ヲ具ヘシメンコトヲ期シ實踐躬行ヲ勸奨スルヲ以テ要旨トス

修身ハ初ハ嘉言善行等ニ徴シ又生徒日常ノ行狀ニ因ミテ道德ノ要領ヲ教示シ又作法ヲ授ケ進ミテハ稍々秩序ヲ整ヘテ自己、家族、社會及國家ニ對スル責務ヲ知ラシムヘシ

第三條 國語ハ普通ノ言語、文書ヲ了解シ正確且自由ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ得シメ文學上ノ趣味ヲ養ヒ兼テ智徳ノ啓發ニ資スルヲ以テ要旨トス

國語ハ現時ノ文章ヲ主トシテ講讀セシメ進ミテハ近古ノ文章ニ及ホシ又實用簡易ナル文ヲ作ラ



- シメ文法ノ大要及習字ヲ授クヘシ
- 第四條 外國語ハ普通ノ英語又ハ佛語ヲ了解シ且之ヲ運用スルノ能ヲ得シメ兼テ智識ノ増進ニ資スルヲ以テ要旨トス
- 外國語ハ發音、綴字ヨリ始メ簡易ナル文章ノ讀方、譯解、書取、作文ヲ授ケ進ミテハ普通ノ文章ニ及ホシ又文法ノ大要、會話及習字ヲ授クヘシ
- 第五條 歴史ハ歷史上重要ナル事蹟ヲ知ラシメ社會ノ變遷、文化ノ由來ヲ理會セシメ特ニ我國ノ發達ヲ詳ニシ國體ノ特異ナル所以ヲ明ニスルヲ以テ要旨トス
- 歴史ハ我國ノ國初ヨリ現時ニ至ルマテノ重要ナル事歴ヲ授ケ兼テ外國歴史ノ大要ヲ授クヘシ
- 第六條 地理ハ地球ノ形狀、運動並ニ地球表面及人類生活ノ狀態ヲ理會セシメ我國及諸外國ノ國勢ヲ知ラシムルヲ以テ要旨トス
- 地理ハ日本地理並ニ我國ト重要ノ關係アル諸外國ノ地理ノ大要ヲ知ラシメ兼テ地文ノ一斑ヲ授クヘシ
- 第七條 數學ハ數量ノ關係ヲ明ニシ計算ニ習熟セシメ兼テ生活上必要ナル事項ヲ知テシメ思考ヲ精確ナラシムルヲ以テ要旨トス
- 數學ハ算術ヲ授クヘシ又必要ニ應シ代數ノ初步及幾何ノ初步ヲ授クルコトヲ得
- 第八條 理科ハ天然物及自然ノ現象ニ關スル智識ヲ與ヘ其ノ法則並ニ其ノ相互及人生ニ對スル關係ヲ理會セシメ兼テ日常生活ニ資スルヲ以テ要旨トス
- 理科ハ重要ナル植物、動物、礦物ニ關スル一般ノ智識、人體ノ構造、生理及衛生ノ大要並ニ重

- 要ナル物理上及化學上ノ現象及定律、器械ノ構造及作用、元素及化合物ニ關スル智識ヲ授クヘシ
- 第九條 圖書ハ物體ヲ精密ニ觀察シ正確且自由ニ之ヲ畫クノ能ヲ得シメ意匠ヲ練リ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス
- 圖書ハ自在畫トシ寫生畫ヲ主トシ臨畫ヲ加ヘ授ケ又時々自己ノ考案ヲ以テ畫カシムヘシ
- 前項ノ外幾何畫ノ初步ヲ授クルコトヲ得
- 第十條 家事ハ家事整理上必要ナル智識ヲ得シメ兼テ勤勉、節儉、秩序、周密、清潔ヲ尙フノ念ヲ養フヲ以テ要旨トス
- 家事ハ衣食住、看病、育兒、家計簿記其ノ他一家ノ整理、經濟等ニ關スル事項ヲ授クヘシ
- 第十一條 裁縫ハ裁縫ニ關スル智識技能ヲ得シメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
- 裁縫ハ普通ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方及繕ヒ方ヲ授クヘシ
- 第十二條 音樂ハ音樂ニ關スル智識技能ヲ得シメ美感ヲ養ヒ心情ヲ高潔ニシ兼テ德性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス
- 音樂ハ單音唱歌ヲ授ケ又便宜輪唱歌及複音唱歌ヲ交ヘ樂器使用法ヲ授クヘシ
- 第十三條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメテ之ヲ強健ナラシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ容儀ヲ整ヘ精神ヲ快活ニシ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
- 體操ハ普通體操及遊戲トシ普通體操ニ於テハ矯正術、徒手體操、啞鈴體操ヲ授ケ又便宜球竿體操及豆囊體操ヲ授クヘシ
- 第十六條 各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學 科 目	年											
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	計	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	
修身	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
國語	六	六	六	五	五	六	六	六	五	五	五	五
外國語	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
地理	三	三	三	二	二	三	三	三	二	二	二	三
數學	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
理科	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
圖畫	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
家事	四	四	四	二	二	四	四	四	二	二	二	二
裁縫	四	四	四	二	二	四	四	四	二	二	二	二
音樂	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
體操	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

修業年限ヲ延長シタルトキハ各學年ニ於ケル各學科目ノ每週教授時數ハ左表ニ依ルヘシ

學 科 目	年											
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	計	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年	
修身	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
國語	六	六	六	五	五	六	六	六	五	五	五	五
外國語	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
地理	三	三	三	二	二	三	三	三	二	二	二	三
數學	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
理科	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
圖畫	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
家事	四	四	四	二	二	四	四	四	二	二	二	二
裁縫	四	四	四	二	二	四	四	四	二	二	二	二

音	二	二	二	二	二
樂	二	二	二	二	二
體	三	三	三	三	三
操	三	三	三	三	三
計	二八	二八	二八	二八	二八

外國語圖書音樂ヲ缺キタル學校ニ於テハ其ノ每週教授時數ハ便宜前二表ノ學科目ニ配當スヘシ  
裁縫ノ每週教授時數ハ六時以內増加スルコトヲ得

第一條第五項ニヨル加設科目ニ充ツル爲各學年ノ每週教授時數ヲ六時以內増加スルコトヲ得但  
シ加設科目中實習ニ屬セサルモノニ充ツル爲増加スル時數ハ二時ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ外土地ノ情況ニヨリ前二表中各學年ノ科目ノ各學年配當又ハ每週教授時數ヲ變更スル  
ノ必要アルハ其事由ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ各學年每週教授時數ノ増加時數ハ  
二時ヲ超ユルコトヲ得ス

前三項ノ規定ニ依リ每週教授時數ヲ増加スルトキハ其増加時數ハ合計六時ヲ超ユルコトヲ得ス

第十七條 補習科ノ學科目ハ第一條ノ學科目中ニ就キ之ヲ定ムヘシ  
補習科ノ各學科目ハ隨意科目ト爲スコトヲ得

第十八條 技藝專修科ノ修業年限ハ二箇年乃至四箇年トス

第十九條 技藝專修科ノ學科目及其程度ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

技藝專修科ノ學科目中ニハ修身、國語及體操ヲ加フヘシ  
第二十條 專攻科ノ修業年限ハ二箇年又ハ三箇年トス

第二十二條 專攻科ノ學科目及其ノ程度ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 補習科、技藝專修科及專攻科ノ每週教授時數ハ三十時以內トス

但シ特別ノ事情アルハ文部大臣ノ認可ヲ受ケ三十四時迄之ヲ増加スルコトヲ得

第二章 學年、教授日數及式日

第二十三條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

前項ノ規定ハ補習科ニ關シテハ適用セス

第二十四條 教授日數ハ每學年二百日以上トス但シ次條ノ場合及特別ノ事情ニ依リ文部大臣ノ許  
可ヲ受ケタル場合ニ於テハ此ノ限ニ非ス

試驗及修學旅行ニ充ツル日數ハ前項ノ日數ニ算入セス

第二十五條 傳染病豫防ノ爲必要ナル時其他ノ非常變災アルハ臨時休業ヲナサシムルコトヲ得

前項ノ事由アルハ地方長官ハ道府縣立以外ノ高等女學校ノ休業ヲ命スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ事由ヲ具シ遲滞ナク文部大臣ニ届出スヘシ

第二十六條 紀元節、天長節、及一月一日ニハ職員及生徒學校ニ參集シテ祝賀ノ式ヲ行フヘシ

第二十七條 (同上削除)

第二十八條 (同上削除)

第二十九條 (同上削除)

第三章 編 制

第二十七條 高等女學校ノ生徒數ハ四百人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ六百人マテ之ヲ増

スコトヲ得

補習科及専攻科ノ生徒數ハ前項ノ生徒數ニ算入セス

第二十八條 學級ハ同學年ノ生徒ヲ以テ編制スヘシ、一學級ノ生徒數ハ五十人以下トス

第二十九條 修身、裁縫、音樂、体操及隨意科目ハ教授上支障ナキ場合ニ限り學科學年又ハ學級ノ異ナル生徒ヲ合シテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得

第三十條 教員ノ數ハ五學級以下ノ學校ニ於テハ一學級毎ニ二人以上トシ五學級以上一學級ヲ加フル毎ニ一人半以上ノ割合ヲ以テ之ヲ増スヘシ但シ一學級毎ニ一人ハ他ノ職ヲ兼テス又ハ他ノ職ヨリ兼テサルコトヲ要ス

#### 第四章 設 備

第三十一條 高等女學校ニ於テハ校地、校舍、體操場及校具ヲ備フヘシ

道府縣立高等女學校及之ニ代用スヘキ公立高等女學校ニ於テハ前項ノ外成ルヘク寄宿舎ヲ備フヘシ

第三十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ教育上並ニ衛生上害ナキ所タルヘシ

第三十三條 校舍ハ教授上、管理上、並ニ衛生上適當ニシテ質朴堅牢ナランコトヲ要ス

第三十四條 校具ハ圖書、器械、器具、標本、模型、及表簿等トス

第三十五條 高等女學校ニ於テ備フヘキ表簿ノ種類左ノ如シ

一、高等女學校ニ關係アル法令

二、學則、日課表、教科用圖書配當表、及學校醫診察簿

三、職員名簿、履歷書、出勤簿並ニ擔任學科目及時間表

四、生徒ノ學籍簿、出席簿、及身體檢查ニ關スル表

五、試験ノ問題、答案及成績表

六、資産原簿、出納簿、經費ノ豫算決算ニ關スル帳簿及圖書、器械、器具、標本、模型ノ目錄

七、往復書類

前項ノ表簿中生徒學籍簿ハ十ヶ年以上之ヲ保存シ其他ノ表簿ハ五ヶ年以上之ヲ保存スヘシ

第三十六條 土地ノ情況ニヨリ學校長、舍監及教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第三十七條 校舍、寄宿舎ノ建設又ハ變更ハ道府縣立高等女學校ニ在リテハ圖面ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ニヨリ地方長官ニ於テ認可シタルトキハ圖面ヲ具シ文部大臣ニ届出ツヘシ

#### 第五章 設置及廢止

第三十八條 高等女學校ノ設置ニツキ認可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

一、名稱

二、各學年ノ修業年限

三、各學年ノ生徒定員

四、開校年月

五、經費及維持ノ方法

前項ノ事項ノ外公立學校ニ就キテハ地方長官ニ於テ位置ノ認可ヲ申請シ私立學校ニ就キテハ設立者ニ於テ位置ヲ具シ申請スヘシ

第一項第一號乃至第四號及位置ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ第三號ノ變更ニシテ總定員ニ増減ヲ生セサル場合ニ於テハ文部大臣ニ届出ツヘシ

前二項ノ位置ニ關スル申請ニハ校地ノ面積、地質屋外体操場ノ區域、面積竝ニ附近ノ情況ヲ記載シタル圖面及飲料水ノ定性分析表ヲ添付スヘシ

第三十九條 高等女學校ノ廢止ニツキ認可ヲ受ケントスルハ其事由及生徒ノ處分方法ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ

第四十條 公立高等女學校ノ費用負擔者ヲ變更シ私立高等女學校ヲ公立高等女學校ニ公立高等女學校ヲ私立高等女學校ニ變更セントスルハ第三十八條第一項第一號乃至第三號第五號及變更ノ年月日ヲ具シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六章 入學、在學、退學及懲戒

第四十一條 第一學年入學志願者中尋常小學校ノ課程ヲ卒ラサル者ニ就キテハ試驗ニ依リテ其學力ヲ檢定スヘシ

第一學年入學志願者中尋常小學校ノ課程ヲ卒リタルモノハ其ノ他ノ志願者ニ先テテ入學ヲ許スコトヲ得

第四十二條 前條第一項ノ試驗ハ國語、算術、日本地理、歴史、理科ニ就キ尋常小學校卒業ノ程度ニ依リ之ヲ行フヘシ

第四十三條 第二學年以上ニ入學ヲ許スヘキ者ハ相當年齢ニ達シ相當ノ學力ヲ有スルモノタルヘシ

前項ノ學力ハ試驗ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

第四十四條 高等女學校生徒ニシテ退學シタル者一ケ年以内ニ其ノ高等女學校若クハ他ノ高等女

學校ニ入學ヲ志願シタルトキハ試驗ニ依ラスシテ原學年以下ノ學年ニ入學ヲ許可スルコトヲ得

第四十五條 他ノ高等女學校ニ轉學ヲ志望スル生徒アルハ學校長ハ正當ノ理由アリト認めタル

場合ニ限リ其生徒ノ在學証明書及成績表ヲ移轉先學校ニ送附スヘシ

移轉先學校ニ於テハ缺員アル場合ニ限リ前項生徒ノ轉學ヲ許可スルコトヲ得

轉學スル生徒ハ試驗ヲ行ハスシテ同一學年ニ編入スルコトヲ得

第四十六條 各學年ノ課程ノ修了又ハ卒業ヲ認ムルニハ平素ノ學業ヲ考查シテ之ヲ定メ又ハ平素

ノ學業及試験ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ

第四十七條 補習科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ高等女學校ヲ卒業シタルモノタルヘシ

第四十八條 技藝專修科ノ入學資格ハ年齡滿十二年以上學力尋常小學校ノ卒業ノ程度以上ニ於テ

之ヲ定ムヘシ

入學ニ關シテハ第四十一條乃至第四十三條ノ規定ニ依ルヘシ

第四十九條 學校長ハ一學年ノ課程ヲ修了セサル生徒ノ學年ヲ進ムルコトヲ得ス

第五十條 學校長ハ修業年限ノ終リニ於テ高等女學校ノ學業ヲ卒業セリト認めタルモノニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

學校長ハ補習科又ハ專攻科ヲ修了セリト認めタルモノニハ修業證書ヲ授與スルコトヲ得

第五十一條 學校長ハ左ノ各項ニ該當スルモノニハ退學ヲ命スヘシ

- 一、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタルモノ
- 二、成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三、出席常ナラサルモノ

第五十二條 學校長ハ教育上必要ト認メタルトキハ生徒ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第七章 補 則

第五十三條 高等女學校ノ學則ヲ定メタルトキハ遲滞ナク文部大臣ニ届出ツヘシ其之ヲ變更シタルトキ亦同シ

學則中ニ規定スヘキ事項凡左ノ如シ

- 一、休業日ニ關スル事項
- 二、學科課程、教授時數ニ關スル事項
- 三、課程ニ依リ及卒業ノ認定ニ關スル事項
- 四、生徒ノ入學、退學、懲戒ニ關スル事項
- 五、授業料入學料ニ關スル事項
- 六、寄宿舎ニ關スル事項

第五十四條 道府縣立以外ノ高等女學校ニ關シ文部大臣ニ提出スヘキ文書ハ地方長官ヲ經由スヘシ

前項ノ文書中學校ノ設置及廢止ニ關スル申請ニ就キテハ地方長官ハ其意見ヲ具スヘシ

第五十五條 本令中學校長トアルハ私立學校ニアリテハ其學校ヲ代表シ校務ヲ掌理スルモノヲ包

合ス

第八章 附 則

第五十六條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十七條 明治三十四年文部省令第四號高等女學校令施行規則第三十七條及第三十八條ノ規定ハ本令ニヨリ其効力ヲ失フコトナシ

第五十八條 第一條第五項ノ學科目ニシテ從來ノ規定ニヨリ加設セルモノハ總テ本令ニヨリ認可ヲ受ケタルモノト見做ス

○中學校高等女學校實業學校設置ノ爲町村學校組合ヲ設クルコトヲ得ル規定

明治二十六年五月十七日勅令第三十三號

第一條 町村ハ中學校高等女學校又ハ實業學校ヲ設置センカ爲メ町村制第百十六條第一項ニ依リ町村學校組合ヲ設クルコトヲ得

前項ノ學校組合ヲ解カントスルトキハ町村制第百十八條ニ依ル

第二條 前條ノ場合ニ於テ郡長ハ府縣知事ノ指揮ヲ受クヘシ

(參照)

町村制

第百十六條第一項

數町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メ其協議ニ依リ監督官廳ノ許可ヲ得テ其町村ノ組合ヲ設クルコトヲ得

第百十八條 町村組合ハ監督官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解クコトヲ得ス

第二編

總則（中學校高等女學校實業學校設置ノ爲町村學校組合ヲ設クルコトヲ得ル規定）

○學校及圖書館名稱ニ道廳府縣郡市町村私立等ノ文字冠用方

明治三十四年四月二十日 文部省令第十一號

師範學校及小學校ヲ除ク外學校及圖書館ノ名稱ニハ費用負擔ノ區別ニ從ヒ道廳府縣立、郡立、市町村立又ハ私立等ノ文字ヲ冠スヘシ  
既設學校ノ名稱ハ前項ニ依リ本令施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ改稱シ當省ヘ開申スヘシ

○徵兵事務條例第五十五條ニ依リ學校長ノ交付スル在學證明書

ニ關スル規程 明治三十六年十二月二十六日 文部省令第三十九號

第一條 徵兵事務條例第五十五條ニ依リ學生、生徒ニ在學證明書ヲ交付スルトキハ左ノ書式ニヨルヘシ

番號	在學證明書	原籍	氏名
在學ノ學科及學年			氏名
入學ノ年月日			生年月日
徵兵事務條例第五十五條ニ依リ在學ヲ証明ス		學校所在地	何々學校長 氏名
			名印
		年月日	

第二條 學校長ハ在學證明書交附名簿ヲ調制シ前條ノ證明書ヲ交付スルトキハ證明書ノ番號ヲ該名簿ニ記入シ且證明書ト名簿トニ割印ヲナスヘシ

第三條 卒業若クハ退學等ニヨリ第一條ノ證明書ヲ交付シタル學生、生徒ノ學籍ヲ除キタルトキハ學校長ハ其除籍ノ事由及年月日ヲ十四日以内ニ原籍地ノ市長(北海道、沖繩縣、東京市、京都市及大阪市ニ在リテハ區長)町村長(町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ町村長ニ準スヘキモノ)ニ通知スヘシ

附則 明治十八年文部省達第一號ハ之ヲ廢止ス

○在學徵兵猶豫者監督方

明治三十七年一月九日 文部省訓令第一號

兵役ハ臣民カ國家ニ對シテ負擔スル重大ナル義務タルニ拘ラス一定ノ學校ニ在學スル者ニ對シ徵集猶豫ノ特典ヲ與ヘラル、ハ國家カ教育ヲ重シ之ヲ獎勵スルノ趣旨ニ出タルヤ明ナリ然ルニ往々此特典ヲ濫用シ名ヲ在學ニ藉リテ徵集猶豫ヲ受ケントシ學校ニ於テモ亦別ニ注意ヲ加フル處ナクシテ容易ニ之ヲ認容スルモノアリト聞ク此ノ如キハ實ニ徵集猶豫ノ本旨ニ背反スルノミナラス又臣民ノ本分ヲ愆ルモノト謂フヘシ地方長官ハ深ク此ノ點ニ留意シ徵兵令上ノ特典ヲ有スル學校ニ對シテハ客年本省令第三十九號ノ手續ヲ實行セシムルハ勿論其ノ生徒ノ入學在學出席退學ニ關シ常ニ精確ノ調査ヲナサシムル等特ニ監督ヲ嚴正ニシ苟モ徵兵忌避ノ疑アルカ如キ場合ニ於テハ速ニ其ノ情況ヲ本大臣ニ具申シ又法令ノ命スル所ニ從ヒテ相當ノ所置ヲ爲スコトヲ怠ラサルヘシ

臺灣總督府國語學校第二附屬高等女學校及卒業者他學校へ入

轉學ノ件

明治三十八年四月十八日 文部省令第六號

臺灣總督府國語學校第三附屬高等女學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校へ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第三十一號高等女學校令ニ依リ設置シタル府縣立高等女學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

清國人ヲ入學セシムル公私立學校ニ關スル規程

明治三十八年十一月二日 文部省令第十九號

清國人ヲ入學セシムル公私立學校ニ關スル規程ヲ定ムルコト左ノ如シ

清國人ヲ入學セシムル公立學校ニ關スル規程

第一條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ清國人ノ入學ヲ許可セントスルトキハ其ノ入學願書ニ本邦所在ノ清國公館ノ紹介書ヲ添付セシムヘシ

第二條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ清國人生徒ニ對シ本人ノ志望ニ依リ其ノ學校所定ノ學科目中一科目若ハ數科目ヲ闕カシムルコトヲ得

第三條 清國人ヲ入學セシムル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ其ノ教育ニ關係スル職員ノ名簿、清國人生徒ノ學籍簿、出席簿及往復書類綴ヲ備フヘシ

前項ノ學籍簿ニハ生徒ノ氏名、原籍、年齡、居所、入學前ノ經歷、入學ヲ紹介シタル官廳ノ名

稱、官費私費ノ區別、賞罰、入學轉學退學ノ年月日及其ノ學年、半業ノ年月日、轉學退學ノ事由ヲ記載スヘシ

第四條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ清國人生徒ノ轉學又ハ退學ヲ許可セントスルトキハ其ノ願書ニ本邦所在ノ清國公館ハ承認書ヲ添付セシムヘシ

第五條 清國人ヲ入學セシムル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ毎年一月及七月ノ二回ニ其ノ前六箇月間ニ入學ヲ許可シタル清國人生徒ノ員數ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

前項ノ規定ハ清國人生徒ノ轉學者、退學者及卒業者ニ關シ之ヲ準用ス

第六條 公立又ハ私立ノ學校ニ於テ清國人生徒卒業シ又ハ之ニ退學ヲ命シタルトキハ一箇月以内ニ其ノ氏名及退學ヲ命シタル事由ヲ本人ノ入學ヲ紹介シタル清國公館ニ報告スヘシ

第七條 清國人ヲ入學セシムル公立又ハ私立ノ學校中文部大臣ニ於テ適當ト認ムルモノハ特ニ之ヲ選定シ清國政府ニ通告ス

第八條 公立又ハ私立ノ學校ニシテ前條ノ選定ヲ受ケントスルトキハ管理者又ハ設立者ニ於テ左ノ事項ヲ具シ文部大臣ニ申請スヘシ但シ特別ノ規定ニ依リ既ニ開申シ若ハ認可ヲ得タル事項ハ之ヲ省畧スルコトヲ得

- 一 清國人教育ニ關スル沿革
- 二 學則中清國人教育ニ關スル規定
- 三 學校長若ハ學校代表者ノ履歷
- 四 教員ノ氏名、資格、學業經歷及分擔學科目



- 五 清國人生徒定員及學年學級別現在員數
- 六 清國人生徒校外監督ノ方法
- 七 清國人卒業者ノ員數及卒業後ノ情況
- 八 清國人生徒ニ充ツル校地校舍及寄宿舎ノ圖面經費及維持ノ方法
- 九 教科書、教授用器具、器械及標本ノ目錄
- 前項第二號及第八號ノ變更ハ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第九條 選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ清國人生徒ヲシテ寄宿舎又ハ學校ノ監督ニ屬スル下宿等ニ宿泊セシメ校外ノ取締ヲナスヘシ
- 第十條 選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ハ他ノ學校ニ於テ性行不良ナルカ爲退學ヲ命セラレタル清國人ヲ入學セシムルコトヲ得ス
- 第十一條 文部大臣ハ必要ト認メタルトキハ吏員ヲシテ選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ノ試驗ニ立會ハシメ又ハ試驗問題又ハ其ノ答案ヲ査閲セシムルコトアルヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ試驗ノ問題又ハ方法中不適當ト認メタルモノアルトキハ當該吏員ハ其變更ヲ命スルコトヲ得
- 試驗問題答案及成績表ハ少クトモ五箇年間之ヲ保存スヘシ
- 第十二條 選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ニ於テハ每學年終了後一箇月以内ニ其清國人生徒ノ教育上ノ經過ヲ文部大臣ニ報告スヘシ

- 第十三條 選定ヲ受ケタル公立又ハ私立ノ學校ニシテ此規定ニ違背シ又ハ其ノ成績不良ナリト認メタルトキハ文部大臣ハ其選定ヲ取消スコトアルヘシ
  - 第十四條 本令ノ規定ニ依リ文部大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ
  - 第十五條 本令ノ規定ハ小學校及小學校ニ類スル各種學校ニ關シ之ヲ適用セス
- 附 則
- 本令ハ明治三十九年一月一日ヨリ施行ス

○臺灣總督府中學校及臺灣總督府高等女學校生徒及卒業者ノ他

ノ學校ヘ入轉學ニ關スル規程

明治四十年十一月十五日  
文部省令第三十五號

- 第一條 臺灣總督府中學校第二部ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第二十八號中學校合ニ依リ設置シタル府縣立中學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク
- 第二條 臺灣總督府高等女學校ノ生徒及卒業者ハ他ノ學校ヘ入學轉學ノ關係ニ就キ明治三十二年勅令第三十一號高等女學校合ニ依リ設置シタル府縣立高等女學校ノ生徒及卒業者ト同一ノ取扱ヲ受ク

○本縣立學校ノ名稱ハ總テ愛媛縣立ノ文字冠用方

明治三十四年九月十八日  
愛媛縣告示第二百七十四號

明治三十四年文部省令第十一號ニ依リ師範學校ヲ除ク外本縣立學校ノ名稱ハ總テ愛媛縣立ノ四字ヲ冠ス

○縣立學校長事務取扱規程

明治三十七年五月二十一日  
愛媛縣訓令第二十八號

縣立學校

縣立學校長事務取扱規程左ノ通之ヲ定ム

縣立學校長事務取扱規程

- 第一條 左ニ掲クル事項ニ就キテハ意見ヲ具シ知事ニ上申スルコトヲ得ヘシ (明治四十年愛媛縣訓令第十九號ヲ以テ改正)
- 一、規則ノ制定改正ニ關スル事
- 二、職員ノ任免賞罰ニ關スル事
- 第二條 左ニ掲クル事項ニ就キテハ事情ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ (同上)
- 一、學校長職員管外出張ニ關スル事
- 二、性行不良ニ依ル生徒退學處分ニ關スル事
- 第三條 左ニ掲クル事項ヲ專行スヘシ但第一乃至第六ハ施行前之ヲ開申シ其他ハ施行後直ニ之ヲ開申スヘシ (同上)

- 一、細則ノ制定改正ニ關スル事
  - 二、學校長職員ノ管内出張ニ關スル事
  - 三、生徒修學旅行ニ關スル事
  - 四、俸給月額拾貳圓未滿ノ雇職員進退賞罰ニ關スル事
  - 五、生徒退學及懲戒處分ニ關スル事
  - 六、職員ノ除服及通常ノ諸願屆處理ニ關スル事
  - 七、校長不在ノトキ職員ニ事務代理ヲ命スル事
  - 八、生徒募集及入退學ニ關スル事
  - 九、職員事務分掌ニ關スル事
- 第四條 第一條乃至第三條ニ明文ナキ事項ハ事ノ輕重ニ依リ類推シテ處理スヘシ (同上)

◎教 則 附生徒訓練

○中學校教授要目

明治三十五年二月六日  
文部省訓令第三號

北海道廳 府縣

今般本省ニ於テ左ノ通中學校教授要目ヲ編纂セリ地方長官ハ宜ク各中學校長ヲシテ之ヲ斟酌シ適當ナル教授細目ヲ定メ以テ各學科教授ノ效果ヲ完カラシメンコトヲカムヘシ  
中學校教授要目

本要目實施上ノ注意

修身

國語及漢文

外國語

歷史

地理

數學

博物

物理及化學

法制及經濟

圖畫

唱歌

體操

中學校教授要目

本要目實施上ノ注意

- 一 中學校ニ於ケル教授ハ常ニ訓育ト相待チテ高等普通教育ノ目的ヲ達センコトヲ期スヘシ
- 二 教授ハ各學科目固有ノ目的ヲ失ハサランコトニ留意シ相互ノ連絡ヲ保チテ全體ノ統一ヲ圖ルヘシ

三 教授ハ漫ニ繁多ノ事項ニ涉リ又ハ形式ニ流ル、コトナク生徒ヲシテ正確ニ理會シ應用自在ナラシメンコトヲ期スヘシ

四 學科目ノ性質上止ムヲ得サルモノ、外ハ教科書ヲ用ヒテ之ヲ教授スヘシ  
 教科書ハ常ニ之ヲ活用センコトニ留意シ之カ爲ニ箝束セラレサランコトヲカムヘシ  
 教科書ハ其ノ選擇ヲ慎ミ濫ニ之ヲ變更スルコトアルヘカラス

五 教授ハ學年ノ始ニ精クシテ其ノ終ニ粗ナルカ如キ弊ニ陥ラサランコトヲ要ス  
 六 各學校ニ於ケル教授實施ノ日數ハ之ヲ一定シ難シト雖モ第一學期及第二學期ハ各凡七十五日  
 第三學期ハ凡五十五日ニ下ラサランコトヲ要ス

七 教授用備品ハ教授上差支ナキ限必シモ正式精緻ノモノタルコトヲ要セス成ルヘク日用品ヲ利用シ又ハ教員自ラ製作シテ之ニ充テントカムヘシ  
 諸學科目ニ通スル備品ハ教授上差支ナキ限成ルヘク之ヲ兼用スヘシ必シモ各別ニ之ヲ備フルコトヲ要セス

八 學校所在地ニ圖書館、博物館、工場、試驗場等ノ設アルトキハ之ヲ利用スルコトヲ怠ルヘカラス

修身 第一學年及第二學年

每週一時

道德ノ要領

嘉言善行等ニ徴シ生徒日常ノ行狀ニ因ミテ近易ノ事項ヲ授クヘシ其ノ目ハ概テ次ノ如シト雖モ

必シモ之ニ拘ラス又整然秩序ヲ設クルコトヲ要セス生徒學力ノ進度ト時機トニ適應シ實踐ニ適切ナラシムヘシ

生徒心得

當該學校ノ規則、師長ニ對スル心得、生徒ノ本分等

衛生ニ關スル心得

運動ヲ勉ムヘキコト、飲食ヲ節制スヘキコト、身體衣類住居ヲ清潔ニスヘキコト等

修學ニ關スル心得

志操ヲ堅固ニスヘキコト、學業ニ精勵ナルヘキコト、困難ヲ忍フヘキコト等

朋友ニ對スル心得

信義ヲ重ンスヘキコト、愛情ヲ以テ交ハルヘキコト、互ニ助力スヘキコト等

起居動作ニ關スル心得

時ヲ貴フヘキコト、秩序ヲ整フヘキコト、禮容ヲ重ンスヘキコト等

家庭ニ於ケル心得

父母ニ孝ナルヘキコト、兄弟ニ友ナルヘキコト等

國家ニ對スル心得

國體ヲ尊崇スヘキコト、國法ニ遵フヘキコト、義勇公ニ奉スヘキコト等

社會ニ對スル心得

長者ヲ尊フヘキコト、公德ヲ尚フヘキコト、自己ノ地位職業ニ對スル責任ヲ重ンスヘキコト等

修德ニ關スル心得

主要ナル諸德ノ説明及其ノ實踐ノ方法、誘惑ノ危險ナルコト、操持ヲ完ウスヘキコト等

第三學年及第四學年

每週一時

道德ノ要領

自己ニ對スル責務

身體

健康 生命

精神

知 情意

自立

職業 財產

人格

家族ニ對スル責務

父母 兄弟、姊妹 子女 夫婦 親族 祖先、家門 婢僕

社會ニ對スル責務

個人

他人ノ人格 他人ノ身體、財產、名譽 秘密、約束等 恩誼 朋友 長幼、貴賤、主從等 女性

公衆

協同 社會ノ秩序 社會ノ進歩

所屬團體

國家ニ對スル責務

國體

皇室

忠君 皇祖、皇宗 皇運

國家

國憲 國法 愛國 兵役 租稅 教育 公務 公權 國際

人類ニ對スル責務

萬有ニ對スル責務

動物 天然物 眞、善、美

前記ノ目ハ主トシテ責務ノ對象タルヘキモノナレハ之ニ就キテ主要ナル責務ヲ授クヘシ例ヘハ自己ノ精神ノ目ニ於テハ智能ヲ練磨シ情慾ヲ制シ情操ヲ養ヒ意志ヲ鍛練シ常識ヲ養フヘキコト等又他人ノ人格ノ目ニ於テハ其ノ權利、思想、信仰、感情、希望等ヲ推重スヘキコト等成ルヘ

少遺漏ナク舉ケンコトヲ要ス 責務ト關聯シテ德ヲ説明シ諸責務及諸德相互ノ關係ヲ知ラシメ且嘉言善行等ヲ引用シテ之ヲ心裏ニ浸潤セシムヘシ

第五學年

每週一時

倫理學ノ一班

行爲ノ要素、良心、理想、責務、修德ノ工夫、倫理法ト自然法トノ關係等ノ簡單ナル解説

道德ノ要領

前各學年中授ケタル事項ノ總攬

教授上ノ注意

一 格言例話ヲ引用スルニハ必シモ其ノ多キヲ求メテ現代ノ時勢ト生徒ノ境遇トニ適切ナルモノヲ選フヘシ詭激ナル例話ハ成ルヘク之ヲ避クヘシ若シ偶々之ニ及フコトアルトキハ其ノ應用ヲ誤ラシメザランコトニ留意スヘシ

二 責務ヲ授クルニハ生徒將來ノ地位職業等ノ差別アルコトニ注意シ其ノ各方面ニ亘リテ之カ應用ヲ知ラシムヘシ

三 第二學年又ハ第三學年ニ於テハ生徒ノ身體及精神漸ク變動ヲ起シ内外ノ誘惑ニ陥リ易キヲ例トスルヲ以テ特ニ此時期ニ注意シ堅固ノ志操ヲ養ヒ良習慣ヲ作ラシメントラカムヘシ

四 倫理學ノ一班ハ徒ニ高尚ニ馳セ又ハ諸學派ノ異說ニ涉ルコトナク普通ノ概念ノ解説ニ止メ生徒ヲシテ其ノ思想ヲ確實ナラシメントコトヲ要ス

五 教訓ニ資スヘキ事件ノ偶發シタルトキ又ハ式日、紀念日等ニ際シテハ全校又ハ一部ノ生徒ヲ集メ臨時教訓スルヲ可トス

國語及漢文

第一學年

每週七時

講 讀

每週五時

讀方 國語ハ發音ニ注意シ特ニ方言的發音ヲ矯正センコトヲカムヘシ漢文ハ成ルヘク國語ノ法則ニ從ヒ特ニ文字ノ用法顛倒等ニ注意セシムヘシ

解釋 成ルヘク口語ト密接シテ語義、文義ヲ正確ニ解釋セシムヘシ  
暗誦 讀本中ノ佳句、格言、諷誦スヘキ詩歌等ヲ暗誦セシムヘシ

講讀ノ材料

國語ハ小學校ニ於ケル國語トノ連絡ヲ圖リ今文ヲ用ヒテ修身、歴史、地理、理科、實業等ニ關スル事項ヲ記シタル現代作家ノ平正ナル記事文、叙事文等ヲ採ルヘシ又普通今文ノ外正確ナル口語ノ標準ヲ示スヘキ演說談話ノ筆記並ニ現代名家ノ書牘文及新體詩ヲモ含マシメテ可ナリ其ノ程度ハ文部省編纂高等小學讀本ノ第六卷及第七卷ニ準スヘシ  
漢文ハ初ヨリ文意完結セル全篇ヲ採ルコトヲ要セス第一學期ニ於テハ單語單句ヲ擧ケテ其ノ組織ト國語ノ組織トノ異同ヲ示シ第二學期以後ニ於テハ我國近世作家ノ用語平易ニ構造簡易ナル短章ニ句讀、返り点、送り假名ヲ施シタルモノヲ授ケ時々既ニ課シ了リタル國語ノ一二節ヲ漢譯シタルモノヲモ交ヘテ之ヲ對照セシムヘシ  
國語漢文ヲ課スル比ハ國語ハ、漢文ニタルヘシ

文法及作文

每週一時

假名遣附字音假名遣ノ大要 國語品詞ノ分別 漢文品詞ノ分別ノ大要

文法

國語文法ハ言文ノ對照ヲ主トシ常ニ口語ト今文トヲ關聯セシメテ今文ニ必須ナル法則ヲ示スヘシ漢文ノ語法ハ漢文ヲ理會シ易カラシムル程度ニ止ムヘシ

作文

書取 假名遣ヲ正シ漢字ノ字畫ヲ正確ナラシメ且速記ノ慣習ヲ養フヘシ  
復文 口語ヲ今文ニ、若ハ今文ヲ口語ニ譯セシムヘシ  
作文 書翰文、今文體ノ記事文、但記事文ハ豫メ其ノ構造ヲ示スヘシ  
作文ノ即題ハ凡隔週一回、宿題ハ凡毎月一回之ヲ課スヘシ

習 字

每週一時

楷書 行書

清書ハ凡隔週一回之ヲ課スヘシ

第二學年

每週七時

講 讀

每週五時

讀方 前學年ニ同シ

解釋 前學年ニ同シ

暗誦 前學年ニ同シ

講讀ノ材料

國語

今 文 前學年ニ準シ又現代作家ノ論說文ヲ加フ

近世文 今文ニ最モ近キモノヲ例ヘハ橘南谿ノ東西遊記、伴蒿蹊ノ近世畸人傳、貝原益軒ノ訓誠書類、成島司直ノ徳川實記附録ノ類

漢文

前學年ニ準シ又我國近世作家ノ簡易ナル敘事文或ハ傳記、紀行等ノ文意完結セル短篇ヲ加フ例ヘハ賴山陽ノ日本外史、大槻盤溪ノ近古史談、塩谷宕陰ノ宕陰存稿、安井息軒ノ讀書餘適

國語漢文ヲ課スル比ハ國語七、漢文三ニシテ國語ハ今文二、近世文一ノ比ヲ以テ之ヲ課スヘシ

文法及作文

每週一時

品詞各論

作文

書取 前學年ニ同シ

復文 前學年ニ同シ

作文 書取文、記事文、敘事文、但敘事文ハ豫メ其ノ構造ヲ示スヘシ

作文 即題ハ凡每週一回宿題ハ凡毎月一回之ヲ課スヘシ

習字

每週一時

前學年ニ同シ

第三學年

每週七時

講讀

每週五時

讀方 發音ノ外抑揚緩急ニ注意スヘシ

解釋 語義、文義ノ外文法上ノ句法ニ注意スヘシ

暗誦 前學年ニ同シ

講讀ノ材料

國語

今文 現代ノ思想及事實ヲ叙述論議スル今文

近世文 室鳩巢ノ駿臺雜話、安藤年山ノ年山紀聞、新井白石ノ讀史餘論、本居宣長ノ玉勝間

近古文 鎌倉室町時代ノ文、例ヘハ保元平治物語、神皇正統記、十訓抄、權談治要ノ類

韻 文 主トシテ今樣歌

漢文

前學年ニ準シ又我國作家ノ論說文ヲ加フ、例ヘハ賴山陽ノ日本外史ノ敘論ノ類

國語漢文ヲ課スル比ハ國語七、漢文三ニシテ國語ハ今文三、近世文二近古文一ノ比、漢文ハ記

事文敘事文一、論說文二ノ比ヲ以テ之ヲ課スヘシ

文法及作文

每週一時

文章論ノ大要

係結ノ法則 文章ノ解剖

作文

文章ヲ朗讀シテ其ノ大要ヲ記述セシムヘシ

文章ヲ譯文ニシテ用字ノ法ヲ知ラシムルモ可ナリ

作文記事文、敘事文、傳記文、但傳記文ハ豫メ其ノ構造ヲ示スヘシ

作文ノ即題ハ凡隔週二回、宿題ハ凡毎月一回之ヲ課スヘシ

文法及作文ヲ授クル際便宜辭典、字書ニ就キ假名引、書引、偏傍冠等ノ名稱ヲ授ケテ國語又ハ漢字ノ檢索方ヲ知ラシムヘシ

習字

行書 草書

每週一時

講讀

第四學年

每週六時

讀方 前學年ニ同シ

每週五時

解釋 國語ノ古文ハ口語ヲ以テ之ヲ解釋スルノミナラス又之ヲ今文ニ對照シ漢文ハ之ヲ國文ニ對照シテ趣味セシメ修辭上ノ注意ヲ加フヘシ

暗誦 前學年ニ同シ又時下シテ名家ノ文章ヲ暗誦セシムヘシ

講讀ノ材料

國語

今文 前學年ニ準シ又詔勅、上書等ヲ加フ

近世文 新井白石ノ折焚柴ノ記、太宰春臺ノ經濟錄ノ類、但稗史ノ類ト雖モ教育上ノ目的ニ戻ラサル限ハ之ヲ採ルヲ可トス

近古文 源平盛衰記、太平記ノ類  
歌 古今和歌集ノ類

漢文

句讀及返リ点ヲ施シ送り假名ヲ省キタルモノ

散文 前學年ニ準シ又支那作家ノ簡易ナル傳記、紀行等ノ文ヲ加フ例ハ清初作家、唐宋八家ノ文、佐藤一齋、松崎慊堂ノ文ノ類

詩 唐詩選ノ類

國語漢文ヲ課スル比ハ國語六、漢文四ニシテ國語ハ今文二、近世文一、近古文一ノ比、漢文ハ我國作家ノ文一、支那作家ノ文一ノ比ヲ以テ之ヲ課シ詩歌ハ適宜之ヲ加ヘ授クヘシ

文法

每週一時

前各學年中授ケタル事項ノ復習 近古以上ノ文ニ特有ナル法則

作文

書取 前學年ニ同シ

譯文 前學年ニ同シ



作文 記事文、敘事文、傳記文、論說文、但論說文ハ豫メ其ノ構造ヲ示スヘシ  
作文ハ即題宿題トモ各凡毎月一回之ヲ課スヘシ

詩文 第五學年

每週六時

講義 第一學期及第二學期

每週五時

講義

文法 第三學期

每週二時

讀方 前學年ニ同シ

解釋 前學年ニ同シ

暗誦 前學年ニ同シ

講讀ノ材料

國語

今世文 前學年ニ準ス

近世文 前學年ニ準ス

近古文 前學年ニ準ス

歌 前學年ニ準ス

漢文 前學年ニ準ス

散文 前學年ニ準ス

詩 前學年ニ準ス

國語及漢文ヲ課スル比、國語六、漢文四ニシテ國語ハ今文一、近世文一、近古文二ノ比、漢文  
ハ我國作家ノ文一、支那作家ノ文三ノ比ヲ以テ之ヲ課シ詩歌ハ適宜之ヲ加ヘ授クヘシ

國文學史 第三學期  
主要ナル文學時代顯著ナル文學者顯著ナル著作物、各種ノ文體、歌體國文學史ヲ授クルニハ我  
國ノ漢學ヲモ度外ニ置クヘカラス又上古文學ノ一斑ヲモ窺シムヘシ 每週三時

文法

前各學年中授ケタル事項ノ復習單語ノ構造、國語沿革ノ大要

作文

書取 前學年ニ同シ

譯文 前學年ニ同シ

作文 前學年ニ同シ

各學年ニ於ケル講讀ノ教授ハ國語、漢文ノ時間ヲ分タヌ之ニ用フル讀本ハ成ルヘク國語ト漢文ト  
ヲ適當ニ交ヘテ組織シタルモノヲ採ルヘシ

讀本ニ於ケル今文ノ材料ハ創作ノ必要少カラス又漢文、外國語ヲ今文ニ翻譯シタルモノニシテ其  
ノ模範トナスヘキモノハ之ヲ採ルヘシ  
日演別ニ之ヲ學タスト雖モ常ニ生徒ヲシテ言語態度ニ留意セシメ又時々生徒ノ學習或ハ經驗セ  
ル事項ニ就キテ談話解説等ヲナサシメ正シキ國語ノ使用ニ慣レシムヘシ

教授上ノ注意

- 一 讀本中ノ事項ハ單ニ其ノ意義ヲ解釋スルニ止メス之ニ關スル説明ヲ加ヘ成ルヘク地圖、繪畫標本等ニ依リ生徒ノ理會ヲ明確ナラシムヘシ
- 二 故事古語等ハ之カ解釋出處ニ關シテ徒ニ生徒ヲ苦マシムルコトナク初ヨリ其ノ説明ヲ與フヘシ
- 三 國語ノ文法ニ於テ最モ誤リ易キハ活用語ノ用法ナルヲ以テ教授ノ際特ニ注意シ當ニ其ノ練習ヲ怠ラサルヘシ
- 四 作文ハ其ノ文體、教授法等ニ關シテ一定ノ標準ヲ定メ難シト雖モ迂遠ニ流レヌ難澁ニ失セス簡易ニシテ實用ニ適切ナランコトヲ期スヘシ
- 五 漢字ノ字畫ノ似タル瓜、瓜、傳、傳ノ類ハ誤リ易キモノナレハ書取、作文ヲ授クル際特ニ之ニ注意セシムヘシ

外國語

此要目ハ英語ニ就キテ之ヲ定ム獨語、佛語ニ就キテハ之ニ準スヘシ  
各學年ノ教授事項ハ之ヲ分割スルコトナク同一教授時間ニ於テ相關聯シテ之ヲ授クヘシ但特ニ示シタル場合ニ於テハ教授時間ヲ分ツコトヲ得ト雖モ尙其ノ相互ノ連絡ニ留意センコトヲ要ス

第一學年

每週六時

發音、綴字

初ハ發音ヲ正シ單語ニ就キテ綴字ヲ授ク其ノ概要ニ通シタル後ハ讀方、會話ト附帶シテ之ヲ練

習セシムヘシ

讀方、譯解、會話、書取

平易ナル文章

正則文部省英語讀本、ナシヨナル讀本、ロングマンス讀本、スウイントン讀本等ノ第一卷又ハ第二卷ノ初ノ程度ニ依ルヘシ

讀本ヲ授クル際隨時常用ノ名詞及代名詞ノ數、性及人稱、形容詞及副詞ノ比較、常用ノ動詞ノ直接法變化、主要ナル不規則動詞、頭文字ノ用法等ヲ知ラシムヘシ

習字

本學年ニ於テハ專ラ習字ヲ授クル爲每週一時ヲ分ツコトヲ得

第二學年

每週六時

讀方、譯解、會話、作文、書取

平易ナル文章

前ニ舉ケタル讀本ノ第二卷又ハ第三卷ノ初ノ程度ニ依ルヘシ又日常ノ應對ニ必要ナル用語ヲ授ケテ其ノ應用ヲ練習セシムヘシ

讀本ヲ授クル際隨時文法ニ關シテ前學年ノ事項ノ外文章ノ構造、名詞及代名詞ノ格、句讀點ノ用法等ヲ知ラシムヘシ

第三學年

每週七時

讀方、譯解、會話、作文、書取

平易ナル文章

前ニ學ケタル讀本ノ第三卷又ハ第四卷ノ初ノ程度ニ依ルヘシ

文法

名詞ノ變化、代名詞ノ種類及其ノ變化、動詞ノ種類及其ノ變化、形容詞及副詞ノ比較、冠詞ノ種類、文章ノ解剖

本學年ニ於テハ專ラ文法ヲ授クル爲毎週一時ヲ分ツコトヲ得

第四學年

每週七時

讀方、譯解、書取

普通ノ文章

前ニ學ケタル讀本ノ第四卷ノ程度ニ依ルヘシ

會話、作文

平易ナル對話、平易ナル翻譯、簡單ナル記事文、書翰

文法

代名詞ノ用法、時及法ニ關スル動詞ノ用法、前置詞ノ用法、冠詞ノ用法、文章論

本學年ニ於テハ專ラ文法ヲ授クル爲毎週一時ヲ、專ラ會話、作文ヲ授クル爲毎週二時以内ヲ分ツコトヲ得

第五學年

每週七時

讀方、譯解、書取

普通ノ文章

前ニ學ケタル讀本ノ第五卷又ハコングマンス讀本ノ第六卷ノ程度ニ依ルヘシ

會話、作文

前學年ニ準シテ稍々其ノ程度ヲ進ムヘシ

前記ノ事項ノ教授ニ附帶シテ文法ヲ復習シ又接頭語、接尾語、同意語等ノ説明ヲ與フヘシ

本學年ニ於テハ專ラ會話、作文ヲ授クル爲毎週二時以内ヲ分ツコトヲ得

教授上ノ注意

一 英語ヲ授クルニハ習熟ヲ主トスヘシ生徒ノ學力ヲ顧ミスシテ徒ニ課程ヲ進ムルコトアルヘカラス

二 第二學年以後ニ於テハ發音、綴字、習字ノ目ヲ舉ケスト雖モ讀方、會話、作文及書取ニ附帶シテ便宜之ヲ練習セシムヘシ

三 發音ハ時ニ英語教授ノ初期ニ於テ嚴ニ之ヲ正シ又國語ニ存セサル發音ニ留意シテ之ニ習熟セシムヘシ

四 英語ノ意義ヲ了解セシムルニハ之ヲ譯解シ又ハ實物繪畫等ニ依リ之ヲ直指スヘシ稍々進ミタル生徒ニ對シテハ英語ヲ用ヒテ明説スルコトアルヘシ

五 譯解ハ正シキ國語ヲ以テ成ルヘク精密ニ原文ノ意義ニ適應セシムヘシ

六 讀方ハ既ニ意義ヲ了解セル文章ニ就キテ反復練習セシメ又時々暗誦ヲ課シ發音、抑揚、緩急

- 六 及止聲ヲ留意シ生徒ヲシテ誦讀ニ依リテ文章ノ真意自ラ見ハルル様之ニ習熟セシムヘシ
- 七 書取ハ讀本中ノ文書又ハ生徒ノ容易ニ理解シ得ベキ文章ニ就キテ之ヲ授ケ生徒ノ耳ヲ慣ラシ
- 八 且綴字ヲ運筆ニ習熟セシムヘシ
- 九 會話ハ讀本中ノ文章又ハ事項ニ因ミテ之ヲ授ケ進ミテハ日常ノ事項ニ就キテ對話ヲナサシメ
- 十 生徒ヲシテ文字ヲ離レテ英語ヲ了解シ又自己ノ思想ヲ表ハスコトヲ習ハシムヘシ
- 十一 文法ヲ授クルニハ生徒ヲシテ煩雜ナル規則ノ記憶ニ陥ラシムルコトナク應用自在ナラシメン
- 十二 コトヲ期スヘシ
- 十三 適當ノ機會ニ於テ辭書ノ用法ヲ授ケ漸次對譯ニアラサル辭書ノ使用ニ慣レシムヘシ

歴史

第一 日本歴史

第一學年

每週一時

太古 神代、皇基ノ遠遠

上古

神武天皇、崇神天皇、景行天皇、日本武尊、熊襲及蝦夷、成務天皇、神功皇后、韓土内附、仁德天皇、雄略天皇、韓土ノ變遷、歸化人及其ノ子孫、韓土傳來ノ工藝文物、佛教ノ傳來、蘇我物部兩氏ノ爭亂、聖德太子佛教ノ興隆、文物制度、遣唐使、蘇我氏ノ專横及滅亡

中古

大化ノ新政、越蝦夷征伐、華人及西南諸島、百濟高麗ノ滅亡、天智天皇、藤原鎌足、壬申ノ亂、律令ノ撰定、奈良奠都、國史ノ撰修、聖武天皇、寺院ノ造營、美術、工藝、風俗、和氣清慮、聖安奠都、蝦夷ノ鎮定、渤海ノ入貢、嵯峨天皇、入唐ノ高僧及新宗派、漢文學及學校ノ設立、藤原氏及他氏ノ盛衰、皇族賜姓、攝政關白、菅原道真、延喜時代地方ノ狀況、承平天慶ノ亂、藤原氏家門ノ爭、藤原道長、國文ノ隆盛、工藝、風俗、刀伊ノ亂、地方ノ亂、前九年ノ役、

第二學年

每週二時

中古ノ續キ、後三條天皇、院政、武人ノ登用、僧徒ノ跋扈、後三年ノ役、源氏、保元ノ亂、平治ノ亂、平清盛、平氏ノ繁榮、諸源ノ舉兵、平氏ノ滅亡

近古

鎌倉幕府、守護地頭、鎌倉三代、承久ノ亂、北條氏ノ執權、貞永式目、鎌倉武士、京都公卿、風俗、文學、新宗派、元寇、兩皇統ノ交立、五攝家、元弘ノ亂、勤王諸將、北條氏ノ滅亡、建武中興、足利尊氏ノ反、南北朝、室町幕府、鎌倉管領、足利義滿ノ驕奢、應永ノ亂、永享嘉吉ノ亂、應仁ノ亂、關東ノ分裂、北條早雲、東山時代、文學、美術、工藝、風俗、足利季世京都ノ衰替、群雄割據、皇室、織田信長、豊臣秀吉、朝鮮征伐、徳川家康、關ヶ原ノ役、江戸幕府、諸侯、天主教、島原ノ亂、通商貿易、後水尾天皇、文學ノ復興、徳川光國、著名ナル學者、元祿時代、奢侈、風俗、新井君美、徳川吉宗ノ治、實學及殖産ノ獎勵、田沼意次ノ執柄、松平定信、諸藩ノ治、附著名ノ藩侯、國學、尊王論、蘭學、海防

策、露人ノ寇、英艦其ノ他ノ來航、米國使節ノ來朝、開港攘夷ノ論、安政ノ大獄、井伊直弼ノ武斷、幕府ノ衰頹、討幕論、元治ノ變、長州征伐、大政奉還、伏見ノ戰、戊辰ノ役

現代

明治新政、五條ノ誓文、開港、奠都、

第五學年

每週一時

建國ノ體制

大化以前ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、支那及韓土トノ關係

氏族部民ノ制、祭祀教法

大化以後延曆以前ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、支那及韓土トノ關係

制度ノ概略(官制、田租賦役、兵制、刑制等)、文化

平安時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、文物制度ノ變遷院政及平氏時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ

概括、莊園ノ起源、寺院ノ勢力、武門ノ興起

鎌倉時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、幕府ノ制度、朝廷ト幕府トノ關係

南北朝及足利時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括、室町幕府ノ制度

明トノ交通「倭寇」

歐洲人ノ來航、通商貿易、天主教ノ傳播、外征及冒險ノ氣象

天文慶長年間ニ於ケル國內變動ノ概要

江戸時代ニ於ケル主要ナル事蹟ノ概括

江戸幕府ノ諸制度

邊境ノ事情、洋學

維新ノ原因及其ノ事蹟ノ概括

明治新政、新設官制、版籍奉還、廢藩置縣

外交、大使派遣、歐米文物制度ノ採用

朝鮮トノ關係、征韓論、佐賀ノ亂

台灣征討、北海道、樺太及千島

熊本及萩ノ暴動、鹿兒島ノ亂

琉球ノ處分、朝鮮ノ修好及事變、天津條約

民選議院論、元老院、地方官會議、府縣會、國會開設ノ請願、政黨、新聞紙、國會開設ノ準備

憲法、皇室典範、帝國議會

諸制度ノ發達、學術ノ進步、交通機關ノ擴張、殖産工業貿易ノ振興、條約改正

明治二十七八年ノ戰役

世界ニ於ケル日本ノ地位

第二 東洋歴史

第三學年

每週二時

上古

上代ノ支那、唐虞三代、春秋ノ世、周ノ制度文物、孔子、戰國、周末ノ學術、上代ノ印度、佛

教ノ興起

中古

秦ノ一統、漢楚ノ争、漢高祖、文帝景帝ノ治、武帝ノ業、四夷ノ服屬、王氏ノ篡立、後漢ノ政、匈奴、西域ノ叛服、三國、晉、五胡、十六國、南北朝、隋、唐太宗、武韋ノ禍、開元ノ治、安史ノ亂、藩鎮宦官ノ禍、唐末ノ大亂、朝鮮半島ニ於ケル諸國ノ盛衰、渤海、漢唐ノ儒學文藝佛敎道教及其ノ他ノ宗教、南海ノ貿易、五代、宋太祖、仁宗ノ治、王安石ノ新法、遼金ノ廢興、高麗ノ盛衰、宋金ノ交渉、宋代、儒學文藝及宗教

近古

蒙古ノ勃興、元太祖ノ西征、太宗憲宗ノ南征附拔都及旭烈元ノ西征、世祖ノ一統及東侵、元代ノ治亂附諸汗國ノ盛衰、明ノ太祖、靖難ノ役、成祖ノ遠略、帳木兒、明ノ中世(遠境ノ寇、大禮ノ議)交趾ノ叛服、沿海ノ寇盜、明ノ末世(万曆朝鮮ノ役、東林ノ獄、流賊)元明ノ儒學文藝、莫臥兒帝國ノ興亡、ほるとがる、いすばにあノ東略、天主教ノ東流

近世

清ノ開國、世祖ノ一統、清聖祖高宗ノ業、清ノ學術、東洋ニ於ケル蘭英諸國ノ競争、英領印度清英ノ交渉、長髮賊ノ亂、英佛ノ北清侵伐、露ノ東略、清國ノ關係、安南暹羅、清佛ノ交渉、日清韓ノ關係、日清ノ戰役、東洋ニ於ケル英露佛ノ獨木、世界ニ於ケル東亞諸國ノ現勢

第三 西洋歴史

第四學年

毎週二時

上古

いじぶと、へふらい、ふおねにきあ、ばびろにあ、あつしりあ、へるしあ、だりうす、くせるくせずノ業、きりしあ、きりしあノ文物、あてん、すばるた、てーへ、へるしあノ交渉、黒海沿岸ノ地方、まげごにあ、あれくさんでるノ業、ふおねにきあ殖民地、いたりあ統一ニ至ルノ一ま、ばねに戰役、あれくさんでる後ノ東方諸國(きりしあ、まげごにあ、いじぶと、しりあ)ばるちあ、ばくどりあ、ろーま共和制ノ末路、ろーまノ東征、かむざるノ業、ろーま帝政ノ初、ろーまトばるちあ、へるしあ、ろーまノ制度及國情、基督教

中古

げるまにノ遷徙、東ろーまトへるしあ、すらぶ諸部落、さられん、中古に於ケル東歐ト西歐、かるる大帝ノ業、のるまん、神聖ろーま帝國、法皇ノ權威、西歐ノ制度及國情、十字軍ト東方諸國、いざりすとふらんす、東歐ノ國情、蒙古ノ侵入、古學復興、活版ノ發明、兵制ノ變遷、地理上ノ發見附まるこぼーろノ日本、西歐諸國ノ中央集權、議會ノ起、地方ノ連合、宗教ノ頽廢及救濟ノ企圖、おつとまんとるこノ侵入、宗教改革いすばにあトふらんす、しゆまるかるでん同盟

近古

ほるとがる、いすばにあノ殖民策、宗教改革ノ反動、おらんだノ獨立、いざりすとふらんす朝、ふらんす宗派ノ争、三十年戰役、ふらんす國家主義ノ確立及外國侵略、いすばにあ繼承ノ役いざりすと革命、南洋及東洋ニ於ケルほるとがる、いすばにあ、おらんだ、いざりすと、近古

ニ於ケル北歐及東歐諸國ノ盛衰、北歐ノ戰役、ほーらんと近隣諸國、ふるしわノ勃興、おーすとより繼承ノ役、七年戰役、いざりす、ふるんすノ殖民策、ろしわノ外交及拓殖、北米合衆國ノ獨立、十八世紀ニ於ケル歐洲列國ノ情勢及文物

第五學年

每週一時

近世

ふるんす革命、ほーらんとノ滅亡、列國局面ノ變化、なほれおん一世ノ業、いざりす殖民地ノ擴張、よーろつば獨立ノ戰役、ぐいーん列國會議、歐洲亂後ノ國情、おめりか諸國及ざりしわノ獨立、七月革命及其ノ影響、いざりすノ政黨政治、東方問題、二月革命及其影響、西歐ト東歐(なほれおん三世、ぐりむ戰爭)あじわニ於ケルろしわ、いざりす、ふるんす、いたりわ統一、ごいつ統一ノ企圖、北米合衆國ノ經濟ト南北戰爭、めきしこ、ふるんすノ交渉、しゆれすうほるすたいん問題、ふるしわ、おーすとよりわノ戰役、ごいつ、ふるんすノ確執、ごいつ統一、ろしわトばるかん半島埃及問題、英、西、蘭、佛、獨、米ト太平洋洲、北米合衆國是ノ變遷ト太平洋、あふりか南部ノ拓殖、ばんすらぐいすむ、十九世紀ノ文明及思潮(政治上、宗教上、社會上、經濟上ノ進歩)世界ニ於ケル日本ノ地位及日本ト諸外國トノ關係

前記各學年ノ事項ハ便宜分合シテ之ヲ授クルコトヲ得

教授上ノ注意

一 歴史ヲ授クルニハ社會ノ變遷、邦國ノ盛衰ニ關スル明哲ナル概念ヲ得シムルコトヲ主トシ正

確ヲ期スル爲徒ニ細密ナル事實ノ穿鑿ニ流ラランコトヲ要ス

二 偉人ノ事蹟ヲ授クルニ當リテハ其ノ性行、事業及當時ノ事情ヲ詳ニシ生徒徳性ノ涵養ニ資セシコトヲカムヘシ

三 有名ナル詩歌、文章、傳記等ニシテ歴史上ノ事蹟ノ説明ニ資スヘキモノハ便宜之ヲ引用シテ興味ヲ助クヘシ

四 特ニ學校所在地方ニ關係多キ事蹟ハ稍々詳ニ之ヲ授クルヲ可トス

五 外國歴史ハ特ニ我國ト關係アル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ

六 對照年表ヲ用ヒテ紀年ノ連絡ヲ知ラシメ又常ニ地圖、實物圖書標本等ヲ示シテ生徒ノ知識ヲ確實ナラシムヘシ

七 地名人名等ノ稱呼ハ必シモ此要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス

八 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ

御歴代表、對照年表、各國帝王、及諸家ノ系統表等ノ掛圖、日本沿革及現代地圖、東洋諸國沿革及現代地圖、西洋諸國沿革及現代地圖

著名ナル城邑、戰場、其ノ他古蹟ノ寫真又ハ圖畫、著名ナル人物ノ肖像、古人ノ筆蹟、古文書等ノ實物又ハ模寫

風俗工藝ノ變遷、文化ノ程度等ヲ示ス實物、模型又ハ圖畫

地理

第一學年

每週二時

緒論 第一學年

大洋、大洲、島嶼、兩極、赤道、三帶、經緯度、地圖ノ描キ方及讀ミ方ニ關スル簡單ナル解説

日本地理

總論

位置 境域 廣廢

地勢

海岸 地形 山系 水系

氣候

溫度 海流 雨量 風

天產物

住民

種族 人口 教育 宗教

政治

國體 政體 區畫 兵備

生業

農業 鑛業 林業 水産業 工業 商業

交通

道路 鐵道 航路 郵便 電信 電話

地方誌

地方誌ニ於テハ北海道、臺灣及府縣ノ區分ニ依リ地方ノ天然上及人事上國民ノ生活ニ關スル

事項ヲ授クヘシム

外國地理

あじあ

總論

位置 地勢 氣候 天產物 住民 交通

朝鮮

第二學年

外國地理ノ續キ

あじあノ續キ

支那

あじあろしあ

あじあどるこ附あらびあ

いらん地方

たいんご

いんど支那半島

每週一時



まらい群島

大洋洲

総論

前二準ス

おすどらりあ

めらねじあ

みくろねじあ

ぼりねじあ

第三學年

外國地理ノ續キ

よろつば

総論

前二準ス

ろしあ

すうねでん、のるうねい

でんまるく

きといつ

おすどらりあ、ほんがらあ

毎週一時

すいす

ふらんす

おらんだ

べるぎい

いぎりす

いすばにあ

ほるとがる

いたりあ

ばるかん半島

第四學年

外國地理ノ續キ

あふりか

総論

前二準ス

北部あふりか

中部あふりか

南部あふりか

あめりか

毎週一時

総論

前二準ス

かなだ

北米合衆國

めさしこ附中央あめりか、西いんと諸島

南あめりか

西部 東部

結論

世界ニ於ケル貿易及交通、世界ニ於ケル人口、言語、宗教、日本ト列國トノ關係及其ノ富力、兵力、領土、殖民地ノ比較、世界ニ於ケル日本ノ地位

第五學年

毎週一時

地文

総論

太陽系、地球ノ形、大サ、地球ノ密度、地熱、地球ノ運動、晝夜、四季、日蝕及月蝕、經緯度、標準時地圖

陸

沿岸線

地勢及構造

山嶽、原野、谿谷等、泉、河、湖、岩石及造岩礦物、地層、岩脈

地殻内ノ産物即有用ノ礦物及岩石

變動

火山、地震、大陸及山脈ノ生成、沿岸ノ生成大氣、水生物

日本ノ土地發育

大氣

性質及作用、溫度、氣壓、風、濕氣、氣候及天氣

海

海水ノ組織、色、塩分等、海底、海水ノ溫度、波、海流、潮汐

生物

分布 植物景

教授上ノ注意

一 地理ヲ授クルニハ生徒既知ノ事實ト關係アル事實ニ及サンコトヲ旨トシ必シモ此要目ノ順序ニ依ルコトヲ要セス

二 地理ヲ授クルニハ成ルヘク事實ノ比較連合ヲカメ特ニ外國地理ヲ授クルニ當リテハ我國ノ狀勢ヲ以テ比較ノ基礎トナスヘシ

三 日本地理及外國地理ヲ授クルニハ常ニ地文ニ關スル事項及實業ニ關スル事項ニ留意シ濫ニ細密繁多ナル事實數量ヲ記憶セシムルコトハ之ヲ避クヘシ

- 四 外國地理ヲ授クルニハ我國ト關係多キ地方ニ留意シ此要目ノ中特ニ重要ナル部分ハ更ニ之ヲ細分シテ授クルコトヲ得
- 五 歴史上著名ナル場所ニ就キテハ其ノ事蹟ノ大要ヲ附説スヘシ
- 六 有名ナル詩歌文章紀行等ニシテ地理教授ニ資スルニ足ルモノハ便宜之ヲ引用シテ興味ヲ助クヘシ
- 七 實地ニ觀察シ得ヘキ事項ハ成ヘク直接ニ觀察セシメ其ノ他ハ常ニ地圖、標本、寫眞、繪畫、表等ニ依リ生徒ノ知識ヲ確實ナラシムヘシ又生徒ヲシテ畧圖ヲ描カシムルモ可ナリ但徒ニ精密ニ涉リ時間ヲ浪費セサランコトヲ要ス
- 八 地文ハ特ニ我國ニ關スル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ
- 九 地名ノ稱呼ハ必シモ此要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス
- 十 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ
  - 日本及世界地形圖 世界分圖 日本行政區畫 日本及世界交通地圖 人種分布地圖 日本及世界水陸動物分布圖 日本及世界植物區系圖 日本地質圖 日本及世界同溫線圖 日本及世界同壓線圖 日本及世界風向圖 日本及世界雨量圖 日本及世界海流圖 同時潮圖 地震及火山分布圖 日本地震圖 天氣圖ノ一例 其他人文、地文ヲ説明スル地圖
  - 諸統計ヲ示ス圖又ハ表、風俗、風景、其ノ他地文上ノ現象ヲ示ス圖畫又ハ寫眞、土地ノ高低、褶曲、斷層等ヲ示ス模型又ハ圖畫、主要ナル岩石、主要ナル造岩鑛物、日本ノ主要ナル農産、林産、水産物及加工品ノ標本、主要ナル貿易品ノ標本、風化ヲ示ス標本、主要ナル化石又ハ其

以模型或ハ圖畫、其ノ他ノ掛圖等

地球儀 羅針盤 測斜器 あねろいど晴雨計 水銀晴雨計 寒暖計 日時計  
人文地理ニ關スル事項ハ時々異動ヲ來スコト多ク之カ圖表等ハ常ニ其ノ訂正増補ニ留意シ最近ノ形勢ヲ示スモノタラシムヘシ

數學

第一 算術

第一學年

每週四時

緒論

命數法 記數法 小數

整數及小數

加減乘除

諸等數

時間 長さの法度量衡 尺貫法度量衡 本邦貨幣

諸等數ノ加減乘除

英國度量衡及貨幣其ノ他十進法ニ依ラサル複雑ナル諸等數ハ分數ノ中或ハ分數ノ後ニ於テ便宜之ヲ授クルコトヲ得

整數ノ性質

可約性 素數 約數 最大公約數 最小公倍數

分數

分數ノ主要ナル性質 約分 通分 分數ヲ小數ニ化スルコト 小數ヲ分數ニ化スルコト 分數ノ加減乗除

比及比例

比 比例

第二學年

每週二時

比及比例ノ續キ

連鎖法 比例配分 混合

割合

総説 歩合算 利息算其ノ他割合ニ關聯スル日用諸算

四幕及根

自乘四幕及平方根 三乘四幕及立方根 求積

第二 代數

第二學年

每週二時

緒論

記號ノ定義 代數式 結合ノ法則 定義ノ擴張 員數

整式

加減乗除

方程式

一元一次方程式

第三學年

每週二時

方程式ノ續キ

多元一次ノ聯立方程式

整式ノ續キ

分配ニ關スル公式 因数 最大公約數 最小公倍數

分數式

分數ノ基本性質 約分、通分 分數ノ加減乗除

方程式ノ續キ

一次式ニ歸セシムルコトヲ得ヘキ一元方程式 一元二次方程式 二次式ニ歸セシムルコトヲ得ヘキ一元方程式 二次方程式ヲ含ミタル聯立方程式 方程式ノ解決ニ關スル釋義

第四學年

每週二時

無理

指數定義ノ擴張 無理數 無理數ニ近似スル有理數値

比及比例

不名數ノ場合 量ノ場合「通約スヘキ量 通約スヘカラサル量」不盡數

級數

等差級數 等比級數

順列及組合

二項式定理

正整數ナル指數ノ場合

對數

對數ノ基本性質 對數表

第三 幾何

第三學年

每週二時

緒論

直線

角 平行線 三角形 平行四邊形

圓

圓ノ基本性質 中心ニ於ケル角 弦 弓形ニ於ケル角切線 ニツノ圖 軌跡

第四學年

每週二時

圓ノ積キ

內接形及外接形

面積

直線形ノ面積ノ等同

比例

等シキ比ノ定義此定義ヨリ派生スル一般ノ定理

比例ノ應用

比例線 相似形

第五學年

每週二時

比例ノ應用ノ積キ

面積 軌跡

平面

直線及平面 立體角

多面體

角嚮 角錐 正多面體

曲面體

球 圓嚮 圓錐

第四 三角法

第五學年

每週二時

角ノ計リ方

六十分法

圓函數

銳角ノ圓函數 圓函數相互ノ關係 餘角ノ圓函數 格別ナル角ノ圓函數 眞數表  
直角三角ノ解法

圓函數ノ續キ

圓函數ノ一般ノ定議 圓函數相互ノ關係 圓函數ノ符號及大サノ變化 員解ノ圓函數 補角ノ

圓函數

角ノ和ニ對スル公式

二ツノ角ノ和及差ノ圓函數 倍角及分角ノ圓函數 圓函數ノ積ニ對スル公式 圓函數ノ和及差

ニ對スル公式 三角形ノ邊ト其ノ角ノ圓函數トノ關係

對數表ノ用法

三角形ノ解法

高サ、距離等ノ測法及之ニ關スル實習

教授上ノ注意

一 數學ヲ授クルニハ常ニ正確ナル言語ヲ用ヒテ法測、命題等ノ宣言証明ヲナシ正確ニ理會セシ  
メンコトヲカムヘシ

二 算術ニ於テハ單ニ算法ヲ授クルニ止メス常ニ實算ヲ重ンシ正確ニ且迅速ニ計算シ得ルニ至ラ  
シムヘシ

三 計算ニハ成ルヘク驗シテ行ハシメ之ニ對スル自信ヲ深厚ナラシムヘシ

四 算術ノ例題ハ成ルヘク生業上適切ナルモノヲ選ヒ歩合算其ノ他日用諸算ニ關スル例題ヲ課ス

ルニハ特ニ注意シテ其ノ事項ヲ説明スヘシ

五 算術ヲ授クル際法則ノ理由ヲ充分ニ理會セシメ難キ場合ニ於テハ單ニ其ノ一端ヲ指摘スルニ  
止メ直ニ法則其ノ物ニ移リ其ノ嚴格ナル理由ノ説明ハ之ヲ代數ニ讓ルヘシ

六 代數ニ於テ一次方程式ヲ授クルニハ之ヲ一箇處ニ纏ムルコトナク其ノ最モ簡易ナルモノハ成  
ルヘク早ク之ヲ引用シテ代數ノ趣味ヲ得シムヘシ

七 幾何ヲ授クルニハ論理ノ嚴格ヲ重ンスヘシ例ヘハ比例論ヲ授クル場合ノ如キ濫ニ簡易ニ就カ  
ントスル爲之ヲ省略シ若ハ之ヲ曖昧ニ附シ去ル弊ニ陥ラサランコトヲ要ス但生徒學力ノ進度  
ニ依リ一時之ヲ假定シテ後回シトナスハ妨ナシ

八 作圖題ハ証明ノ連絡上適當ノ處ニ於テ之ヲ授クヘシ

九 定理ノ形式、其ノ直互ノ關係等ハ最初ニ於テ授クルヨリモ寧稍々進ミタル後便宜之ヲ授クル  
ヲ可トス

十 三角法ニ於テ高サ、距離等ノ測法ハ其ノ實習ト共ニ成ルヘク早ク之ヲ授ケテ興味ニ訴フルコ  
トヲ要ス

十一 圓函數ハ初眞數ヲ用ヒ後對數ヲ用フルヲ可トス

十二 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ

日時計 時計 羅針盤 めーどる法尺 三種比較尺 日本秤 めーどる法分銅 台秤 液量樹  
穀量樹

めーどる法量器 外國度器 黑板用こんばす 黑板用各種ノ定規 らゐるにゐる模型 ておど

りつと 卷尺ちびしん 旗竿等

日本貨幣圖 外國貨幣圖 幾何立體ノ模型

博物

第一 礦物界

每週二時

第一學年

礦物界ノ教授ハ細密ナル記載ニ偏スルコトナク又科學上ノ順序ニ泥ムコトナク生徒日常ノ經驗ニ訴ヘ成ルヘク具象ノ標本ヲ基礎トシテ礦物界ニ關スル主要ナル事項ヲ約說スヘシ其ノ目凡左ノ如シ

水晶、砂岩

水晶ノ玉(石英) 水晶ノ自然ノ形(結晶) 結晶ノ見分ルハ稜ノ銳鈍ニ依ルコト 結晶ノ生長ノ仕方 結晶ノ集合體 水晶ノ脈等(產出ノ狀) 其ノ硬度 硬度ノ計リ方花崗石<sup>ミカケイシ</sup>中ノ石英 石英ノ砂 河海ノ砂 砂層、粘土層、礫層(破岸質水成岩) 地層ノ形 砂岩 濱ノ砂中ノ介砂岩中ノ介(化石) 珪岩

教授用具

水晶ノ玉 山ヨリ出テタル儘ノ水晶 測角器 水晶ノ晶族 水晶ノ晶群 硬度計 花崗岩 川ノ砂 砂岩 介化石ヲ含ミタル砂岩 珪岩

石炭

瀝車汽船等ノ動力 石炭ノ用途 其ノ色、脆サ、燄ノ臭ミ等 石炭坑 石炭層 其ノ變位(皺

瀝車汽船等ノ動力 石炭ノ用途 其ノ色、脆サ、燄ノ臭ミ等 石炭坑 石炭層 其ノ變位(皺

石炭

瀝車汽船等ノ動力 石炭ノ用途 其ノ色、脆サ、燄ノ臭ミ等 石炭坑 石炭層 其ノ變位(皺

斷層等)九州、北海道等ニ於ル石炭ノ產地 石炭ノ生因 仙台ノ埋木

泥炭 石墨

教授用具

石炭ノ片 石炭坑内ノ圖 厚紙、板、粘土等(地層ノ曲リ、厚サノ變化、斷層等ヲ説明スル爲ノモノ) 仙臺ノ埋木 泥炭 鉛筆

粘土ノ粘板炭

瓦、煉化石、茶碗等ノ原料 其ノ製法 河沼等ノ底ニアル粘土 粘土ノ性質 陶土 粘土中ニ介化石ノ存在スルコト 石盤、硯石等 粘板岩ト粘土ノ比較

教授用具

瓦、煉化石、茶碗 捏子タル粘土 川ノ粘土 介化石ヲ含ミタル粘土 學校ノ石盤 黒キ硯

石

石灰

漆喰ノ中ノ一原料 燒キテ石灰ヲ得ル石 石灰ノ燒キ竈 石灰炭ノ產出 鐘乳石ノ生因 鹽酸ト石灰岩トノ反應 石灰岩ニ對スル水ノ作用 石灰洞 石灰岩ノ材料ナル方解石 其ノ劈開

重屈折 大理石 美濃赤坂ノ石灰山石版用ノ石灰岩 珊瑚礁

教授用具

石灰 石灰岩 石灰ノ燒キ竈ノ圖、石灰岩掘リ場ノ畫 固有ノ凹凸多キ石灰岩表面ヲ示ス畫

鐘乳洞ノ畫 鹽酸 方解石ノ劈開片(透明ナルモノ) 大理石石版印刷ノ石 珊瑚礁ノ畫

鐘乳洞ノ畫 鹽酸 方解石ノ劈開片(透明ナルモノ) 大理石石版印刷ノ石 珊瑚礁ノ畫

石油

石油ノ産出ト採取汲ミ井戸、噴キ井戸 其ノ色、臭ミ、比重、揮發性 製油所らんぶ油 器械油、石蠟越後ノ火ノ井戸(石油ト共ニ出ル瓦斯)

教授用具 山ヨリ出テタル儘ノ石油 石蠟ノ蠟燭 器械油

硫黄

附木ノ硫黄 硫黄ノ色、つや、燃ユル臭ミ等 火山ノ蒸氣ト其ノ臭ミ 同所ニ生スル花硫黄 硫黄ノ産出ノ状 噴火山 硫黄ノ岩石分解 火山ノ岩石 火山灰 熔岩ノ形(其ノ生因) 岩脈 熔岩流

教授用具

附木 硫黄ノ粉 火山ノ花硫黄 硫氣ニテ朽テタル火山ノ石 火山岩 火山灰 富士ノ繩状

熔岩 岩脈ヲ示スヘキ粘土既成ノ模型 熔岩流ヲ示ス圖

銀、銅、鉛、鉄等

銀、銅、鉛、鉄等及其ノ合金ノ用途 銀、銅、鉛、鉄ノ鑛山 其ノ鑛山 輝銀鑛ノ外見 方鉛鑛ニモ銀ヲ含ムコト 黄銅鑛 其ノ色、つや、粉末ノ色、燒クル臭ミ等 方鉛鑛 其ノ色、つや、劈開等 次管ヲ用ヒテ分析スレハ鉛ヲ得ルコト 磁鉄鑛 其ノ色、磁氣 鑛石一般ノ産出

鑛脈、鑛床

教授用具

銅板 鉛ノ玉 鉄釘 輝銀鑛 黄銅鑛 條痕板 方鉛鑛(粗粒質ノモノ)木炭 そーだ 吹管 ぶらちな板 酒精燈 磁鉄鑛 鑛脈ヲ示ス圖 鑛塊ノ圖 鑛脈、鑛塊ノ粘土模型

黄金

黄金ノ用途 其ノ鈍展 其ノ色、つや、比重 砂金 金鑛 北海道、佐渡等ニ於ケル金産地 教授用具

金箔 砂金場ノ畫 黄金ヲ含ミタル石英脈

飾リノ石

寶石ノ特性 金剛石 日本ノ黄玉、水晶 孔雀石 瑪瑙 大理石、蛇紋石 琥珀等 是等ノ物ノ用途 教授用具

日本ノ黄玉 孔雀石 大理石 蛇紋石 琥珀

岩石

石灰岩、砂岩、礫岩(層状岩) 安山岩、花崗岩(塊状岩) 岩石ノ生因(水成岩)(火成岩) 土地ノ岩石ノ生因ヨリ昔ノ地勢等ヲ知ルコト 岩ノ中ノ化石 海ノ介カ山ノ岩ノ中ニ見出サル、コト 奇形ノ化石ト其時代 岩石識別ノ諸点 其ノ薄片ヲ顯微鏡ニテ見タル様子 粘板岩、大理石等、建築ノ石材 石垣ノ石材 礫岩等 道鋪ノ石材 石碓 教授用具

石灰岩 安山岩 花崗岩 あんもん介又ハ其ノ畫 顯微鏡ニテ岩石ヲ見タル様子ヲ示ス圖



地球

地殻ノ構造(岩ト土) 層、皺、斷層、岩脈、岩株等 岩石分解、崩壞等 水蝕ト沈澱 石垣等ノ風化 景色ト地質トノ關係 地中ノ有用物 地變(火山、地震、山崩等) 大氣氣象 四季、晝夜 地球ト日月 日蝕、月蝕 月ノ表面、運動 惑星、太陽系 其ノ他ノ天體 教授用具

土 鐵道切り割りニ於ケル地層ノ新面圖 堅岩ノ山ト軟岩ノ山ノ影色畫 風化シタル岩ト其ノ新鮮ナル部分

火山、地震、山崩等ノ畫 雨量圖 風向圖 同溫線圖 地球儀 羅針盤 日時計 日蝕、月蝕ノ説明圖 月ノ表面ノ畫 太陽系ノ畧圖

前記ノ教授事項及用具ノ目ハ其ノ目的及範圍ヲ示スニ止マレハ必シモ之ニ拘ハルコトナク便宜之ヲ變更スルコトヲ得要スルニ是等ハ成ルヘク日常卑近ノモノニシテ鑛物及岩石ノ類ヲ代表シ且廣ク形態、理化學性、產出ノ狀、生因及變化、應用、地質上ニ於ケル相互ノ關係等ニ涉リテ鑛物界全般ノ概念ヲ得シムル便アランモノタルヘシ

第二 植物

第二學年

每週二時

植物ノ教授ハ分類ニノミ偏スルコトナク植物界ノ現象全般ニ涉ルヘシ其ノ事項ノ主要ナルモノ次ノ如シ

植物ノ主要ナル器官 其ノ種々ナル變形 解剖

植物體根本的構造ノ大要(細胞、導管、組織、細胞含有物ノ主要ナルモノ、根、莖、葉等ノ解剖) 虫眼鏡及顯微鏡ノ用法

生理

營養 同化 吸收 通發 呼吸 生長 運動 刺戟感應 生殖等ノ大要 是等ノ諸作用ト人體及動物體ニ於ケルモノトノ類同

生態

植物生活ト外圍トノ關係 其ノ形態、解剖、生理、分布上ニ於ケル影響

分類

分類ノ主意 簡易ナル一ノ自然分類法 雙子葉類、其ノ主要ナル科ノ數例 單子葉類、其ノ主要ナル科ノ數例 松柏類 羊齒門、蘇苔門、菌藻門ノ大要 醱酵 腐敗、傳染病ノ原因タル下等植物ノ大要 學校處在地方ノ普通植物中顯著ナルモノ、種類、名稱

分布

學校處在地方ニ於ケル植物ノ分布 生態的分布 植物群落 高山植物 海濱植物 砂地植物 濕地植物等 地球上ニ於ケル顯著ナル植物區系及日本植物區系ノ大要

應用

植物カ自然界ノ經濟上ニ及ホス影響 植物ノ人生ニ於ケル關係 木材其ノ他食用、藥用、工業

用、園藝用等ニ係ル日本産及外國産植物中最主要ナルモノ 其ノ有用ナル部分ノ特性  
前記ノ事項ハ必シモ順序ヲ追フテ授クルコトヲ要セス適宜分合シテ之ヲ授クルコトヲ得、特ニ季  
節ニ應シテ適當ナル題目 (例ヘハ春季ニ發芽、櫻花、菜花、秋季ニ果實、紅葉、落葉等)ヲ撰ミ  
之ニ就キテ便宜形態、解剖、生理、生態、分類、分布、應用ノ諸項若ハ其ノ中ノ數項ヲ歸納的ニ  
授クルカ如キハ生徒ノ興味ヲ増シ理會ヲ助クル益アルヘシ

第三 生理及衛生

第三學年 第一學期及第二學期

每週二時

總論

人體ハ有機體ナルコト 生理、衛生ノ意義 其ノ人生ニ於ケル價值、衛生及道德 人體作用ノ  
主要ナルモノ器官ノ系統 人體ヲ構造スル結局ノ要素ハ植物ニ於ケルカ如ク細胞ナルコト

骨骼系統

骨骼ノ大要(頭骨、軀幹骨、上肢骨及下肢骨)ノ主要ナルモノ、關節及其ノ種類 骨ノ構造 軟骨

骨骼ノ作用

衛生

筋系統

筋ノ構造 腱 韌帶 筋ト骨トノ關係 筋系統ノ作用 直立及諸種ノ運動(歩行、走行、跳ム  
こと)顯著ナル筋肉(兩頭筋、三稜筋、大臀筋、腓腸二頭筋等)

衛生

消化系統

消化系統ノ諸部 其ノ消化作用 食物ノ種類 普通食物ノ成分ノ大要 其ノ營養及消化ノ程度

衛生

循環系統

血液 心臟ノ構造 動脈 靜脈 毛細管 心臟ノ鼓動脈搏及其ノ數 循環系統ノ作用 淋巴管  
及腺

衛生

呼吸系統

肺臟及氣管ノ構造 呼吸運動 呼吸系統ノ作用 發聲器

衛生

皮膚

皮膚ノ構造、結締組織、脂肪 皮膚ノ作用 毛髮、爪

衛生

腎臟

腎臟ノ構造及作用

衛生

神經系統

腦ノ構造及作用 脊髓ノ構造及作用 神經ノ構造及作用 交感神經

衛生

五官

眼ノ構造及作用 耳ノ構造及作用 嗅器ノ構造及作用 味器ノ構造及作用 觸器ノ構造及作用  
衛生（特ニ近視眼豫防上ノ注意）

全身ニ關スル事項

體溫、發熱 新陳代謝、生長、肥滿、羸瘦 全身ノ調整

全身ノ衛生

清潔 運動、休息 起臥 修學時間 旅行ニ對スル心得 救急療法 疾病ニ對スル心得等

公衆衛生

各器官系統ノ衛生ヲ授クル際其ノ系統ノ最羅リ易キ疾病ノ名稱ヲ知ラシムヘシ

第四 動物

第三學年 第三學期

第四學年 第一學期及第二學期

動物ノ教授ハ分類ニノミ偏スルコトナク動物界ノ現象全般ニ涉ルヘシ其ノ事項ノ主要ナルモノ次

ノ如シ

分類

分類ノ主意 分類ノ方法 動物界諸門ノ概性

脊椎動物

哺乳類 鳥類 爬虫類 兩棲類 魚類 各種諸目ノ大要

節足動物

多足類 蜘蛛類 昆虫類 其ノ諸目ノ大要 甲殼類

軟體動物

瓣鳃類 腹足類 頭足類

蠕形動物

棘皮動物

腔腸動物

海綿動物

原生動物

分類ヲ授クルニハ顯著ナル適例ヲ示シテ網或ハ主要ナル目ヲ説明スルニ止メ分類區分ノ名稱、

特徴等ヲ細密ニ授クルコトナク主トシテ動物界ニ含有セラル、動物ノ概念ヲ與フルコトヲ力ム

ハシ又必スシモ前記ノ順序ニ依ルコトヲ要セス

習性

生徒ノ容易ニ實驗又ハ目撃シ得ヘキモノ、自然界ノ現象トシテ趣味アルモノ、及人類ニ關係ア

ルモノ

解剖、組織

脊椎動物ノ解剖ハ人體解剖ト比較シテ大要ヲ授ケ其ノ下等ニ至ルニ從ヒ漸次簡單ニナルコトヲ

知ラシメ無脊椎動物ニ在リテハ其ノ一二ニ就キテ解剖ヲ授ケ其ノ他ハ特ニ注目スヘキ点又ハ外部ヨリ觀察シ得ヘキ点ヲ舉グルニ止ムヘシ  
組織ニ於テハ動物體ハ細胞ヨリ成ルコトヲ知ラシムルヲ旨トシ必スシモ各器官ニ就キテ詳細ナル説明ヲナスコトヲ要セス

生殖、發生、生長

生物界ニハ自然發生ナキコト 無性生殖 有性生殖 卵 其ノ發生ノ大要 昆蟲特ニ蠶ノ變體 其ノ他ノ變體ノ大要

生態

卵ノ發生ハかへる、うに、なめくじらヲ等ノ卵ニ就キテ之ヲ説明スヘシ

寄生

共生 保護色及其ノ他ノ彩色等

分布

動物ノ散布 世界分布區系ニ就キ二三顯著ナル事實

動物界ノ變遷

化石 過去ノ動物ハ現今ノ動物ト異ナルコト 顯著ナル化石動物ノ數例

動物界ト植物界、礦物界トノ關係

應用 寄生蟲ニ對スル豫防、病毒媒介動物ニ對スル注意 農林業上ノ有害動物、有益動物 兩者ノ關係及其ノ應用 家畜、人爲淘汰 肥料 我國特ニ學校所在地方ニ於ケル主要ナル水産物ノ利用

三 食料、衣料、藥品、香料、染料、裝飾品等

前記ノ事項ハ分類ヲ主トシ各類ニ就キテ之ヲ授クルトモ或ハ其ノ或ルモノハ分類ト同時ニ之ヲ授ケテ其ノ他ノモノハ別ニ之ヲ授クルトモ妨ナシ

第四學年第三學期ニ於テハ第一學年ヨリ授ケ來リタル事項ヲ總括シテ

自然界ノ微妙複雑ナル關係 生存競争 自然淘汰人爲淘汰 進化論

ノ大意ヲ約說シ自然界ト人類トノ關係ヲ理會セシムヘシ

教授上ノ注意

一 博物ニ於テハ室内教授ニ伴フニ野外觀察ヲ以テシ生徒ヲシテ修業ノ後博物ノ名ヲ聞クトキハ直ニ自然界ヲ思ヒ出スニ至ラシメンコトヲ期スヘシ

二 博物ヲ授クルニハ實物ニ依リテ生徒ノ觀察及記載ヲ練習シ常ニ實物ニ訴ヘテ事物ヲ判斷スル習性ヲ養成スヘシ之カ爲時トシテ其ノ教材タル實物ノ要点ヲ簡明ニ寫生セシムルコトアルヘシ

三 博物ハ區分シテ之ヲ授クト雖モ常ニ礦物、植物、動物三界ノ相互ノ關係ニ留意シ生徒ヲシテ自然界ノ統一ニ就キテ明晰ナル概念ヲ得シムヘシ

四 人生ニ關係アル顯著ナル天然物ニ就キテハ直接、間接ニ其ノ有用又ハ有害ナル理由ヲ示シ且其ノ利用ヲ苛且ニ附スヘカラサルコトヲ知ラシムヘシ

五 各地固有ノ風景ハ之ヲ構成スル礦物、岩石、植物、動物ニ歸スルコト多キモノナレハ學校處在地方ニ於ケル其ノ種類、分布又ハ生態ヲ野外ニ於テ親シク示シ生徒ヲシテ自然界ヲ愛シ從

- ヒテ己ノ郷土ヲ慕フ念ヲ起サシメ又進ミテハ熱帶、温帶、寒帶ノ風景ノ異ナルコトヲ説キテ他郷異邦ニ遊ブ快樂ヲ覺ラシムヘシ
- 六 植物及動物ノ教材ハ成ルヘク日本産普通ノ生物中ヨリ之ヲ採ルヲ可トスト雖モ亦世界各地ニ産スル生物ニシテ最モ顯著ニ且最モ緊要ナルモノ、如キハ之ヲ引用センコトヲ要ス
  - 七 解剖、組織ヲ授クルニハ實物ニ就キテ解剖ヲ行ヒ又諸組織ノ簡易ニシテ生徒ノ理會シ得ヘキモノハふればらト用ヒテ説明スヘシ
  - 八 人體内臓ノ構造ヲ授クルニハ他ノ動物、就中哺乳類ヲ解剖シテ之ヲ明ニスヘシ又毛細管中ノ循環ハ蛙等ニ就キテ其ノ實狀ヲ目撃セシムヘシ
  - 九 植物ノ教材ハ悉ク季節ニ從ヒテ之ヲ配列スルコト能ハサルモ成ルヘク季節ニ對應セシメンコトヲ力ムヘシ
  - 十 生理及衛生ヲ授クルニハ各器官系統相互ノ關係ニ注意シ其ノ箇々獨立ノモノニアラサルコトヲ明ニスヘシ
  - 十一 生理及衛生ノ事項ハ出來得ル限生徒自身ノ身體及經驗ニ訴ヘテ歸納的ニ之ヲ授ケ其ノ生徒自身ニ極メテ親密ナル關係アルコトヲ知ラシムヘシ
  - 十二 適當ノ機會ニ於テ日常卑近ノ現象、例ヘハ循環ニ於テ赤面スルコト、顔面ノ蒼クナルコト呼吸ニ於テくさめ、さくり、あくび、せきノ類ヲ説明シテ興味ヲ添ヘンコトヲ力ムヘシ
  - 十三 衛生ニ於テハ吾人日常ノ生活ニ最モ近接ナル事項ヲ授クヘシ
  - 十三 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ

博物全體ニ通スルモノ

- 顯微鏡 蟲眼鏡 解剖用具 (解剖針、解剖刀、解剖鉋、解剖皿、びんせつと等) みくろとーむ 剃刀 革砥 消毒器 酒精燈 試験管 諸種ノ壞 貯藏藥品 其ノ他ノ材料
- 顯微鏡ハ接物れんす及接眼れんすノ組ミ合セニ依リ凡五十倍乃至四百倍ノ間ニ種々ノ廓大度ヲ有スルモノヲ以テ最モ便利トス
- 礦物ニ關スルモノ
- 鉄槌 採集囊 吹管分析用具 硬度計 天秤 螺旋秤 測角器 條痕板 あねろいと晴雨計 寒暖計 日時計 羅針盤 地球儀
- 主要ナル礦物 結晶、晶簇 晶群ヲ示ス標本 主要ナル岩石 化石ヲ含ミタル岩石 礦物、岩石ヲ原料トシタル加工品 風化ヲ示ス標本 簡單ナル結晶形ヲ示ス模型 鑛脈、鑛床、鑛坑ノ内部、地層、斷層、ノ火山等ヲ示ス模型又ハ圖書 風景圖 雨量圖 風向圖 同溫線圖 其ノ他ノ掛圖
- 植物ニ關スルモノ
- 採集筒籠 壓搾器 主要ナル生理器械 乾燥標本
- 主要ナル植物ノ腊葉 學校所在地方ノ植物腊葉 材鑑 半輪其ノ他幹ノ構造ヲ示スモノ 纖維原料及製品 有用乾燥果實及種子 藥用植物、纖維植物、染料植物等ノ有用植物 澱粉製品 有毒植物 農業植物及果樹ノ媒助昆蟲 主要ナル組織ノふればらト 微細植物ノふればらト

ばらりと乾燥標本トシテ備フルモノハ生標本ヲ得難キモノ又ハ腊葉トシテ尙天然ノ色及形ヲ保存スルモノタルヘシ而シテ有用植物ノ標本ハ單ニ花及枝葉ノ形狀ニ重キヲ置カス主トシテ其ノ用途ニ從ヒテ有用ノ部分ヲ具備セシムヘシ例ヘハ根ヨリ澱粉ヲ取ルモノハ根部、皮ヨリ纖維ヲ取ルモノハ皮部ヲ具備セシムルカ如シ  
あるこゝる又ハふおるまりん標本

多肉果實 多肉植物 食蟲植物 寄生植物 有毒菌類 食用菌類

あるこゝる又ハふおるまりん標本トシテ備フルモノハ實驗ニ使用スヘキ材料ニシテ季節ニ於テ容易ニ得難キモノ又ハ其ノ時期長カラスシテ適當ノ季節ヲ誤ル虞アルモノ、模範的ニシテ大ナル果實ノ解剖標本、其ノ他乾燥スルトキハ天然ノ状態ヲ損フコト甚シキ虞アルモノタルヘシ

生標本

主要ナル山林樹木、藥用植物、纖維植物、染料植物等ノ有用植物 有毒植物 花又ハ果實ノ色、大サ、形等ノ顯著ナルモノ 形狀、生態等ノ珍奇ナルモノ 普通ノ接木、取木等  
花壇ハ定時又ハ臨時ニ材料ヲ得ル所タルノミナラス又屋外教授ヲモナシ得ヘキ所タランコトヲ要ス

花壇ニハ簡單ナル分類花壇ノ外、生理花壇、生態花壇等ヲ設ケ生理花壇ニハ就眠植物、纏繞植物等ヲ、生態花壇ニハ肉食植物、寄生植物等ヲ植ウルモ亦興アルヘシ  
前記ノ外模型又ハ圖書ヲ利用スルコトヲ怠ルヘカラス植物園、農事試驗場等ノ設アル地方ニ在

リテハ之ヲ利用シ學校ノ設備ノ不足ヲ補ハンコトヲカムヘシ  
生理及衛生ニ關スルモノ

檢眼鏡 暗箱 實體鏡 觸覺ヲ測ル器 體溫器 救急函  
人體骨骼 人體ノ紙塑模型 眼ノ模型 耳ノ模型 主要ナル組織ノふればらりと 病菌ノふればらりと 人體寄生動物

掛圖

動物ニ關スルモノ

捕蟲網 ざれつち じろゝる ちつばし 採集箱 展翅板 注射器 解剖用鋸 骨鋏  
主要ナル綱目ヲ代表スル動物 其ノ體格 解剖、長生變體等ヲ示ス標本又ハ模型 保護色、季候變形、兩性變形、寄生、共生等ヲ示ス標本又ハ模型 有用動物 有害動物 學校處在地方ノ動物 動物ヲ原料トシタル加工品 主要ナル組織ノふればらりと 微細動物ノふればらりと  
化石動物數種又ハ其ノ模型或ハ圖  
動物ノ標本ハ生標本ヲ以テ最良トス然レトモ種々ノ事情ニ依リ之ヲ備ヘ難キコト多キカ故ニ剝製標本、あるこゝる標本等ヲ備フルコトヲ要ス而シテ是等ノ標本ハ生キタル動物ノ代表者ナレハ成ルヘク其ノ生態ヲ示スモノヲ可トスあるこゝる標本ニシテ收縮等ニ依リ其ノ生時ノ状態ヲ推知シ能ハサルモノ、如キハ教授上殆ト無益ナリトス

掛圖ハ時トシテ標本ヨリモ用ヲナスコト多キコトアレハ十分ニ之ヲ利用スヘシ  
動物園、水産試驗場等ノ設アル地方ニ在リテハ之ヲ利用シ學校ノ設備ノ不足ヲ補ハンコトヲ力

物理及化學

第一 物理

每週四時

力學

長さ、面積、立積、時ノ單位 静止及運動 速度及其ノ計リ方 加速度 運動ノ組立及分解  
圓運動 慣性 力 質量 質量ノ單位 密度 力ノ絕對單位 力ノ重力單位 運動量 作用及  
反動 質点ニ作用スル力ノ組立及分解 重力 落體 拋射體 剛體ニ作用スル力ノ組立及分解  
力ノ能率 重心物體ノ座リ 天秤 槓子、輪軸、滑車等 摩擦 仕事 仕事ノ單位 ねねる  
ぎ一ニ二種アルコト ねねるぎ一ノ保存 單振子 合成振子 相當單一振子 時計 ?ノ測定  
宇宙引力

物性

分子 分子力 物質ノ三態 彈性 ふつくノ定律 毛管現象 表面張力 滲散 滲透 吸收  
液體ノ壓力 ばすかるノ原理 水壓器 重力ニヨリテ生スル壓力 水平面 水準器 あるき  
めですノ原理 浮游體 比重及其ノ測定 浮秤 流出液ノ速度 大氣ノ壓力 どりちねり一ノ  
實驗 晴雨計 晴雨計ニヨリテ山ノ高サヲ測ルコト 大氣中ノ浮力 ぼいるノ定律 空氣ぼん  
ぶ水ぼんぶ 物質ノ保存  
音響

振動 週期 振動數 振幅 波動 波及ノ速度 波長 位相 高低波 疎密波 音響ノ發生及  
傳達 音響ノ速度 音ノ反射 音ノ干渉 音ノ強サ 音ノ高サ 音ノ音色 原音 陪音 人ノ  
音聲及音樂ニ用フル音ノ振動數 蘇音器 唸リ 共鳴リ、統、板、膜、棒、氣柱等ノ振動

熱

溫度 諸種ノ寒暖計 固體ノ膨脹 膨脹ニ伴フ密度ノ變化 膨脹係數 液體ノ膨脹 水ノ膨脹  
氣體ノ膨脹 しやゝるノ定律 ぼいるノ定律トしやゝるノ定律トノ關係 絕對溫度 熱量及  
其ノ單位 物體ノ熱容量 物質ノ比熱 比熱ノ測定 熱ハねねるぎ一ナルコト 仕事當量 じ  
やゝるノ實驗 蒸氣機關 融解及凝固 融解熱 寒劑 蒸發 沸騰 氣化熱 液化 濕度及濕  
度計 蒸溜傳導 安全燈 對流 輻射

光

光體 光ノ直進 陰影 速度 透明、半透明、不透明光ノ強サ 光度計 反射ノ定律 散光  
平面鏡 像 球面鏡 焦点距離 屈折ノ定律 屈折率 透次ノ屈折 全反射 れんす れんす  
ノ焦点距離及れんすノ作ル像 暗箱 眼鏡 顯微鏡 望遠鏡 幻燈 ぶりすむ 光ノ分散 す  
べくとる 分光器 すべくとるノ種類 ふらうんほーふえる線 輻射線ノ種類 輻射ト吸收ト  
ノ關係 すべくとる分析 虹 物體ノ色 磷光 螢光 光ノ波動說 波長 光ノ干渉 光ノ偏  
リ 復屈折

磁氣

磁石ノ兩極 羅針盤 兩極間ノ作用 磁氣ノ感應 くるんノ定律 磁場及指力線 磁石ノ作

静電氣  
リ方 地磁氣 方位角 傾角、水平分力 等磁線及地磁氣ノ變化

摩擦ニヨル發電 傳導 二種ノ電氣 クーロンノ定律 電氣量ノ單位 驗電器 電氣ノ分配  
尖点ノ作用ノ電氣ノ感應 電氣盆 ういむしややすトノ起電機 ばてんしやる 電氣容量  
いでん瓶及こんでんさい 雷電ノ避雷針  
流動電氣

電池 極 電流 輪道 電動力 各種ノ電池 ねるすてつゴノ實驗 わんべーノ定律 電流  
ノ作ル磁場 それのいご 電流相互ノ作用 電磁石 電鈴 電信機 電流計 無定位針 抵抗  
おーむノ定律 電氣諸量ノ單位 輪道ノ分派 電池ノ繋キ方 電磁氣感應 相互感應 れん  
ツノ定律 自己感應 るーむこるふノ感應器 電氣火花 がいすれる管 くるしくす管 れん  
どげんノ實驗 電話 微音器 だいなも及電氣發動機 じやうるノ定律 電燈 熱電流 電流  
ノねねるぎ一電氣分解 ふあらでーノ定律 電鍍術及電鑄術 蓄電池  
尺貫法單位ノ外ゆーとる法特ニCGS法ヲ授クヘシ  
光ノ波動説、偏リ及複屈折ハ其ノ大意ヲ説クニ止ムヘシ

第二 化學

第四學年 第一學期及第二學期  
第三學期

每週三時  
每週四時

普通ノ氣體 空氣、酸素及窒素 燃燒及酸化 化學變化 化合物、單體及元素 質量ノ不變 水及水素 定

比例ノ定律、無水炭酸、炭素ノ循環 元素ノ不滅 酸化炭素 倍數比例ノ定律 鹽化水素及鹽  
素 あむもにあ及鹽化あむもにうむ氣體ノ通性 氣體反應ノ定律 分子量 原子量 記號 分  
子式 實驗式、原子價 基 示性式 原子分子説

酸素及其ノ化合物 酸素及おぞん 酸化物、水酸化物及過酸化物 酸化物ノ分類 酸、鹽基及鹽 非金屬元素及金  
屬元素

はろげん及其ノ化合物

鹽素、臭素、沃素及弗素 はろげん化合物 はろげんノ酸化物、酸及鹽 溶液 飽和及結晶 電  
解及其ノ定律

硫黃及其ノ化合物

硫黃 硫化物 硫黃ノ酸化物、酸及鹽

溶 波

溶液ノ滲透壓 蒸氣壓、沸点及氷点ノ變化 電解質ノ水溶液ノ特点 電離 酸及鹽基ノ強弱  
中和熱 反應熱

窒素、磷、砒素及其ノ化合物

窒素ノ燐及砒素 其ノ水素化合物 其ノはろげん化合物 其ノ酸化物、酸及鹽 窒素ノ循環  
活動量

化學變化ノ速度 活動量 可逆反應 化學平衡



炭素、珪素、硼素及其ノ化合物

炭素 木炭及石炭 石炭瓦斯及水瓦斯 めたん、ひちれん及あせちれん 火燄 炭素ノ酸化物  
及硫化物 炭酸及其ノ鹽 しあん及しあん化合物 錯塩 珪素、珪酸及其ノ鹽 硼素 硼酸及  
其ノ鹽

金屬及其ノ化合物

なとりうむ、かりうむ及其ノ化合物 あむもにうむ、化合物 かるしうむ及其ノ化合物 まぐ  
ねしうむ、亜鉛及其ノ化合物 鉄、につける、こばると、まんがん、くろむ、あるみにうむ及  
其ノ化合物 錫、鉛、蒼鉛、あんちもん及其ノ化合物、銅、銀、水銀、金、白金及其ノ化合物  
合金 冶金術

週期律

原子量ノ順序ニ配列シテノ元素ノ比較 原子量ト物理性質及化學性質トノ比較

有機化合物通説

有機化合物ノ特性 其ノ成分 異性體 構造式

脂肪族化合物

鎖狀炭化水素 石油 あるこゝる類 はろげん誘導體 ぬゝてる類 あるでひご類及けどん類  
酸類 ぬすてる類 蠟 油及脂肪 石鹼 あみん類及あみご化合物 炭水化合物

芳香族化合物

こゝるたゝる べんせん及其ノ同族體 にとろ及あみの誘導體 ふねのる類 酸類 なふたれ

ん及あんのらせん ありざりん、藍碓及あにりん染料 てるべん及樟腦族 びりちん、きのり  
ん及あるかるいご 蛋白質

醱酵及腐敗

醱酵 酵素及酵母 腐敗 消毒及防腐

硫酸、あるかり、漂白劑、肥料、硝子、陶磁器 漆喰、せめんご、合金等ノ製法及用途、普通金  
屬ノ冶金 寫眞染色、醸造等應用ニ關スル事項ハ適當ノ機會ニ於テ之ヲ授クヘシ

教授上ノ注意

- 一 物理及化學ヲ授クルニハ成ルヘク卑近ナル實例ニ依リ且器械、標本等ノ許ス限實物ヲ示シ實  
驗ヲ行フヘシ
- 二 密度ノ比重ト、質量ト重サトノ區別ハ初學者ノ誤リ易キモノナレハ特ニ注意シテ之ヲ明ニス  
ヘシ
- 三 物質保存及ぬねるぎ一保存ノ二大定律ノ物理學ノ骨子タレハ其ノ諸目ヲ授クルニ當リ常ニ此  
二定律ニ留意スヘシ
- 四 化學上ノ定律及學說ハ生徒既知ノ事實ニ關聯シテ之ヲ授ケ尙通ク化學ノ諸目ニ通シテ之カ活  
用ヲ示シ徒ニ高遠ナル理論ニ馳セサラシムコトヲ要ス時ニ溶液ニ關スル諸目ノ如キハ日常ノ事  
柄ニ關聯スルモノ少カラサレハ適例ヲ舉ケテ充分之ヲ説明スヘシ
- 五 時々簡易ナル計算問題ヲ課シ生徒既得ノ知識ヲ精確ナラシムヘシ
- 六 實驗ハ教授前周到ニ注意シテ之ヲ試ミ教授ノ際仕損シナカラシムコトヲカムヘシ

- 七 實驗ニ要スル器械、器具、材料及藥品等ハ成ルヘク教授前ニ教室ニ出シテ準備シ置クヘシ
- 八 實驗ハ之ヲ全體ノ生徒ニ時同ニ示サンコトニ留意シ教員及前面ノ生徒ノミ之ヲ見テ他ハ之ヲ見得サル弊ニ陥ラザランコトヲ要ス例ヘハ物理ニ於テ金箔驗電器ノ金箔ノ開閉及電流計ノ針ノ運動ヲ示ス如キ實驗ハ之ヲ一人ツ、各自ニ見シムルトキハ時間ヲ費スコト多キニヨリ能フヘクンハ教室ノ窓ヲ閉チテ暗黒ナラシメ得ル装置ヲナシヘリたすたつとヲ以テ太陽ノ光ヲ導キ色消れんすノ口徑五六せんちめーとるニシテ焦點距離ノ長キモノ(一めーとる)ト短キモノ(二十乃至三十せんちめーとる)ヲ使用シテ幻燈的ニ教室ノ内壁ニ投影セシムルコトモ一策ナリ
- 九 學校附近ニ工場等アルトキハ成ルヘク實地ニ就キテ機械工業、化學工業等ノ説明ヲ與フヘシ
- 十 物理ト化學トハ成ルヘク同一ノ教員之ヲ擔任シ其ノ教授ハ互ニ關聯補充スヘキハ勿論又他ノ學科目特ニ博物數學トノ連絡ヲ圖ルヘシ
- 十一 術語ノ物理ニ於テハ成ルヘク東京數學物理學會編纂物理學術語和英佛獨對譯字ニ、化學ニ於テハ成ルヘク高松學吉櫻井錠二編纂化學語彙ニ依ルヘシ
- 十二 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ
  - 物理ニ關スルモノ
    - 尺 一めーとる尺 卷尺 紙すけしる數枚 日本楮 五〇〇〇及五〇〇〇ノ硝子製量器 時計 どのるにぬー模型 回轉器 鉄、亞鉛、銅、真鍮等ノ同大ノ球及圓錐 象牙球 鉄すぶりんぐ(螺旋形ニシテ強キモノ及弱キモノ) 化學天秤 精微分銅一組 天秤 日本秤 台秤 分銅 鉛

- 製分銅數箇(五十瓦、百瓦、一きろ瓦等各數箇) 大小單滑車數箇 輪軸 各種滑車 斜面螺旋等ノ標本 軸 すたんど數箇 上下臺 取付萬力 試驗管各種 蒸發皿 びーかー大小數箇
- 硝子管大小數種 毛細管數種 ふらすこ若干 硝子板 びび管細大數種 木栓大小數種 金工道具 木工道具
- ばすかるノ原理ヲ示ス器 底壓ヲ示ス装置 ふらま水壓器 連通水平器 準 淨秤(にこるそん及ばーめー)あるきめですノ原理ヲ示ス装置 比重瓶 水銀晴雨計 あねろいど晴雨計 空氣ばんぶ及附屬品 水ばんぶ、波動ヲ示ス装置 あぞあーる齒輪 音又(振動數ノ知レタルモノ二三種及兩脚ニ重錘ヲ附シ之ヲ移動セシメラ音調ヲ變シ得ルモノ二三種)ものこーど 風琴管 りーどばいぶ 蘇音器 さいれん くらせにノ實ヲ示ス圓板、角板及萬力
- 寒暖計(水銀、あるこーる、最高、最低、乾濕球等ノ攝氏目盛寒暖計、外ニ華氏目盛寒暖計一本) 標準点ヲ定ムル装置 金屬ノ膨脹ヲ示ス器 補整振子 蒸氣器械模型いんげんはうす熱傳導比較器 安全燈
- 平面鏡 凹凸球面鏡 四方硝子水入箱 おぶちかるべんちノ用ヲナスヘキV字形溝付長板及其ノ上ニ動クヘギ台 ぶりすむ(直角及六十度)液ぶりすむ れんす數種(凹凸共)顯微鏡 望遠鏡 雙眼鏡 すべくどろめーとる 色硝子數種 寫真器械 眼球模型 あいすらんすすばー偏光器 へりおすたつと
- 棒磁石二本一組 馬蹄形磁石 羅針盤 傾角針 振り秤ノ裝置(靜電氣ニモ使用スルモノ) 鉄粉 鉄棒 鋼棒 ねばないど棒、硝子棒、猫皮等ノ一組 絶縁台 金箔驗電器 電氣振子 電

氣盆 ういひしやーすと起電機 (放電子ヲ示ス附屬附) れいでん瓶數箇 (大小又分解シ得ルモノヲ含ム) 放電子 電氣ノ表面ニノミアルコトヲ示ス装置  
 ぶんせん、だにゐる、乾電池等ノ電池各數箇 鏡附高抵抗電流計 (らんぶすけーる附) 正切電流計粗製電流計 それのいご あんべーる台 電磁石 電鈴 もーるす印字機 受話器 微音送話器 抵抗箱 すらいごふりつふ 感應ヲ示スこいる一組 感應こいる かいすれる管く  
 るーくす管 (×線ニ使用シ得ルモノ) 靑酸白金ばりうむすくりん はんどだいなも もーど  
 る白熱電燈 おーく燈 さーもばいる 電氣分解器 絶縁不絶縁ノ銅線數種  
 器械及其ノ標本ハ總テノ種類ノモノヲ完備スルコトヲ得ハ甚タ好都合ナルコト勿論ナレトモ經費等ノ事情ニ依リ之ヲ許サ、ルコト多シ宜ク輕重ヲ察シテ之ヲ撰擇スヘシ次ニ舉クル所ハ此擇  
 ナナスニ當リ考フヘキ主要ノ点ナリ  
 器械ニハ其ノ製作上甚タ精巧ナルモノト然ラサルモノトアリ例ヘハ前者ニハるーひこるふ感應こいるノ如キアリ後者ニハ作用ト反動トヲ示ス器ノ如キアリ而シテ感應こいるノ如キ精巧ナルヘキ性質ノモノニシテ唯々外觀ノミ美ニシテ其ノ用ヲナサ、ルモノアリ此種ノモノハ價ヲ客マ  
 ス良好ノモノヲ購入スヘシ分光器ノ如キモ不良ノモノヲ購入シテふらうんぼーふゐる線ヲタニ  
 シスコト能ハサリシ例アリ又精巧ヲ要セサル性質ノモノニシテ徒ニ華美ナル台ヲ附ケ柱ヲ立テ  
 金具ヲ以テ飾リ強ヒテ外觀ノ美ヲ街フモノアリ是等ノ器械ヲ購入スルハ全ク無用ノ業ナレハ極  
 マテ粗製ノモノヲ有スレハ可ナリ  
 作用ト反動トヲ示ス器ノ如キハ粗製ニテ可ナル事ヲ述ヘタレトモ尙一步進ミテ考フルトキハ此

ノ如キモノハ殆ト購入ノ價値ナキモノナリ是等ノ器械ハ教室ニ備ヘ置クヘキすたんど及象牙球  
 又ハ木球等ヲ用ヒテ隨時裝置シ得ヘキナリ特ニ注意スヘキハ新ラシキ事實現象ヲ示スニ一々特  
 種ノ器械又ハ裝置ヲ用フルトキハ生徒ハ此ノ如キ器械ニ非サレハ是等ノ事實現象ヲ學ビ得サル  
 モノト考フルニ至ルコトアリ故ニ止ヲ得サル場合ニ於テ特別ノ器械裝置ヲ用フルトキハ充分ニ  
 生徒ヲシテ其ノ精巧ノ器械裝置ヲ要スル所以ヲ悟ラシメ然ラサル場合ニ於テハ成ルヘキ丈ケ勿  
 體ラシキ器械裝置ヲ使用セサル様ニスヘシ  
 化學ニ關スルモノ

- 酒精燈及酒精噴燈若ハ瓦斯燈 化學天秤及分銅 寒暖計 木栓壓搾器 木栓穿孔器 圓形鑷
- 三角形鑷 小刀 吹管 吹管用燈 磁製及鉛製坩堝 坩堝挾 足踏鞴 手鞴 燃燒匙 燃
- 燒管 乳鉢及乳棒 漏斗及漏斗臺 びべつと びゆれつと及びゆれつと臺 れとると及れとる
- と臺 冷却器及冷却器臺 木製及金屬製架臺 三脚臺 湯煎器 水浴 空氣浴 劃度圓筒 量
- 液瓶 挾止 挾子 活栓付硝子管 水槽 瓦斯溜 さつぶ氏氣體發生器 U字形乾燥器搭狀乾
- 燥器 乾燥放冷器 有口硝子鐘 有底圓筒 炭酸定量器 水ノ電解器 鹽化水素ノ電解器 加
- 里球 あむもにお容積分測定器 鹽化水素容積分測定器 ゆーぢおめーどる 驗電器 滲
- 透壓實驗器 示差寒暖計 溶液沸點測定器 溶液冰點測定器 びーかー 蒸發皿 時計皿 廣
- 口硝子壘 狭口硝子壘 九底硝子瓶 平底硝子瓶 三口壘 二口壘 安全管 漏斗管 活栓付
- 漏斗管 硝子板 硝子管 硝子棒 試驗管 びび管 濾紙 白金線 銅線 木栓 金網 其他
- ノ諸材料

次ノ諸製造等ノ裝置機關ヲ示ス模型又ハ掛圖  
硫酸製造 鋸 鋸ノ製造 石炭ノ乾溜 陶磁器窯 反射爐 彭風爐 製鋼爐 釀造 蔗糖製  
造

化學藥品ハ之ヲ示サスト雖モ此要目ニ關スルモノニシテ保存ニ不便ナルモノ若ハ高價ナルモノ  
、外ハ必ス之ヲ備ヘ其ノ品質ニ依リ或ハ之ヲ標本用トシ或ハ兼テ之ヲ試驗用トスヘシ

法制及經濟

第五學年

每週二時

法制

法制、經濟及道德

國體及政體

天皇

皇位繼承 大權

臣民

國籍 臣民ノ權利義務

帝國議會

議會ノ組織、權限 議會ノ招集、會期、開會、閉會停會及衆議院ノ解散

國務大臣及樞密顧問

司法裁判所

裁判所 辯護士、執達吏、公証人 民事訴訟、刑事訴訟及非訟事件

行政

外務行政 內務行政 財務行政 軍事行政 教育行政 農商務行政 遞信行政

府縣

地方長官附警視總監 府縣會 府縣參事會

郡

郡長 郡會 郡參事會

市町村

市會、町村會 市參事會 市長、町村長

行政ヲ授クル際適當ノ機會ニ於テ臺灣總督及北海道廳長官ニ關スル事項ヲ知ラシムヘシ

行政裁判所

行政訴訟 訴願

人及法人

未成年者 禁治產者 準禁治產者 法人

物權

物權ノ性質 物權ノ主要ナル種類

債權

債權ノ性質 債權ノ主要ナル原因

親族

親等 家 親子 親權 後見 婚姻 扶養ノ義務

相續

家督相續 遺產相續 遺言

經濟上主要ナル概念

生産

生産ノ要素 分業及協力 企業 機械 競争

交換

物價附市場 貨幣及現行貨幣制度 信用及信用証券 銀行 貿易 交通

分配

地代 利子 賃銀 利潤

消費

消費ノ種類 家計 勤儉貯蓄 保險

財政

豫算 租稅 公債

前記ノ事項ハ必スシモ順序ヲ追フテ授クルコトヲ要セス便宜分合シテ之ヲ授クルコトヲ得特ニ日常生活上出來スヘキ事實(例ヘハ法制ニ於テ選舉、貸借等經濟ニ於テ賃銀、家計等)ノ中ヨリ

適當ノ題目ヲ選ミ之ニ就キテ前記ノ諸項若ハ數項ヲ授クルカ如キハ生徒ノ興味ヲ増シ理會ヲ助クル益アルヘシ

教授上ノ注意

- 一 法制及經濟ノ理論ニ馳セテ學說ニ泥マス日常生活ノ事實ニ關聯シテ之ヲ授ケ國民的經濟的思想ヲ養ハントコトヲ要ス
- 二 統治及行政機關ノ組織、作用ヲ授クルニハ各種ノ地位職業ニ應ジテ實踐上必須ナル臣民ノ權利義務、其ノ他警察、租稅、手數料、兵役、條約、戶籍等ニ關スル主要ナル行政事務ヲ知ラシムヘシ
- 三 私法ニ關スル諸目ニ於テハ唯々民事ニ關スル事項ヲ授クルノミナラス商事ノ概念(例ヘハ法人ノ目ニ於テ商事會社ノ種類性質等、債權ノ目ニ於テ商事上ノ債權債務等)ヲモ併セ授クヘシ
- 四 經濟ニ於テハ主要ナル經濟上ノ現象及其ノ理法ヲ授クルト共ニ現時ニ於ケル我國經濟上ノ狀態ヲモ知ラシムヘシ
- 五 財政ニ關スル諸目ニ於テハ單ニ國家ノ財政ノミニ止ラス市町村其ノ他地方團體ノ財政ヲモ説キ法制ニ於テ授ケタル是等ノ團體ノ概念ヲ補修セシムヘシ
- 六 法制ト經濟トハ教授上相關聯シテ互ニ補充スヘキハ勿論又他ノ學科目トノ連絡ヲ圖リ特ニ修身、歴史及地理等ト密接ノ關係ヲ保タシムヘシ
- 七 此要目ノ順序ニ依ラス日常生活ノ事實ヲ基礎トシテ教授スル場合ト雖モ目的ヲ誤マラザラン

コトハ勿論教材ノ連絡ヲ欠キ生徒ニ正確ナル思想ヲ得シメサル弊ニ陥ラサランコトニ留意スヘシ

圖畫

第一學年

每週一時

自在畫

寫生畫、臨畫

簡單ナル幾何形體、器具、植物、動物ノ類

第二學年

每週一時

自在畫

寫生畫、臨畫

前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ又生徒學力ノ進度ニ應シテ便宜著色畫ヲ加ヘ授クヘシ

用器畫

幾何畫

直線、角、圓、多角形、常用曲線等ニ關スル描法

第三學年

每週一時

自在畫

寫生畫、臨畫

前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ又著色畫ヲ加ヘ授クヘシ

考案畫

寫生畫、臨畫及幾何畫ニ於テ習得シタル技能ヲ應用シテ簡單ナル圖案ノ類ヲ構成セシムヘシ

第四學年

每週一時

自在畫

寫生畫、考案畫

前學年ニ準シテ其程度ヲ進メ人物景色ノ類ニ及スヘシ

用器畫

幾何畫

各種ノ平面形、立體(角壙、角錐、圓壙、圓錐)、立體ノ截斷及立體表面ノ展開ニ關スル投影畫法

第五學年ニ於テ圖畫ヲ加ヘタルトキハ前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ又透視畫法ノ一班ヲ授クルコトヲ得

教授上ノ注意

一 寫生畫ニ於テハ實物又ハ模型ニ就キ生徒ヲシテ視像ノ形狀、陰影及色ヲ正シク判斷スルコトヲ習ハシメ且物體ノ位置距離等ニ從ヒテ視像ノ異ルコトヲ理會セシメ精確ニ之ヲ模寫スル技能ヲ養フヘシ

二 寫生畫ヲ授クルニハ成ルヘク先ツ教員自ラ模範畫ヲ示シテ其ノ布置描法ヲ説明スヘシ

三 臨畫ハ寫生畫ト關聯シテ之ヲ授ケ教授ノ際成ルヘク先ツ實物ヲ示シ臨本ニ對照シテ説明ヲ加

フヘシ

- 四 臨本ハ正格ナル書法ニ基キ奇癖ニ陥ル嫌ナキモノタルヘシ
- 五 書題ハ成ルヘク他ノ學科目ト教授上ノ連絡ヲ圖リ應用ノ廣キモノ又ハ生徒ノ趣味ヲ養フニ足ルモノヲ選ヒ其ノ高尚ニ過クルモノ或ハ鄙陋ニ渉ルモノハ之ヲ避クヘシ
- 六 生徒ヲシテ常ニ姿勢及執筆ヲ正シクセシムヘシ
- 七 生徒ヲシテ成ルヘク名畫ノ類ヲ見シメンコトニ留意スヘシ
- 八 生徒ヲシテ常ニ器具ノ整頓及保存ニ注意セシムヘシ
- 九 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ  
臨本 幾何立體ノ模型 動物、植物及人物ノ模型 寫生用實物 畫板 筆洗 繪具皿 圖引器 槓 黑板用ごんばす 黑板用各種ノ定規 投影書法ヲ示ス裝置 寫生畫教授用トシテ透視書法ノ說明ニ用ユル簡單ナル裝置

唱歌

第一學年

週每一時

普通樂譜法

- 雪中行軍(中學唱歌) 運動會(同上) 明日は日曜(同上) 朋友(國教唱歌集) 朝起の鐘(中學唱歌) 駒の蹄(同上) 雲雀(同上) 牛おふ童(同上) 我等は中學一年生(同上) 前途萬里(同上) 占守島(同上) 夏やすみ(同上)

第二學年

每週一時

普通樂譜法

- 大平洋(中學唱歌) 四季の朝(同上) 寄宿舎の古釣瓶(同上) 大皇國(國教唱歌集) 馬上の少年(中學唱歌) 旅路の愉快(同上) 告別(同上) 義勇奉公(國教唱歌集) 箱根八里(中學唱歌) 松下清水(同上) 去年今夜(同上) 七倒八起(國教唱歌集)

第三學年

每週一時

普通樂譜法

- 豐太閤(中學唱歌) 荒城月(同上) 遠別離(同上) 昇る日(國教唱歌集) 甲鉄艦(中學唱歌) 小川の流(同上) 歸雁(同上) 世界はひろし輪唱(重音唱歌集) 樂しき教場(中學唱歌) 今は學校後に見て(同上) 御國の民(中等唱歌集) 植生の宿(復音又ハ單音)(同上)  
前記各學年ニ配當シタル歌曲ハ其ノ程度ヲ示スニ止マレハ便宜之ヲ交換加除スルコトヲ得要スルニ歌詞、曲譜ハ其ニ生徒ノ智識感情ニ適應シタルモノニシテ歌詞ハ特ニ趣味ニ富ミタルモノノ曲譜ハ音域廣カラスシテ成ルヘク爽快ナルモノタルヘシ  
祝日、大祭日、其ノ他國家ノ典禮、學校ノ儀式ニ關スル歌曲ハ別ニ其ノ曲名ヲ舉ケスト雖モ機會アル毎ニ豫メ之ヲ授クヘシ

教授上ノ注意

- 一 氣息演習、發音演習、拍子演習、調子演習、發想演習等ハ之ヲ遺漏ナク併セ授クルニハ樂譜ニ依ルコト最モ便ナレハ唱歌教授ノ際歌曲ト附帶シテ之ヲ授クヘシ
- 二 唱歌ヲ授クルニハ常ニ生徒ノ感情ヲ興起センコトニ留意シ其ノ品位ヲ高雅ニシ氣韻ヲ雄大ナ

- 一 ラシメンコトヲカムヘシ
- 二 唱歌ヲ授クルニハ其ノ數ノ多キヲ求メスシテ十分之ニ熟達セシメ其ノ歌詞ヲ永ク記憶セシメ  
ンコトヲ要ス
- 三 生徒ヲシテ唱歌セシムル際常ニ姿勢ニ注意セシメ又成ルヘク教員及樂器ニ依頼スルコトナカ  
ラシムヘシ
- 四 生徒中聲嘶、咳嗽等ノ疾患アル者及變聲期ニ際セル者ニハ便宜唱歌ヲ免除スヘシ
- 五 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ
- 六 風琴、洋琴又ハばいおりん 譜表ヲ記入シタル黑板 掛圖 掛圖臺 調音又 めとろのーび  
譜表臺

体操

第一學年

每週三時以上

普通体操

矯正術 徒手体操 啞鈴体操

兵式体操

徒手柔軟体操 徒手各個教練 徒手小隊教練

第二學年

每週三時以上

普通体操

矯正術 徒手体操 啞鈴体操 球竿体操 棍棒体操

兵式体操

徒手柔軟体操 徒手各個教練 徒手小隊教練 徒手中隊教練

第三學年

每週三時以上

普通体操

前學年ニ同シ

兵式体操

徒手柔軟体操 徒手各個教練 徒手小隊教練 徒手中隊教練 器械体操 號令演習

第四學年及第五學年

每週三時以上

普通体操

前學年ニ同シ

兵式体操

柔軟体操 各個教練 小隊教練 中隊教練 器械体操 號令演習

教授上ノ注意

- 一 体操ヲ授クルニハ先ツ其ノ運動ノ目的筋肉ノ使用部等ヲ精シク説明シ然ル後正確ニ其ノ模範  
ヲ示シテ之ニ倣ハシムヘシ
- 二 一運動ヲ始メテ授クル場合ニハ精密ニ注意シテ些少ノ誤謬タリトモ寛假スルコトナク之ヲ矯  
正スヘシ
- 三 体操ヲ授クルニハ生徒ノ体力ニ留意シ過度ノ運動ヲナサシムヘカラス虛弱ナル生徒ニハ特ニ



- 四 留意シテ始ヨリ強キ運動ヲナサシメス漸次之ニ堪フルニ至ラシムヘシ  
既ニ授ケタル運動ハ反復練習シテ之ニ熟達セシムヘシ然レトモ長時間連續シテ同一ノ運動ノミヲナサシムヘカラス
- 五 塵埃ノ充滿シタル場所又ハ酷暑ノ時日光ノ直射ヲ受クル場所ニ於テ運動セシムルコトハ之ヲ避クヘシ
- 六 器械体操ハ普通演習及應用演習ヲ課スヘシ進歩セル生徒ニハ特別演習ヲ課スルコトヲ得
- 七 体操教授時間ニ於テ運動ヲ行フコト能ハサルトキハ遊戲ノ方法ヲ説明シ其ノ他教育ニ關スル講話ヲナシ又ハ軍事學ノ大要ヲ授クヘシ
- 八 啞鈴ノ用ハ敏捷ナル運動ヲナサシムルニ在レハ其ノ重量重キニ過クヘカラス棍棒ハ之ニ反シ緩徐ニシテ多ク力ヲ要スル運動ヲナサシムルモノナレハ其ノ重量輕キニ失スヘカラス
- 九 器械体操場ノ敷砂ハ常ニ軟ニナシ置クヘシ
- 十 生徒ヲシテ常ニ器械ノ整頓及保存ニ注意セシムヘシ
- 十一 体操教授時間外ニ於テモ常ニ生徒ノ姿勢ニ留意シ又適宜各種ノ遊戲運動ヲ獎勵スヘシ
- 十二 教授用備品ハ次ノ例ニ依ルヘシ  
啞鈴 球竿 棍棒 銃及附屬品 軍刀及附屬品 背囊 喇叭 銃ノ分解品 洗矢 鉄棒 木馬 柵 手摺跳 繩跳臺 梁木

○高等女學校教授要目

明治三十六年三月九日  
文部省訓令第二號

北海道廳 府縣

今般本省ニ於テ左ノ通高等女學校教授要目ヲ編纂セリ地方長官ハ宜ク各高等女學校長ヲシテ之ヲ斟酌シ適當ナル教授細目ヲ定メ以テ各學科教授ノ效果ヲ完カラシメンコトヲカムヘシ  
高等女學校教授要目

本要目實施上ノ注意

修身 國語 外國語 歷史 地理 數學 理科 圖書 家事 裁縫 音樂 體操 教育  
手藝

高等女學校教授要目

本要目實施上ノ注意

- 一 高等女學校ニ於ケル教授ハ常ニ訓育ト相待チテ高等普通教育ノ目的ヲ達センコトヲ期スヘシ
- 二 教授ハ各學科目固有ノ目的ヲ失ハサルト同時ニ相互ノ連絡ヲ保チ且小學校ノ教科ト關聯シテ全體ノ統一ヲ圖ルヘシ
- 三 教授ハ漫ニ繁多ノ事項ニ涉リ又ハ形式ニ流ル、コトナク生徒ヲシテ正確ニ理會シ應用自在ナラシメンコトヲ期スヘシ
- 四 學科目ノ性質上止ムヲ得サルモノ、外ハ教科書ヲ用ヒテ之ヲ教授スヘシ教科書ハ常ニ之ヲ活用センコトニ留意シ之カ爲ニ結束セラレザランコトヲカムヘシ

教科書ハ其ノ選擇ヲ慎ミ濫ニ之ヲ變更スルコトアルヘカラス

五 教授ハ學年ノ始ニ精クシテ其ノ終ニ粗ナルカ如キ弊ニ陥ラザラシムコトヲ要ス

六 生徒ノ自修ヲ要スル學科目ニ就キテハ豫メ其ノ時間ノ標準ヲ定メ自修ヲシテ一ニノ學科目ニ偏シ若ハ過度ニ陥ルノ弊ナカラシムヘシ

七 修業年限ヲ伸縮シタル場合ニ於テハ適宜本要目ヲ斟酌スヘシ

八 教授用備品ハ教授上差支ナキ限必シモ正式精緻ノモノタルコトヲ要セス成ルヘク日用品ヲ利用シ又ハ教員自ラ製作シテ之ニ充テシコトヲ力ムヘシ

諸學科目ニ通スル備品ハ教授上差支ナキ限成ルヘク之ヲ兼用スヘシ必シモ各別ニ之ヲ備フルコトヲ要セス

九 學校所在地ニ圖書館、博物館、工場、試驗場等ノ設アルトキハ之ヲ利用スルコトヲ怠ルヘカラス

修身

第一學年及第二學年

每週二時

道德ノ要領

每週一時

喜言善行等ニ徴シ生徒日常ノ行狀ニ困ミテ近易ノ事項ヲ授クヘシ其ノ目ハ概テ次ノ如シト雖必シモ之ニ拘ラス又整然秩序ヲ設クルコトヲ要セス生徒學力ノ進度ト時機トニ適應シテ實踐ニ適切ナラシムヘシ

生徒心得

當該學校ノ規則、師長ニ對スル心得、生徒ノ本分等

衛生ニ關スル心得

運動ヲ勉ムヘキコト、飲食ヲ節制スヘキコト、身體衣類住居ヲ清潔ニスヘキコト等

修學ニ關スル心得

志操ヲ堅固ニスヘキコト、困難ヲ忍フヘキコト等

朋友ニ對スル心得

信義ヲ重ンスヘキコト、愛情ヲ以テ交ルヘキコト、互ニ助力スヘキコト等

起居動作ニ關スル心得

時ヲ貴フヘキコト、秩序ヲ整フヘキコト、禮容ヲ重ンスヘキコト等

物品ニ關スル心得

物品ノ取扱ヲ鄭重ニスヘキコト、節約利用ニ注意スヘキコト等

家庭ニ於ケル心得

父母ニ孝ナルヘキコト、兄弟ニ友ナルヘキコト、婢僕ニ親切ナルヘキコト等

國家ニ對スル心得

國體ヲ尊崇スヘキコト、國法ニ遵フヘキコト、義勇公ニ奉スヘキコト等

社會ニ對スル心得

長者ヲ尊フヘキコト、公德ヲ尙フヘキコト、自己ノ地位職業ニ對スル責任ヲ重ンスヘキコト等

修德ニ關スル心得

主要ナル諸徳ノ説明及其ノ實踐ノ方法、誘惑ノ危險ナルコト、操持ヲ完クスヘキコト等  
作法

坐作、進退、應對、受授進撤ニ關スル心得及實習

每週一時

寢食、服裝、訪問、迎接、通信、贈答、饗應、公會、吉凶、慶弔、忌服等ニ關スル心得

每週二時

第三學年及第四學年

道德ノ要領

自己ニ對スル責務

身體

健康 生命

精神

知情意 理想、趣味等

人格 職業 財產

家族ニ對スル責務

父母、舅姑、兄弟、姉妹、夫婦、子女、親族、祖先、家門、婢僕

社會ニ對スル責務

個人

他人ノ人格、他人ノ身體、財產、名譽、秘密約束等、恩誼、朋友、長幼、貴賤、主從等

公衆

協同 社會ノ秩序 社會ノ進歩

國家ニ對スル責務

國體 皇室 國憲、國法 兵役、租稅、教育 公務、公權

人類ニ對スル責務

鰥寡孤獨、病者、貧者、罹災者等、遠來人

前記ノ目ハ主トシテ責務ノ對象タルヘキモノナレハ之ニ就キテ主要ナル責務ヲ授クヘシ例ヘハ自己ノ精神ノ目ニ於テハ智能ヲ練磨シ迷信ヲ排シ常識ヲ養ヒ情慾ヲ制シ情操ヲ養ヒ意志ヲ鍛練スヘキコト等又他人ノ人格ノ目ニ於テハ其ノ權利、思想、信仰、感情、希望等ヲ推重スヘキコト等成ルヘク遺漏ナク授ケンコトヲ要ス

責務ト關聯シテ徳ヲ説明シ諸責務及諸徳相互ノ關係ヲ知ラシメ且嘉言善行等ヲ引用シテ之ヲ心裏ニ浸潤セシムヘシ

教授上ノ注意

一 格言例話ヲ引用スルニハ必シモ其ノ多キヲ求メス務メテ現代ノ時勢ト生徒ノ境遇トニ適切ナルモノヲ選フヘシ詭激ナル例話ハ成ルヘク之ヲ避クヘシ若シ偶々之ニ及フコトアルトキハ其應用ヲ誤ラシメサランコトニ留意スヘシ

二 責務ヲ授クルニハ土地ノ風俗習慣生徒將來ノ地位職業等ノ差別アルコトニ注意シ其ノ各方面ニ亘リテ之カ應用ヲ知ラシムヘシ

三 第二學年又ハ第三學年ニ於テハ生徒ノ身體及精神漸ク變動ヲ起シ内外ノ誘惑ニ陥リ易キ傾向

- アルヲ以テ特ニ此ノ時期ニ注意シ堅固ノ志操ヲ養ヒ良習慣ヲ作ラシメンコトヲカムヘシ
- 四 教訓ニ資スヘキ事件ノ偶發シタルトキ又ハ式日紀念等ニ際シテハ全校又ハ一部ノ生徒ヲ集メテ臨時教訓スルヲ可トス
- 五 作法ハ故實古禮ニ拘泥セス現時ノ衣食住ノ情況ニ適合セシメンコトニ注意シ坐禮立禮ヲ併セ授ク實際ニ應用セシメンコトヲ要ス
- 作法ノ實習ハ簡易ナル方法ニ依リ日常卑近ノ事項ニ限ルヘシ

國語

第一學年及第二學年

每週六時

講讀

每週四時

讀方 發音ヲ正確明瞭ニシ句讀正シク讀マシムヘシ

解釋 平易ナル口語ヲ用ヒテ語義文義ヲ正確ニ解釋セシムヘシ

暗誦 讀本中ノ佳句、格言、韻文等ヲ適宜暗誦セシムヘシ

講讀ノ材料ハ小學校ニ於ケル國語トノ連絡ヲ保チ今文ヲ用ヒテ修身、歴史、地理、理科、家事實業、美術、社交等ニ關スル事項ヲ記シタル平正ナル記事文、敘事文、書翰文、唱歌及新體詩等ニシテ生徒智識ノ進度ニ適合スルモノタルヘシ又便宜歌及正確ナル口語ノ標準ヲ示スヘキ演説談話ノ筆記ヲ加フヘシ

材料ノ配當ハ凡記事文敘事文九、書翰文韻文一ノ比ニ依ルヘシ

文法及作文

文法

普通ナル假名遣ノ大要 品詞ノ分別

文法ハ言文對照ヲ主トシ常ニ口語ト今文トヲ關聯セシメテ今文ニ必須ナル法則ヲ示スヘシ

作文

書取 假名遣ヲ正シ漢字ノ字畫ヲ正確ナラシメ且速記ニ慣レシムヘシ

復文 口語ヲ今文ニ今文ヲ口語ニ譯セシムヘシ

作文 今文體ノ書翰文、記事文、敘事文ヲ綴ラシムヘシ

作文即題ハ凡隔週一回、宿題ハ毎月一回之ヲ課スヘシ

習字

每週一時

楷書 行書 草書 (書翰文等ニ用フル普通文字ニ止ム)

清書ハ凡各週一回之ヲ課スヘシ

第三學年

每週五時

講讀

每週三時

讀方 發音ノ外抑揚緩急ニ注意スヘシ

解釋 語義文義ノ外文法ニ注意スヘシ

暗誦 前二學年ニ準ス

講讀ノ材料ハ前二學年ニ準シ平正ナル近世文ヲ加フ之ヲ課スル比ハ凡今文六、近世文四トス

材料ノ配當ハ今文ニ於テハ凡記事文敘事文六、論說文三、書翰文韻文一トシ近世文ニ於テハ凡



十 適當ノ機會ニ於テ辭書ノ用法ヲ授クヘシ  
外國語

各學年ノ教授事項ハ之ヲ分割スルコトナク同一教授時間ニ於テ相關聯シテ之ヲ授クヘシ但シ時宜ニ依リテハ教授時間ヲ分ツコトヲ得ト雖尙其ノ相互ノ連絡ニ留意センコトヲ要ス

第一學年及第二學年

每週三時

發音、綴字

初ハ發音ヲ正シ單語ニ就キテ綴字ヲ授ケ其ノ概要ニ適シタル後ハ讀方會話ニ附帶シテ之ヲ練習セシムヘシ

讀方、譯解、會話、書取

平易ナル文章

習字

既修ノ綴字 關聯シテ之ヲ授ケ又書取ニ依リテ之ヲ練習セシムヘシ

第三學年及第四學年

每週三時

讀方、譯解、書取

平易ナル文章

會話、作文

平易ナル對話、翻譯、簡易ナル記事文、書翰

教授上ノ注意

一 外國語ヲ授クルニハ習熟應用ヲ主トシ生徒ノ學力ヲ顧ミスシテ徒ニ課程ヲ進ムルコトアルヘカラス

二 發音ハ特ニ外國語教授ノ初期ニ於テ嚴ニ之ヲ正シ又國語ニ存セサル發音ニ留意シテ之ニ習熟セシムヘシ

三 讀方ハ既ニ意義ヲ了解セル文章ニ就キテ反復練習セシメ又時々誦讀ヲ課シ發音、抑揚、緩急及止聲ニ留意シ生徒ヲシテ誦讀ニ依リテ文章ノ眞意自ラ見ハルル様之ニ習熟セシムヘシ

四 譯解ハ正シキ國語ヲ以テシ成ルヘク精密ニ原文ノ意義ニ適應セシムヘシ

五 會話ハ讀本中ノ文章又ハ事項ニ因ミテ之ヲ授ケ進ミテハ日常ノ事項ニ就キテ對話ヲナサシメ生徒ヲシテ文字ヲ離レテ英語ヲ了解シ又自己ノ思想ヲ表ハスコトヲ習ハシムヘシ

六 書取ハ生徒既修ノ文章又ハ其ノ容易ニ了解シ得ヘキ文章ニ就キテ之ヲ授ケ耳ヲ慣ラシ且綴字運筆ヲ練習セシムヘシ

七 文法ハ別ニ其ノ目ヲ舉ケスト雖教授ノ際便宜實用ニ適切ナル法則ヲ了解セシムヘシ

八 外國語ノ意義ヲ了解セシムルニハ成ルヘク實物繪畫或ハ所作等ニ依リテ之ヲ直指シ進ミテハ英語ヲ用ヒテ之ヲ説明スヘシ

九 外國ノ人情、風俗、習慣等ニ關シテハ便宜説明ヲ與フヘシ

歴史

第一學年

日本歴史

第一學年

每週一時

日本歴史

太古

神代、皇基ノ遠遠

上古

神武天皇、崇神天皇、景行天皇、日本武尊、成務天皇、神功皇后、仁德天皇、雄略天皇及皇后、文物工藝ノ傳來、歸化人及其ノ子孫、佛教ノ傳來、大臣大連ノ爭鬪、推古天皇、聖德太子、佛教ノ興隆、工藝、遣唐使、蘇我氏ノ專橫及滅亡

中古

大化ノ新政、天智天皇、藤原鎌足、律令ノ撰定、奈良奠都、國史ノ撰修、聖武天皇及皇后、寺院ノ造營、美術、工藝、風俗、和氣清濟及廣蟲、桓武天皇、平安奠都、蝦夷ノ鎮定、嵯峨天皇及皇后、僧最澄及空海、新宗派、文藝、私學設立、藤原氏及他氏、攝政關白、菅原道實、延喜時代、承平天慶ノ亂外戚、跋扈、國文ノ隆盛、才媛、風俗、工藝、地方ノ爭亂、武人ノ興起、後三條天皇、院政、僧徒ノ強暴、保元ノ亂、平治ノ亂、平氏ノ繁榮、諸源ノ舉兵、平氏ノ滅亡

第三學年

每週二時

近古

鎌倉幕府、平政子、承久ノ亂、北條氏ノ執權、元寇、風俗、工藝文學、新宗派、兩皇統ノ交立、五攝家、元弘ノ亂、勤王諸將、北條氏ノ滅亡、建武中興、足利尊氏ノ反、南北朝、室町幕府、足利義滿ノ驕奢、鎌倉管領、關東ノ分裂、應仁ノ亂、東山時代、美術、工藝、佛教

近世

文學、京都ノ衰替、足利氏ノ末路群雄割據、武家妻女ノ境遇及行動、明下ノ交通、國人ノ冒險、歐州人ノ來航、皇室、織田信長、豐臣秀吉及其ノ雄圖、德川家康、關原ノ役、大阪ノ役、江戸幕府、德川氏ノ政畧、後水尾天皇、明正天皇、文學ノ復興、德川光圀、通商、貿易、國人ノ海外ニ於ケル事業、天主教、島原ノ亂、元祿時代、風俗、工藝、新井君美、德川吉宗ノ治、田沼父子ノ專權、松平定信、諸藩ノ治附著名ノ藩醫、國學、尊王論、蘭學、海防策、露英人ノ來航、米國使節ノ來朝、假條約、開港攘夷ノ論、安政ノ大獄、井伊直弼、幕府ノ衰頹、討幕論、長州征伐、大政奉還、戊辰ノ役

現代

明治新政、五條ノ誓文、奠都、版籍奉還、廢藩置縣、外交、歐米文物制度ノ採用、征韓論、臺灣征討、樺太及千島、鹿兒島ノ亂、琉球ノ處分、朝鮮ノ事變、天津條約、憲法發布、帝國議會、明治二十七八年ノ戰役、條約改正、北清ノ事變

第三學年

每週一時

東洋歷史

上古ノ支那、周及春秋戰國、孔子、文物、秦、漢ノ統一、文帝、武帝、王氏、後漢三國、兩漢ノ文物、印度、佛教ノ東流、晉、南北朝、隋、唐太宗、武氏、玄宗、五代、宋太祖、仁宗、神宗、韓土ノ變遷、遼金ノ興廢、唐宋ノ文藝宗教風俗、蒙古ノ勃興、元世祖、明太祖、成祖、朝鮮、明ノ衰運、清ノ興起、元明ノ儒學文藝、歐洲人ノ東漸、清聖祖、高宗、清ノ文藝、英

國ノ印度經畧 清英ノ交渉、長髮賊 英佛ノ北清侵伐 清露ノ關係 日清韓ノ關係 北清事變、東洋ニ於ケル英露佛獨米

第四學年

每週二時

西洋歴史

上古

えじふと、ふおねにきあ、あつしりあ、べるしあ、ざりしあ、其ノ文物、あれくさんごる大王、ろーまの興起、ぼねに戦役、かねざる、ろーま帝政ノ建立、ろーまノ文物、基督教ノ西流、ろーま帝國の兩分

中古

げるまにノ遷徒、東ろーまトべるしあ、すらぶ諸部落、さらせん帝國、かるる大帝、のるまん、神聖ろーま帝國、ろーま法王、西歐ノ封建、十字軍、いざりすとふらんす、歐洲ニ於ケル文藝復興、諸種ノ發明、地理上ノ發見、たつとまんとるこノ侵入、歐洲ニ於ケル宗教改革

近古

いざりすと女王わりさべす、三十年戦役、ふらんす王の十四世、學藝風俗、いざりすと革命、べーどる大帝、ふりーどりひ大王、歐洲人の殖民、印度の情勢、北米合衆國の獨立

近世

ふらんす革命、なばれおん一世、神聖同盟、あめりか諸國及ざりしあノ獨立、七月革命、なばれたん三世、くりむ戦争、いたりあノ統一、といつノ統一、北米合衆國南北戦争、露土ノ

戦争 歐米強國勢力ノ擴張 十九世紀ノ文明

教授上ノ注意

- 一 歴史ヲ授クルニハ社會ノ變遷、邦國ノ盛衰ニ關スル明晰ナル概念ヲ得シムルコトヲ主トシ正確ヲ期スル爲徒ニ細密ナル事實ノ穿鑿ニ流レサランコトヲ要ス
  - 二 歴史ヲ授クルニハ上代ニ簡ニシテ近代ニ詳ナランコトヲ要ス
  - 三 偉人ノ事蹟ヲ授クルニ當リテハ其ノ性行事業及當時ノ事情ヲ詳ニシ生徒徳性ノ涵養ニ資センコトヲカムヘシ
  - 四 有名ナル詩歌、文章、傳記等ニシテ歴史ノ教授ニ資スヘキモノハ便宜之ヲ引用シテ興味ヲ助クヘシ
  - 五 特ニ學校所在地ニ關係多キ事蹟ハ稍々詳ニ之ヲ授クルヲ可トス
  - 六 外國歴史ハ特ニ我國ト關係アル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ
  - 七 對照年表ヲ用ヒテ紀年ノ連絡ヲ知ラシメ又成ルヘク地圖、實物、圖書、標本等ヲ示シテ生徒ノ智識ヲ確實ナラシムヘシ
  - 八 地名人名等ノ稱呼ハ必シモ此ノ要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス
  - 九 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ
- 御歴代表、對照年表、各國帝王及諸家ノ系統表ノ掛圖 日本沿革地圖、日本現代地圖、外國沿革地圖、外國現代地圖  
著名ナル城邑戰場其ノ他古蹟ノ寫真又ハ圖畫 著名ナル人物ノ肖像 古人ノ筆蹟 古文書等



ノ實物又ハ模寫

風俗工藝ノ變遷、文化ノ程度等ヲ示ス實物模型又ハ圖書

地理

第一學年

每週二時

日本地理

總說

位置 地勢 氣候 住民 政治 生業 交通

地方誌

北海道、臺灣及府縣ノ區分ニ依ルル地方ノ天然上及人事上國民ノ生活ニ關スル事項

外國地理

大洋洲

總說

前ニ準ス

たすどらりあ、めらねじあ、みくらねじあ、ぼりねじあ

あふりか

總說

前ニ準ス

北部あふりか、中部あふりか、南部あふりか

第三學年

每週一時

外國地理ノ續キ

ヨーロッパ

總說

前ニ準ス

ろじあ、すうねでんのるうわい、でんまるく、ごいつ、おーすどりわ、ほんがりあ、ぼるか

ん半島、いたりの、すういす、ふらんす、へるさい、おらんだ、いざりす、いすばにあ、ほ

るどがる

あめりか

總說

前ニ準ス

かなだ、北米合衆國、めきしこ、中失あめりか、西いんど諸島

南あめりか、べるーちん、あるせんちん、ぶらじる、其ノ他ノ諸國

結論

世界ニ於ケル人種、言語、宗教、貿易、交通、列強國勢ノ比較

第四學年

每週一時

地文

總說

太陽系 地球ノ形及大サ 地球ノ運動、晝夜、四季、日蝕及月蝕、標準時

陸

沿岸線

地勢及構造 山嶽、原野、谿谷等、泉、河、湖、岩石、鑛物、地層

變動

火山附溫泉 地震 大陸及山脈ノ形成 沿岸線ノ形成 大氣、水及生物ノ作用

大氣

溫度 氣壓 風 濕氣 氣候及天氣

海

海水ノ色、鹽分等 海底 海水ノ溫度、波、海流、潮汐

生物

分布

教授上ノ注意

一 地理ヲ授クルニハ生徒既知ノ事實ヨリ之ニ關係アル未知ノ事實ニ及ホサンコトヲ旨トシ必シ

モ此ノ要目ノ順序ニ依ルコトヲ要セス

二 地理ヲ授クルニハ成ルヘク事實ノ比較連合ヲ力メ特ニ外國地理ニ於テハ我國ノ狀勢ヲ以テ比

較ノ基礎トナスヘシ

三 地理ヲ授クルニハ先ツ地平線、方位、地球、經緯線、經緯度、大洋、大洲、島嶼ニ就キ小學

校ニ於テ授ケタル事項ヲ復習スルヲ要ス

四 日本地理及外國地理ヲ授クルニハ常ニ地文ニ關スル事項及實業ニ關スル事項ニ留意シ漫ニ細

密繁多ナル事實數量ヲ記憶セシムルコトハ之ヲ避クヘシ

五 外國地理ニ於テハ我國ト關係多キ地方ニ留意シ此ノ要目ノ中特ニ重要ナル部分ハ更ニ之ヲ細

分シテ授クルコトヲ得

六 歷史上著名ナル場所及學校所在地方ノ地理ハ稍詳ニ之ヲ授クルヲ可トス

七 有名ナル詩歌、文章、紀行等ニシテ地理教授ニ資スヘキ者ハ便宜之ヲ引用シテ興味ヲ助クヘシ

八 實地ニ觀察シ得ヘキ事項ハ成ルヘク直接ニ觀察セシメ其ノ他ハ常ニ地圖、標本、寫眞、繪畫

表等ニ依リ生徒ノ智識ヲ確實ナラシムヘシ又適當ノ機會ニ於テ地圖ノ讀ミ方、描キ方ニ關ス

ル簡單ナル解説ヲ與フヘシ

九 地文ハ特ニ我國ニ關スル事項ニ留意シテ之ヲ授クヘシ

十 地名ノ稱呼ハ必シモ此ノ要目ノ示ス所ニ依ルコトヲ要セス

十一 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ

日本及世界地形圖 世界分圖 日本行政區劃圖 日本及世界交通地圖 人種分布地圖 日本

及世界水陸動物分布圖 日本及世界植物區系圖 日本地質圖 日本及世界及溫線圖 日本及

世界同歷線圖 日本及世界風向圖 日本及世界雨量圖 日本及世界海流圖 同時潮圖 地震

及火山分布圖 日本地震圖 天氣圖ノ一例 其ノ他人文地文ヲ説明スル地圖

諸統計ヲ示ス圖又ハ表 風俗、風景其ノ他地上ノ現象ヲ示ス、圖書又ハ寫真 土地ノ高低、褶曲、斷層等ヲ示ス模型又ハ圖書 主要ナル岩石、主要ナル造岩鑛物化石 日本ノ主要ナル農産、林産、水産物及加工品ノ標本 主要ナル貿易品ノ標本 其ノ他ノ模型、圖書、掛圖等

地球儀 羅針盤 測斜器 晴雨計 寒暖計 日時計  
人文地理ニ關スル事項ハ時々異動ヲ來スコト多クレハ之カ圖表等ハ常ニ其ノ訂正増補ニ留意シ最近ノ形勢ヲ示スモノヲラシムヘシ  
數 學

第一學年

每週二時

算術

整數及小數

- 一 數學ヲ授クルニハ常ニ正確ナル言語ヲ用ヒテ理由方法等ヲ發明セシメ理會ヲ明瞭ナラシメンコトヲカムヘシ
- 二 例題ハ成ルヘク生業上適切ニシテ家事上ニ資スヘキモノヲ選ヒ歩合算其ノ他割合ニ關スル日用諸算ノ例題ヲ課スルニハ特ニ注意シテ其ノ事項ヲ説明スヘシ
- 三 算術ニ於テハ單ニ算法ヲ授クルニ止メス常ニ實算ヲ重シシ正確迅速ニ計算シ得ルニ至ラシムヘシ
- 四 計算ニハ成ルヘク驗シテ行ハシメ之ニ對スル自信ヲ深厚ナラシムヘシ

五 算術ヲ授クル際法則ノ理由ヲ十分ニ理會セシメ難キ場合ニ於テハ單ニ其ノ法則ヲ授クルニ止ムヘシ

六 代數ヲ授クルニハ復雜ナル記號的運算ヲ避ケ成ルヘク算術トノ連絡ヲ圖リテ實用ニ資セシメンコトヲカムヘシ

七 幾何ハ成ルヘク實體觀察ノ方法ニ依リテ之ヲ授ク必シモ嚴格ナル論理ニ拘ルコトヲ要セス

八 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ  
日時計 時計 羅針盤 尺 鯨尺 めーとめ法尺 三種比較尺(尺、鯨尺、めーとる、法尺)  
日本秤 めーとる法分銅 臺秤 穀量樹 めーとる法量器 外國度量器 黑板用こんばす 黑板用各種ノ定規 卷尺 日本貨幣圖 外國貨幣圖 幾何形體ノ模型

理科

每週二時

植物

緒論

形態

植物體ノ主要ナル器官 其ノ種々ナル變形

解剖

植物體ノ根本的構造ノ大要

生理

營養、吸收、呼吸、通發、同化、生長、運動、刺戟感應、生殖等ノ大要 動植物生理ノ異同  
生態

蟲媒花、風媒花 寄生植物、肉食植物 果實種子ノ散布 植物ト外圍 落葉木、常綠木等  
分類、應用、分布

植物ノ分類 被子植物及裸子植物中ノ主要ナル科ノ大要 羊齒植物、蘇苔植物、菌藻植物ノ  
大要 主要ナル有用植物、有害植物 植物分布ノ大要

前記ノ事項ハ必シモ順序ヲ追ヒテ授クルコトヲ要セス適宜分合シテ之ヲ授クルコトヲ得特ニ季  
節ニ應シテ適當ナル題目(例ヘハ春季ニ發芽、櫻花、菜花、秋季ニ果實紅葉、葉落等)ヲ選ヒ之  
ニ就キテ便宜形態、解剖、生理、生態、分類、應用、分布ノ諸項若ハ其ノ中ノ數項ヲ歸納的ニ  
授クルカ如キハ生徒ノ興味ヲ増シ理會ヲ助ケリ益アルヘシ

動物

緒論

分類

動物ノ分類、脊椎動物(哺乳類、鳥類、爬蟲類、兩棲類、魚類)節足動物(多足類、蜘蛛類、  
昆蟲類、甲殼類)軟體動物(瓣鳃類、腹足類、頭足類)蠕形動物 棘皮動物 腔腸動物、海  
綿動物、原生動物

分類ヲ授クルニハ顯著ナル適例ヲ示シテ綱或ハ主要ナル目ヲ説明スルニ止メ分類區分ノ名稱  
特徵等ヲ細密ニ授クルコトナク主トシテ動物ノ概念ヲ與フルコトヲ力ムヘシ又必シモ前記ノ

順序ニ依ルコトヲ要セス

習性

生徒ノ容易ニ實驗シ又ハ目撃シ得ヘキモノ、自然界ノ現象トシテ趣味アルモノ、人類ニ關係  
アルモノ

解剖組織

脊椎動物ヨリ下等動物ニ至ルニ從ヒ其ノ構造漸次簡單ニナルコト 動物體ハ細胞ヨリ成ルコ  
ト

發生

自然發生ナキコト 生殖 卵及其ノ發生ノ大要 昆蟲特ニ蠶ノ變態

生態

寄生、共生 保護色、其ノ他ノ彩色等

分布、變遷  
散布、分布、變遷ノ大要

應用

寄生蟲及病毒媒介動物ニ對スル注意 農林業上ノ有益動物、有害動物 家畜、人為淘汰 主  
要ナル水産物、肥料、食料、衣料、藥品等  
前記ノ事項ハ必シモ順序ヲ追ヒテ授クルコトヲ要セス或ハ分類ヲ主トシ各類ニ就キテ之ヲ授ク  
ルトモ或ハ其ノ一部ハ分類ト同時ニ之ヲ授ケ其ノ他ノ一部ハ別ニ之ヲ授クルトモ妨ナシ

生理及衛生

緒論

消化

循環

呼吸

排泄

腎臟、尿管、尿

皮膚及其ノ作用

新陳代謝、體溫

運動

骨格、筋肉

姿勢、運動、運動ト新陳代謝トノ關係

神經作用

腦、背髓、神經及其ノ作用

休息、睡眠

視官、聽官、嗅官、味官、覺官

眼耳ノ保護

第三學年

第四學年

每週二時

每週一時

化學及礦物

緒論

空氣、水

空氣、酸素、窒素、酸化、水、水素、溶解、飽和、結晶、天然水、硬水、軟水、水ノ蒸餾

あむもにあ、化學變化、化合及分解、化合物、單體、元素

木炭、食鹽

木炭、燬炭、油煙、炭素、燃燒、發火點、焰、呼吸、動植物ト空氣、食鹽、鹽化水素、鹽素

漂白粉、無水炭酸、酸化炭素、質量ノ不變、定比例ノ定律

硫黃、硝石、燐、硼砂

硫黃、無水亞硫酸、硫化水素、硫酸、其ノ鹽、硝石硝酸及其ノ鹽、火藥、燐、磷酸、燐寸

同素體、硼砂、硼酸

金屬、普通ナル礦物

なとりうむ及かりうむ、其ノ水素化合物、炭酸鹽、かるしうむ、其ノ酸化物、水酸化物、炭酸

鹽酸、あるかり、鹽

花崗岩、石英、長石、雲母、磁器、陶器、硝子、漆喰、せめんと、石灰石、石膏、燐石灰、

石、弗化水素

亞鉛、錫、鉛、まぐねしうむ、あるみにうむ鐵、につける、銅、銀、水銀、黃金、白金主要

ナル原礦及金屬化合物、合金、冶金術

金剛石、石墨、石炭、石油、琥珀、黃玉、石榴石、鋼玉、安山岩、黑曜石等 砂岩、粘板岩等 鑛物ト岩石

有機化合物

有機化合物ト無機化合物、沼氣、あせちれん 石油ノ蒸溜 酒精、おーてる、ぐりせらん 醋酸、其ノ他ノ脂肪酸 脂肪、油、木蠟 石鹼、蠟燭 砂糖、澱粉、せるろーす 石炭ノ乾溜、石炭瓦斯、こーるたーる、あにりん染料、石炭酸、なふたれん 沒食子酸、たんにん樹脂、とむ あるかろいと 蛋白質、醱酵 腐敗、防腐及消毒

物理

緒論

運動、力

動運 慣性 力 作用及反動 力ノ釣合 重力 落體、拋射體 重心、物體ノ座リ 挺子、天秤、輪軸、滑車等 振子、時計 宇宙引力

物性

物質、其ノ三態 彈性 毛細管現象 液體ノ壓力 水平面 水準器 重力ニ依リテ生スル壓力 力 浮游體 比重 大氣ノ壓力、晴雨計 風船、空氣ばんぶ、水ばんぶ、さいふおん、霧吹き等

音

發音體 振動、波動 音ノ波及、速度 反射 強サ、調子、音色 蓄音器、管、絃等

熱

寒暖計、溫度 物體ノ膨脹 熱容量、比熱 蒸氣機關 融解、凝固 融解熱、寒劑 蒸發、沸騰氣化熱 濕度、濕度計 傳導、對流、輻射

光

光體 光ノ直進、速度 反射 平面鏡、球面鏡、其ノ像、焦點 屈折 ぶりすむ、れんす、其ノ像、焦點 暗箱、眼鏡、蟲眼鏡、望遠鏡、幻灯等 光ノ分散、すべくとる物體ノ色、光澤

磁石

磁石、其ノ兩極 兩極間ノ作用 磁氣ノ感應 羅針盤、地磁氣 磁石ノ作り方

電氣

摩擦ニ依ル發電 導體、不導體 二種ノ電氣、驗電器、電氣ノ分配 尖端ノ作用 電氣ノ感應 起電機 れいでん瓶、雷電、避雷針 電池、電流 電流計 電磁石、電鈴、電信機、電氣燈 電話機 電解、電鍍電鑄術等

教授上ノ注意

- 一 理科ハ分科シテ之ヲ授クト雖其ノ教授ハ成ルヘク一人ノ教員之ヲ擔任シ常ニ分科相互ノ連絡ニ留意シ生徒ヲシテ自然界ノ統一ニ就キテ明晰ナル概念ヲ得シメンコトヲカムヘシ
- 二 各分科ノ緒論ニ於テハ成ルヘク前分科ノ教材ニ因ミテ準備事項ヲ授ケ分科ノ連絡ヲ圖リ以テ理科全體ノ統一ニ資スヘシ
- 三 教材ノ選擇排列ハ地方ノ情況ニ鑑ミテ之ヲ斟酌スヘシ
- 四 理科ヲ授クルニハ成ルヘク實物實驗ニ徴シテ觀察敘述判斷ヲ練習セシムルト共ニ常ニ家事上

- ノ應用ニ留意セシメ又時々野外教授ヲ行ヒ以テ自然界ヲ愛スル念ヲ起サシムヘシ
  - 五 實驗ハ豫メ之ヲ試ミ置キテ教授ノ際故障ナカラシムコトヲ期スヘシ
  - 六 植物動物ハ科學上ノ順序ニ泥ムコトナク生徒日常ノ經驗ニ訴ヘ成ルヘク實物標本ニ因ミテ之ヲ授クヘシ
  - 七 生理及衛生ハ衛生ヲ主眼トシ日常適切ナル事項ヲ授ケテ家事トノ連絡ヲ圖リ生理ハ衛生ヲ理會シ得ルニ止ムヘシ
  - 八 化學物理ハ生徒既知ノ事實ニ關聯シテ之ヲ授ケテ特ニ庖厨等ニ於ケル應用ニ留意セシメ定律ノ如キハ成ルヘク實例ニ依リテ其ノ應用ヲ示シ徒ニ高遠ナル説明ニ馳セサランコトヲ要ス
  - 九 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ
- 植物ニ關スルモノ
- 採集胸蓋 壓搾板、壓搾紙 生理試驗用具 主要ナル植物ノ乾燥標本、及生標本材鑑、年輪其ノ他幹ノ構造ヲ示ス標本主要ナル組織ノふればらいと 主要ナル微細植物ノふればらいと 主要ナル乾燥果實及種子ノ標本 主要ナル肉質果實ノあるこゝる標本又ハふおるまりん標本 顯著ナル花果實等ノ模型又ハ圖書植物ヲ原料トシタル加工品
- 成ルヘク花壇ヲ設ケ主要ナル植物ヲ栽培シテ教授ノ用ニ供スヘシ
- 動物ニ關スルモノ
- 捕蟲網 採集箱 展翅板 毒壺 ちつば 注射器 解剖用鋸 骨鈇 昆蟲飼育箱 哺乳類、鳥類、爬蟲類、魚類等ヲ代表スル動物及其ノ骨骼 解剖、生長、變態等ヲ示ス標本模型又ハ掛

- 圖保護色、寄生、共生等ヲ示ス標本模型又ハ掛圖 主要ナル益蟲害蟲ノ標本 動物ヲ原料トシタル加工品 微細動物ノふればらいと等
- 生理及衛生ニ關スルモノ
- 人體ノ紙塑模型 人體ノ骨骼 眼ノ模型 耳ノ模型 主要ナル組織ノふればらいと 病菌ノふればらいと 人體ノ解剖掛圖等
- 化學及礦物ニ關スルモノ
- 酒精噴燈又ハ瓦斯燈 硝子鐘、圓筒、時計皿、硝子瓶、二口瓶、三口瓶 劃度圓筒、量液瓶、U字管 塔狀乾燥器、乾燥放冷器 びべつと、びゆれつと及其ノ臺 れとると、其ノ臺 びーか、漏斗及其ノ臺 冷却器、其ノ臺、漏斗管、安全管 ゆーぢおめーとる活栓附硝子管 燃燒管 磁製坩堝鉛皿 硬度計 鐵槌、吹管、白金線、白金板 硝子切三角鏡、圓鏡、燃燒匙、坩堝挾、三脚臺 水槽、瓦斯溜 木製及金屬製架臺 砂皿、水浴、空氣浴 挾止、挾子 濾紙、篋、匙等 主要ナル礦物及岩石 礦物、岩石ヲ原料トシタル加工品
- 藥品ハ之ヲ示サスト雖此ノ要目ニ關スル主要ナルモノハ必ス之ヲ備フヘシ
- 物理ニ關スルモノ
- 木製金屬製等ノ球 挺子、輪軸、滑車、斜面、螺旋 重心ヲ示ス種々ノ板、座リヲ説明スル種々ノ立體 天秤 日本秤 尺 めーとる法尺 日本榊 五〇〇 及五〇〇〇ノ硝子製量器 鉛製分銅數箇(五〇瓦、一〇〇瓦、一さろ瓦等各數箇) 取附萬力 手輪 毛細管數種 木工道具 金工道具 ばすかるノ原理ヲ示ス器 ぶらま水壓器 連通水平器 水準器 上壓ヲ示ス器

あるきめです。原理ヲ示ス器、浮沈子、浮秤、まぐでぶるぐ半球、晴雨計用硝子管、晴雨計  
 空氣ばんぶ及附屬品、水ばんぶ波動ヲ示ス装置、音叉數種、ものこいど、風琴管、音ノ波及ヲ  
 示ス器、さばりる齒輪、蓄音器、摩擦ニ依ル發熱ヲ示ス眞鍮管、熱ノ傳導比較器、比熱試驗用  
 金屬球數種、金屬ノ膨脹ヲ示ス器、乾濕球寒暖計、蒸氣機關模型、光線ノ反射ヲ示ス器、平面  
 鏡、凹凸球面鏡、光線屈折ヲ示ス器、ぶりすむ、れんす數種、顯微鏡、望遠鏡ノ理ヲ示ス装置  
 色ノ混合ヲ示ス器、へりおすたつと、磁鐵鏡、棒磁石、馬蹄磁石、羅針盤、磁計、鐵粉、鐵  
 棒、硝子棒、封臘棒、猫皮、毛布片、絹布片等、電氣振子、絶緣臺、電氣分配ヲ示ス空球、ふ  
 らでー袋、金箔驗電器、電氣感應ヲ示ス器、絶緣シタル導體、電氣盆、ういむしや、すと起電  
 機、れいでん瓶數箇、放電叉、ぶんせん、だにぬる等ノ電池各數箇、電流計、電磁石、もーる  
 す電信機模型、電鈴、白熱電燈、あーく模型、電話機、電解器、減應に在る真空管、ほんどだ  
 いなも、絶緣銅線數種

共用ニ屬スルモノ

顯微鏡、蟲眼鏡、解剖用具(解剖針、解剖刀、解剖鉗、解剖皿、びんせつと等)、寒暖計、暗箱  
 實體鏡、酒精燈、乳鉢、乳棒蒸發皿、試驗管、其ノ臺、試驗管ぶらつし、硝子瓶、ふらすこ、  
 硝子管、硝子棒、硝子板、こるく、こるく壓搾器、こるく穿孔器、こむ管、金鋼、針金等

圖畫

第一學年

每週一時

自在畫

寫生畫、臨畫

簡單ナル幾何形畫、器具植物ノ類

第二學年

每週一時

自在畫

寫生畫、臨畫

前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ動物ノ類ヲ加ヘ又生徒學力ノ進度ニ應シテ便宜彩色ヲ施スコ  
 トヲ授クヘシ

幾何畫

線、角、單形、常用曲線等ニ關スル描法

第三學年

每週一時

自在畫

寫生畫、臨畫

前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ彩色ヲ施スコトヲ授クヘシ

本學年ニ於テ便宜平面形及簡單ナル立體ニ關スル投影畫法、陰影畫法及透視畫法ノ大要ヲ説明  
 シ寫生畫ノ教授ニ資スヘシ

第四學年

每週一時

自在畫

寫生畫



前學年ニ準シテ其ノ程度ヲ進メ景色人物ニ及ホスヘシ

考案畫

自在畫及幾何畫ニ於テ習得シタル技能ヲ應用シテ圖案ヲ構成セシムヘシ

本學年ニ於テハ便宜彩色圖案其ノ他美術上ノ事項ニ關スル説明ヲナスコトアルヘシ

本要目ハ幾何畫ヲ授クル場合ニ就キテ示スト雖之ヲ授ケサルトキハ適宜斟酌ヲ加フヘシ

教授上ノ注意

- 一 臨本ハ正格ナル畫法ニ基キ奇癖ニ陷ル嫌ナキモノタルヘシ
  - 二 臨畫ハ教授ノ際成ルヘク實物ヲ示シテ臨本ト對照シ生徒ヲシテ畫中形相ノ意義ヲ充分ニ理會セシメタル後其ノ布置描法ヲ授クヘシ
  - 三 寫生畫ハ模型又ハ實物ニ就キテ行フモノニシテ之ヲ授クルニハ先ツ生徒ヲシテ物體ノ位置距離光線ノ關係ニ依リテ形相ニ變化アル所以ヲ明ニセシメ然ル後之ヲ正確ニ描寫スルコトヲ教フヘシ
  - 四 寫生ハ物ノ形相ヲ正確ニ描寫スルヲ目的トス然レトモ又徒ニ物ノ細部ニノミ拘泥スルカ如キハ之ヲ避ケサルヘカラス
  - 五 幾何畫ハ實際ノ應用ヲ主トシテ之ヲ授ケ自在畫トノ連絡ヲ圖ルヘシ
  - 六 考案畫ノ目ハ第四學年ニ之ヲ舉クト雖便宜他ノ學年ニ於テモ之ヲ課シ意匠ノ練習ヲナサシムヘシ
- 成分、性質 常用食品(米、麥、粟、飯、麵麩、麵類、麸、大豆、豆腐、味噌、醬油、小豆)

菓子、果實、野菜、魚、鳥、卵、牛豚肉乳、油、食鹽等)嗜好品、飲料水、淨水法、水ニ依ル病毒傳播獻立 食器、庖廚具 割烹、其ノ實習(煮物、燒物、蒸物汁物、漬物、生物)貯藏

住居  
選擇 土地、家屋 方向、採光、暖房、換氣、室房ノ配置、裝飾 門牆、庭園、井掃除、保存、家具、什器

第四學年

每週二時

養老及育兒

養老 衣食住ノ注意 起居ノ介抱 精神ノ保養

育兒

哺乳 生齒 食物 衣服 居所 沐浴 運動 睡眠 疾病

言語、動作 談話 遊戲、玩具 就學

看病、傳染病ノ豫防

衣食住ノ注意 介抱 藥用 危篤ノ場合 救急療法

傳染病及其ノ豫防 清潔方法 消毒方法

整理及經濟

主婦ノ心得 勤勉、節儉、秩序、豫見、周密、清潔 婢僕ノ選ヒ方、扱ヒ方、仕事ノ配當、

七 臨畫及寫生畫ノ教授時間ニ於テ時々記憶畫ヲモ課シ形相觀察ノ練習ニ資セシムヘシ

- 八 教材ハ地方ノ狀況ニ鑑ミテ斟酌スヘシト雖成ルヘク應用ノ廣キモノ又ハ生徒ノ趣味ヲ養フニ足ルモノヲ選ビ其ノ高尚ニ過クルモノ或ハ鄙陋ニ涉ルモノハ之ヲ避クヘシ
  - 九 生徒ヲシテ成ルヘク名畫其ノ他美術上ノ作品又ハ其ノ正確ナル複製物ヲ見シメ之ニ關シテ簡單ナル説明ヲナスヘシ
  - 十 生徒ヲシテ常ニ姿勢ヲ正シクセシメ又器具ノ整頓及保存ニ注意セシムヘシ
  - 十一 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ
- 臨本 參考トナルヘキ美術作品又ハ其ノ複製物 幾何形體、裝飾紋樣 動物、植物及人物ノ模型 寫生用實物 畫板、筆洗、繪具皿、圖引機械、黑板用こんばす及各種ノ定規 投影畫法及透視畫法ノ説明ニ用フル簡單ナル裝置

家事

第三學年

每週二時

緒論

家事ニ於ケル女子ノ職分 善良ナル家風ヲ作ルコト

衣食住

衣服

材料ノ選擇 調製、保存、洗濯

食物

給料

家産 收支豫算 必要ナル費用、冗費 貯蓄 保險

家計簿記 出納ノ科目、記入ノ方法、帳簿ノ整理

教授上ノ注意

- 一 家事ヲ授クルニハ理論ニ偏セス實際ニ適切ナラシメンコトヲ旨トシ他ノ學科目ニ於テ生徒ノ學習シタル事項ハ成ルヘク之ヲ利用センコトヲ力ムヘシ
  - 二 割烹ノ實習ハ第三學年ニ於テ凡十回之ヲ課スルヲ通例トスレトモ便宜第四學年ニ涉リ之ヲ課スルモ妨ナシ
  - 三 家計簿記ハ日用ニ適切ナル事例ニ依リテ練習セシムヘシ
  - 四 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ
- 衛生試驗表類 衣服地質標本 衣服洗濯器具及藥品、保存用藥品 割烹實習用器具 食品標本 防腐劑、防臭劑 家屋圖 體溫器 灌腸器 吸入器 綑帶材料 救急函 消毒用器具及藥品 哺乳器 牛乳煮沸器 其ノ他看護用器具
- 裁縫
- 第一學年 每週四時
- 運針 素縫、本縫
- 本裁男女單衣 部分縫、裁チ方、積リ方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方
- 本裁女衿 部分縫、裏ノ裁チ方、積リ方、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方
- 本裁女綿入 部分縫、標附ケ方、綿ノ入レ方、縫ヒ方順序、仕立方

子供帯仕立方

繕ヒ方 綿布

服地 名稱、地質、染色、柄合、丈、巾等

第二學年

每週四時

運針 前學年ニ準ス

本裁男袴 部分縫、裁チ方、縫ヒ方順序、仕立方

本裁男綿入仕立方ノ解説

洗濯張り物ノ仕方

腹合帯仕立方

片面物三ツ身裁チ方及中幅大幅物ニテ小裁中裁本裁ノ裁チ方積リ方ノ解説

小裁又ハ中裁綿入仕立方

本裁女綿入羽織、本裁男袴羽織

立方

本裁男綿入羽織仕立方ノ解説

筒袖及袖無綿入羽織 裁チ方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方

繕ヒ方 絹布、毛布

服地 前學年ニ準ス

第三學年

每週四時

本裁單羽織 部分縫、裁チ方、積リ方、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方

西洋前掛 部分縫、裁チ方、縫ヒ方順序、仕立方

女袴 裁チ方、積リ方、縫ヒ合ヒ方、襷取り方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方 小裁

中裁女袴ノ裁チ方、積リ方、寸法ノ解説

小裁中裁羽織 裁チ方、積リ方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序ノ解説

小裁中裁本裁被布 裁チ方積リ方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序、小裁綿入被布ノ仕立方附飾

紐ノ結ヒ方

片面物及中幅大幅物ニテ羽織被布ノ裁チ方ノ解説

被布合羽 裁チ方、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順序、仕立方

みしんノ用法

第四學年

每週四時

しやつ、すぼん下 裁チ方、積リ方、縫ヒ方順序、仕立方

男袴 裁チ方、積リ方、縫ヒ合ヒ方、襷取り方、腰立系掛ノ順序、寸法、標附ケ方、縫ヒ方順

序、仕立方 小裁中裁男袴ノ裁チ方、積リ方、寸法ノ解説

足袋、子供腹掛、股引ノ類 裁チ方、縫ヒ方順序、仕立方

丸帯仕立方 男帯仕立方ノ解説

小袖仕立方

夜具 裁チ方、積リ方、寸法、綿ノ分量、標附ケ方、縫ヒ方順序、襪形ニテノ仕立方みしんノ用

法手藝ヲ加フル爲ニ教授時數ヲ減スルトキハ前記ノ事項ヲ斟酌シテ之ヲ授クヘシ

教授上ノ注意

- 一 裁縫ヲ授クルニハ土地ノ情況ニ適應センコトヲ旨トシ必シモ此要目ノ順序ニ依ルコトヲ要セス
  - 二 他ノ學科目特ニ數學ニ於テ生徒ノ學習シタル事項ハ成ルヘク裁縫教授ニ資センコトヲカムヘシ
  - 三 材料ノ品質ハ第一學年第二學年ニ於テハ專ラ綿布類ヲ用ヒシムヘシ
  - 四 模範トナルヘキ實物雛形等ヲ示シテ其ノ要點ヲ説キ生徒技能ノ發達ヲ助クヘシ
  - 五 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ
- 衣服名稱圖 裁チ方圖 標附ケ方圖 衣服又ハ其ノ雛形 衣服ノ分部又ハ雛形 服地標本、絲標本、鍔、其ノ臺 火熨斗、其ノ臺 裁板、裁庖刀、定規 霧吹盤 壓板、張板、簇 鯨尺、缺 綿延みしん等

音樂

第一學年

每週二時

普通樂譜法 長音階、階名、音符默符、譜表、加線、小節、縱線、すらい、たい、嬰、變、本位記號、延聲記號、簡易ナル發想記號等

基本教練

呼吸練習 緩吸緩呼、緩吸急呼、急吸緩呼、急吸急呼  
聲音練習 發聲、母音、聲區ノ調和、長音階、三度音程、弱中強ノ唱ヒ方等

聲域ハ小字ろヨリ二點はマテ、拍子ハ二拍子及四拍子、音符及、點符ハ一拍以上ノモノヲ用フ  
唱歌 簡易ナル單音唱歌凡二十曲

第二學年

每週二時

普通樂譜法 前學年ニ準シ又音名、音部記號、調子記號、拍子記號、短音階及普通ニ用ヒラルル樂譜畧記法、速度標語等ヲ加フ

基本教練

呼吸練習 前學年ニ準ス但シ急吸緩呼ヲ主トシ呼息ノ際一定ノ高度ニ於テ母音ヲ合唱セシメ又數ヲ呼ハシムルコトアルヘシ  
聲音練習 母音、三和音、四度音程、五度音程、旋律的短音階、弱中強、れがーど及すたつかとノ唱ヒ方等  
聲域ハ小字いヨリ二點ハマテ、拍子ハ既修ノモノ、外三拍子及六拍子ヲ併用シ音符及點符ハ一拍以上ノモノヲ用フ

唱歌 前學年ニ準シテ程度稍進ミタル單音唱歌凡十五曲及簡易ナル二部輪唱凡五曲

第三學年

每週二時

基本教練

聲音練習 子音、六度音程、上行漸弱、下行漸強、上行漸強、下行漸弱、三音變拍子及しーんこば、高音部中音部ノ唱ヒ方等  
聲域拍子等ハ前學年ニ同シ

聽音練習、簡易ナル音程ニ於ケル二個乃至七個音ノ連續

唱歌 前學年ニ準シテ程度稍ニ進ミタル單音唱歌、二部及三部輪唱、二部合唱通シテ凡十五曲

普通樂譜法 前二學年中授ケタル事項ノ復習及補說

樂器

をるかん、ふるべだるノ練習、五指練習、長音階練習、すうゆるノ練習、簡易ナル樂曲若干

びあの 五指練習、長音階練習、簡易ナル樂曲若干

第四學年

每週二時

基本教練

聲音練習 子音、七度音程、八度音程、普通鹽梅、高音部中音部ノ唱ヒ方等

聲域拍子等ハ前學年ニ同シ

聽音練習 簡易ニシテ趣味アル旋律的中節及大節

唱歌 前學年ニ準シテ程度稍ニ進ミタル單音唱歌、四部輪唱、二部及三部合唱通シテ凡十二曲

普通樂譜法 前二學年ニ準シ又和聲ノ階梯ヲ加フ

樂器

をるかん又ハびあの 短音階練習及樂曲若干

本要目ハ輪唱歌、複音唱歌、樂器使用法ヲ授ケル場合ニ就キ示スト雖之ヲ授ケサルトキハ適宜斟酌ヲ加フヘシ

酌ヲ加フヘシ

教授上ノ注意

一 聲音聽音ノ練習竝ニ唱歌樂器ノ教授ハ初ヨリ樂譜ニ依ルヘシ

二 普通樂譜法ニ於ケル樂理及樂譜材料ハ實際ノ必要ヲ斟酌シ成ルヘク順序ヲ正シ區域ヲ小分シテ漸次之ヲ授クヘシ

三 基本教練ハ各學年ヲ通シテ之ヲ課シ成ルヘク樂譜法竝ニ唱歌ニ關聯セシメントヲ要ス

四 呼吸及聲音ノ練習ハ唱歌教授時間ノ初ニ於テシ聽音練習ハ同時間内聲音ヲ休養スル時ニ於テスヘシ

五 歌曲ハ歌詞、唱想、樂式、樂趣共ニ能ク生徒ノ思想、感情、年齡等ニ適應シテ其ノ品位ヲ高雅ナラシメ又諸學科目ノ統一ニ資スヘキモノニ就キ之ヲ選フヘシ

六 唱歌及樂器ニ於ケル樂曲ハ其ノ數ノ多キヲ求メスシテ十分之ニ熟達セシメントヲ要ス

七 生徒ヲシテ唱歌セシムル際常ニ姿勢ニ注意セシメ又成ルヘク教員及樂器ニ依頼スルコトナカラシムヘシ

八 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ

おるかん又ハびあの ばいりん 調音文、めどるのーむ 掛圖、其ノ臺 譜表ヲ記入シタル黑板、譜表臺等

體操

第一學年及第二學年

每週三時

普通體操

準備法 整容法 呼吸法

矯正術

徒手體操

遊 戲

行進運動及遊技

第三學年及第四學年

每週三時

普通體操

矯正術

徒手體操

啞鈴體操

遊 戲

行進運動及遊技

體操ハ凡普通體操ニ、遊戯一ノ比ヲ以テ之ヲ課スヘシ

土地ノ狀況ニ依リ遊戯ニ於テ便宜游泳、永滑リノ類ヲ加フルコトヲ得

教授上ノ注意

一 體操ハ成ルヘク女教員ヲシテ之ヲ教授セシムヘシ

二 體操ヲ授ケルニハ先ツ其ノ運動ノ目的筋肉ノ使用部等ヲ説明シ然ル後正確ニ其ノ模範ヲ示シ

テ之ニ倣ハシムヘシ

三 一運動ヲ始メテ授ケル場合ニハ精密ニ注意シテ些少ノ誤謬タリトモ寬假スルコトナク之ヲ矯

正スヘシ

四 體操ニ於テハ生徒ノ體力ニ留意シ過度ノ運動ヲナサシムヘカラス虛弱ナル生徒ニハ特ニ留意

シテ初ヨリ強キ運動ヲナサシメス漸次之ニ堪フルニ至ラシムヘシ生徒身體ノ定期的異狀アル

ニ際シテハ體操ヲ休止セシムヘシ

五 既ニ授ケタル運動ハ反復練習シテ之ニ熟達セシムヘシ然レトモ長時間連續シテ同一ノ運動ノ

ミヲナサシムヘカラス

六 教授ノ回數ハ每週凡六回トシ成ルヘク同一教授時間ニ於テ普通體操及遊戯ヲ併セ課スヘシ

七 體操ニ於テハ衣服特ニ帶袴ノ仕立方着方ニ留意シ四肢ノ運動ハ勿論呼吸及血液循環ヲシテ自

在ナラシメンコトヲ期スヘシ

八 塵埃多キ場所又ハ夏日日光ノ直射スル場所ニ於テ運動セシムルコトハ之ヲ避クヘシ

九 教授時間外ニ於テモ常ニ生徒ヲシテ其ノ姿勢ニ留意セシムルハ勿論又適宜各種ノ遊戯運動ヲ

勸奨スヘシ

教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ

啞鈴 羽子板、羽根、豆囊、毬、輪、綱 くるつけー、ろーんてにす等ノ諸遊技ニ用フル器具

教 育

第四學年

每週二時

緒 論

心ノ狀態

心ノ觀察法 意識、注意、感覺、知覺、觀念、記憶、想像概念、言語ノ發達、斷定、推理、感應、情緒、情操、衝動、本能、欲望、意志 知的及德的陶冶 身心ノ關係、男兒及女兒、個性教育

家庭教育 兒童身體ノ養護、遊戲及手技、說話、命令賞罰  
幼稚園保育、其ノ方法  
學校教育 教授、訓練 家庭教育ト學校教育 家庭教育ト國家

教授上ノ注意

- 一 教育ハ生徒既知ノ事實ニ關聯シテ之ヲ授ケ家庭教育上ニ適切ナラシメンコトハ勿論生徒ノ修養上ニ應用セシメンコトヲ旨トシ徒ニ高遠ナル理論ニ馳セサランコトヲ要ス
- 二 生徒ノ家庭ヲ愛スル念ヲ養ヒ家庭教育ノ重要ナル任務ナルコトヲ曉ラシムヘシ
- 三 心ノ狀態ニ於テハ近易ナル實例ニ依リ乳兒期、幼兒期、兒童期等各時期ニ於ケル發達ノ大要ヲ敘述シ其ノ保育ニ關スル注意ヲ與フヘシ

手藝

第二學年以上

每週二時

手藝ハ編物、組絲、囊物、刺繡造花等ノ中ニ就キ一種又ハ數種ヲ授クヘシ其ノ事項凡次ノ如シ  
編物 毛絲、綿絲、絹絲、麻絲等ヲ用ヒ手袋、足袋、帽子、襟卷、巾着、襦袢、髮飾等ニ就キテ種々ノ編ミ方ヲ授ク又便宜ノ方法ニ依リ材料ノ性質、圖案、色ノ配合ヲ授クヘシ

組絲

綿絲、絹絲、毛絲、麻絲等ヲ用ヒ打紐、羽織紐、帶留、髮飾其ノ他裝飾品等ニ就キテ種々ノ組ミ方ヲ授ク又便宜ノ方法ニ依リ材料ノ性質及色ノ配合ヲ授クヘシ

囊物

綿布、絹布、毛布、麻布、皮革、合羽紙等ヲ用ヒテ紙入煙草入等ノ作り方ヲ授ク又便宜ノ方法ニ依リ材料ノ性質及圖案ヲ授クヘシ

刺繡

綿絲、絹絲等ヲ用ヒ襟、服紗、囊物地、服地、髮飾其ノ他裝飾品等ニ就キテ種々ノ繡ヒ方ヲ授ク又便宜ノ方法ニ依リ材料ノ性質、圖案、色ノ配合、絲ノ染メ方ヲ授クヘシ

造花

紙、綿布、絹布、羽毛等ヲ用ヒ花簪、草木花卉ノ模造品、室内裝飾品等ニ就キテ其ノ作り方ヲ授ク又便宜ノ方法ニ依リ花葉ノ構造、材料ノ性質及ヒ染メ方、圖案、色ノ配合、用具ノ取扱方ヲ授クヘシ

其ノ他ノ技藝ニ關シテハ別ニ其ノ目ヲ舉ケスト雖土地ノ情況ニ應シテ便宜之ヲ定ムヘシ

教授上ノ注意

- 一 生徒ヲ選擇スヘキ技藝ノ種類ハ成ルヘク多岐ニ亘ラスシテ其ノ技藝ニ熟練セシメンコトヲ期スヘシ
- 二 實習製品ハ成ルヘク用途アルモノヲ選ヒ材料ヲ徒費セサランコトニ注意スヘシ

- 三 染メ方ハ坊間ニ於テ得難キ色ヲ染メ出サシメンコトヲ主トシ簡易ナル方法ニ依リテ之ヲ授クヘシ
- 四 圖案ヲ授クルニハ單ニ之ヲ說示スルコトニ止メス成ルヘク生徒ヲシテ之ヲ實習セシムヘシ
- 五 教授用備品ハ凡次ノ例ニ依ルヘシ
  - 材料標本 作り方ヲ示ス標本 色ノ配合ヲ示ス標本 圖案標本 作り方用器具等
  - 刺繡造花ニ關シテハ凡次ノ備品ヲ加フヘシ
  - 染料標本 材料ノ染メ方ヲ示ス標本 染メ方用器具花葉ノ大模型 寫生用植物

○師範學校及高等女學校ノ女生徒試験施行及體操科休課方

明治三十三年三月二十六日  
文部省訓令第六號  
北海道廳 府縣

女子ノ師範學校及高等女學校ニ在學スル年紀ハ心身ノ發育上最モ注意ヲ要スル時期ナリ故ニ右等ノ學校ニ在リテハ女生徒學業ノ成績ハ平素ニ於テ便宜之ヲ調査セシムルコトトナシ時期ヲ定メテ一時ニ全學科目ノ試験ヲ行フコト勿カラシムヘシ又月經ノ間ハ其ノ生徒ニ限リ體操科ヲ課セシメサルヲ要ス

○愛媛縣立中學校規則

明治三十四年九月十四日  
愛媛縣令第五十一號

愛媛縣立中學校規則左ノ通り之ヲ定ム

愛媛縣立中學校規則

第一章 生徒定員、修業年限及休業日

第一條 生徒定員左ノ如シ

愛媛縣立松山中學校	七百人
同 西條中學校	四百人
同 今治中學校	四百人
同 宇和島中學校	四百五十人
同 大洲中學校	三百五十人

(明治三十九年愛媛縣令第十號ヲ以テ改正)  
(明治二十六年愛媛縣令第十號ヲ以テ改正)  
(明治三十七年愛媛縣令第四號ヲ以テ改正)

第二條 (明治三十八年愛媛縣令第六號ヲ以テ削除)

第三條 休業日左ノ如シ

- 一 祝日、大祭日
- 二 日曜日
- 三 夏季休業日 七月廿一日ヨリ八月卅一日マテ
- 四 冬季休業日 十二月廿五日ヨリ翌年一月七日マテ
- 五 學年末休業日十日間



第二章 學科課程  
第四條 學科課程左表ノ如シ

學科目	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第五學年
修身	全	全	全	全	道德ノ要領倫理學ノ一班
國語	全	全	全	講讀、及文法及作文	講讀、文學史
漢文	全	全	全	講讀、及文法及作文	講讀、文學史
外國語	發音、綴字、讀方、 (英語) 習字	讀方、譯解、會話、 作文、書取	讀方、譯解、會話、 作文、書取、文法	讀方、譯解、書取、 會話、作文、文法	讀方、譯解、書取、 會話、作文、文法
歷史	日本歷史	全	東洋歷史	西洋歷史	日本歷史 西洋歷史
地理	日本地理 外國地理	外國地理	全	全	地文
數學	算術	代數 幾何	代數 幾何	全	幾何 三角法
博物	礦物界	植物	生理及衛生 動物	動物	物理
物理及化學				化學	物理
法制及經濟					現行法規ノ大要 及理財財政一班
圖畫	寫生畫、臨畫、幾何	寫生畫、臨畫、考案	寫生畫、考案畫、 投影畫		

唱	歌	單音唱歌	複音唱歌	輪唱歌
全	全	全	全	全

(明治三十五年縣令第十五號ヲ以テ改正)

中學校令施行規則第十四條第二項乃至第五項ニ依リ學科課程及教授時數ヲ變更セントスルトキハ知事ノ認可ヲ受クヘシ (明治四十一年二月廿日愛媛縣令第二十三號ヲ以テ改正)

休操ハ生徒身休ノ情况ニ依リ學習スルコト能ハサル者ニ對シ其一部若ハ全部ヲ課セサルコトヲ得

第三章 課程ノ修了及卒業 (明治三十五年縣令第十五號ヲ以テ改正)

- 第五條 平素ノ學業及試驗ノ成績ハ点数ヲ以テ之ヲ評ス
- 第六條 評点ハ一學科百点ヲ以テ定點トス國語及漢文ハ第一學年乃至第三學年ニ於テハ四百点第四學年以上ニ於テハ三百点外國語ハ第一學年乃至第二學年ニ於テハ三百点第三學年以上ニ於テハ四百点數學ハ第二學年以上ニ於テハ二百点ヲ以テ定點トス
- 前二項ノ評点ハ百点ニ換フルニ十點ノ割合ヲ以テスルコトヲ得 (明治三十九年愛媛縣令第三十一號ヲ以テ改正)
- 第七條 (同上) (削除)
- 第八條 一學年内授業日數引續キ六十日以上若ハ合計九十日以上欠席シタル者ハ學年試驗ヲ受クルコトヲ得ス但特別ノ事情アル場合ハ此限ニ非ス
- 第九條 學校長ハ各學年ノ課程ノ修了又ハ全學科ノ卒業ヲ認ムル爲メ平素ノ學業及試驗ノ成績ヲ

考查スルトキ及第七條又ハ前條但書ノ規定ニ依リ試験ヲ行ハントスルトキハ之ヲ教員ノ會議ニ附シ其意見ヲ徵スヘシ

第十條 全學科ヲ卒業シタルトキハ左記書式ノ證書ヲ授與ス但シ体操ノ一部若ハ全部ヲ欠キタル者ニハ其ノ旨附記スヘシ (明治四十一年二月二十日) (愛媛縣令第二十三號ヲ以テ改正)

卒業証書

校 印

族 籍

何 某

年 月 生

本校所定ノ全學科ヲ卒業セリ仍テ之ヲ証ス

年 月 日

愛媛縣立何中學校長位勳爵何某印

第何

第四章 入學在學退學及懲戒

第十一條 入學願書ハ入學志願者ノ親權ヲ行フ者若ハ後見人ヨリ指定ノ期日迄ニ左ノ書式ニ依リ之ヲ差出スヘシ

入學志願者尋常小學校卒業以上ナルトキハ其小學校長ノ證明書ヲ添附スヘシ

入學願書

(用紙美濃形)

本籍身分職業戶主某何男兄弟等若ハ戶主

何 某

年 月 日 生

一何年何月何日何學校 (高等小學校ハ修業年限ヲ記スヘシ) 卒業若ハ第何學年修業

一自何年何月何年何箇月何所何某ニ就キ何修業

一何年何月何日何ニ付何所ヨリ何賞又ハ何罰ヲ受ケ

右之者(某儀)今般御校第何學年へ入學爲致(致)度候ニ付御許可相成度此段相願候也

住所右親權ヲ行フ者若ハ後見人(右)

何 某 印

年 月 日

愛媛縣立何中學校長何某殿

(明治四十一年二月二十日愛媛縣令第二十三號ヲ以テ本條改正)

第十二條 入學志願者ニハ身体検査ヲ施行ス

第十二條ノ二 第一學年入學志願者中尋常小學校ヲ卒業シタル者ノ數入學ヲ許スヘキ人員ニ超過シタルトキハ國語算術ノ二科目ニ就キ尋常小學校卒業程度ニ依リ撰拔試験ヲ行フ

(明治四十一年二月二十日愛媛縣令第二十三號ヲ以テ追加)

第十三條 入學ノ許可ヲ得タルトキハ左ノ書式ニヨリ在學誓書及戶籍謄本ヲ差出スヘシ

印紙 在學誓書 (用紙美濃形)

某儀今般御校へ入學許可相成候ニ付テハ御規則等固ク相守リ申スヘク且在學中某儀ニ係ル事件ハ保証人ニ於テ一切引受ケ申スヘク候依テ誓書差出置候也 (明治四十一年二月二十日愛媛縣令第二十三號ヲ以テ改正)

年 月 日

本籍身分職業戶主某何男兄弟等若ハ戶主

何 某 印

住所右親權ヲ行フ者若ハ後見人

保証人 何 某 印

住 所

同 何 某 印

愛媛縣立何中學校長何某殿

前書保証人何某ハ當市、町、村内ニ住居スル獨立ノ男子ニ相違無之候也

年 月 日

何市、町、村長 何 某 印

第十四條 在學誓書ニ要スル保証人中一名ハ入學者ノ親權ヲ行フ者若クハ後見人他ノ一名ハ學校處在地一里以内ニ住居セル獨立ノ男子ニ限ル但入學者成年以上ナルトキハ親權ヲ行フ者若ハ後見人ヲ以テスル保証人ヲ要セス

保証人其資格ヲ失ヒ若ハ死亡シタルトキ又ハ學校長ニ於テ不適當ト認メタルトキハ之ニ代ルヘ

キ保証人ヲ設クヘシ

保証人改氏名改印轉居等ヲ爲シタルトキ若ハ旅行ヲ爲ストキハ直ニ學校へ届出ツヘシ但一ヶ月以上旅行ヲ爲ストキハ代理人ヲ設クルヲ要ス

第十五條 生徒ハ學校長ノ指定スル被服ヲ着用スヘシ但學校長ニ於テ特別ノ事情アリト認メタル者ハ此限ニ非ス

第十六條 生徒中學校ノ圖書器物等ヲ毀損シ若ハ亡失シタル者ハ之ヲ辨償スヘシ

第十七條 生徒中一日以上欠席シタル者ハ其旨ヲ詳記シ保証人ノ証明ヲ得テ出席ノ際學校へ届出ツヘシ若シ欠席五日ニ及フ者ハ疾病ノ場合ニ於テハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ場合ニ於テハ其事由ヲ詳記シ保証人ヨリ學校へ届出ツヘシ

第十八條 生徒ニシテ退學セント欲スルトキハ其事由ヲ詳具シ保証人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第十九條 學校長ハ生徒中其本分ニ背戾セル行爲アリト認ムル者ヲ其情狀ノ輕重ニ從ヒ戒飭又ハ一個年以内ノ停學ニ處スヘシ

二週間以内ノ停學ハ寄宿生徒ニ限リ舍内ニ於テ謹慎セシムルコトヲ得

第二十條 學校長ハ前條ノ懲戒處分ヲ行ヒタルトキハ其事由ヲ詳記シ直ニ保証人ニ通知スヘシ

第五章 授業料

第二十一條 授業料ハ生徒一人ノ月額ヲ金壹圓五拾錢トス (明治四十一年二月二十日愛媛縣令第二十二號ヲ以テ改正)

第二十二條 授業料ハ全一ヶ月間學校ノ命ニ依リ出席セサル場合ハ之ヲ徴收スセ

第二十三條 授業料ノ納付日限ハ毎月十五日迄トス但場合ニヨリ學校ヨリ特ニ之ヲ指定スルコト

アルヘシ

第二十四條 授業料納付日限ヨリ起算シ怠納三十日ニ及フ者ニハ停學ヲ命シ怠納六十日ニ及フ者ニハ退學ヲ命ス但夏季休業日ハ此日數ニ算入セス

第六章 寄宿舎

第二十五條 寄宿舎ハ生徒ノ志望ニヨリ之ヲ寄宿セシムルモノトス但學校長ニ於テ必要ト認メタル場合ハ特ニ之ヲ命スルコトアルヘシ

第二十六條 寄宿生徒ニシテ外宿又ハ歸郷ヲ欲スルトキハ其事由ヲ詳記シ日數ヲ定メ保証人連署ヲ以テ學校長ヘ願出ツヘシ若シ其日限ヲ經テ猶歸舎スルコト能ハサルトキハ更ニ前文ノ手續ヲ以テ歸舎延期ヲ願出ツヘシ

第二十七條 學校長疾病アル寄宿生徒ニ對シ日限ヲ指定シ外宿又ハ歸郷ヲ命シタル場合ニ於テ其日限ヲ經テ猶歸舎スルコト能ハサルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十八條 寄宿生徒ノ學資ハ學校ノ通知ニ依リ豫メ之ヲ送付スヘシ

第七章 雜則

第二十九條 補習科ハ學校長ニ於テ其規定ヲ設ケ知事ノ認可ヲ經テ之ヲ設置スルコトヲ得

第三十條 本令施行ノ際現ニ第二學年以上ニ在學セル生徒ニ課スヘキ學科目及其程度ニ關シテハ其生徒ノ卒業スルニ至ルマテ仍從前ノ例ニ依ルモノトス但斟酌ヲ加フルコトヲ得

第三十一條 本令施行上ニ要スル細則ハ學校長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第三十二條 明治二十八年四月愛媛縣令第三十四號愛媛縣中學校規則ハ之ヲ廢止ス

第三十三條 明治四十年勅令第五十二號第十八條第一項ニ依ラサル尋常小學校卒業生ノ第一學年入學ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル(明治四十一年二月廿日愛媛縣令第二十三號ヲ以テ改正)

○愛媛縣立高等女學校規則

明治三十四年十月三十一日 愛媛縣令第五十六號

愛媛縣立高等女學校規則左ノ通り之ヲ定ム

明三十三年十月五日愛媛縣令第八十八號乃至第九十號ハ之ヲ廢止ス

愛媛縣立高等女學校規則

第一章 生徒定員、修業年限及休業日

第一條 生徒定員左ノ如シ

愛媛縣立松山高等女學校	五百人
同 今治高等女學校	參百人 <small>(明治三十六年愛媛縣令第三十二號ヲ以テ改正)</small>
同 宇和島高等女學校	參百人 <small>(同上)</small>

第二條 修業年限ハ四個年トス

技藝專修科ヲ置キ其修業年限ハ二個年トス

第三條 休業日左ノ如シ

- 一 祝日 大祭日
- 二 皇后陛下御誕辰

三日曜日

四夏季休業日 七月廿一日ヨリ八月卅一日マテ

五冬季休業日 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日マテ

六學年末休業日 十日間

第二章 學科課程

第四條 學科課程左表ノ如シ

學科	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年
修身	道德ノ要領作法	全上	全上	全上
國語	講讀、文法及作文	全上	全上	講讀作文
外國語 (英語)	發音、綴字、讀方、 譯解會話書取習字	全上	讀方、譯解、書取、 會話、作文	全上
歷史	日本歷史	全上	東洋歷史	西洋歷史
地理	日本地理	外國地理	外國地理結論	地文
數學	算術	全上	全上	算術代數及幾何ノ 初歩
理科	植物 動物	生理及衛生	化學及礦物	物理

圖畫	家事	裁縫	音樂	体操	手藝
自在畫		衣類ノ縫方、裁方、 繕方等	普通ノ樂譜法、基 本教練、唱歌	普通体操遊戲	
自在畫幾何畫		全上	全上	全上	編物
自在畫	衣食住	衣類ノ縫方裁方等 みしんノ用法	基本教練、唱歌、普 通樂譜法、樂器使 用法	全上	全上
自在畫考案畫	養老及育兒、看病、 傳染病豫防整理及 經濟等	全上	全上	全上	全上

手藝ハ各學年每週一時間トシ裁縫ノ教授數時ヲ減シ之ニ充ツヘシ  
外國語ハ生徒ノ志望ニ依リ課セサルコトヲ得  
体操及音樂ハ生徒身体ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル者ニ對シ其一部若ハ全部ヲ課セサ  
ルコトヲ得

第五條 技藝專修科ノ學科程度及每週教授時數左表ノ如シ

學科	第一學年	第二學年
修身	道德ノ要領、作法	同上
授時數	每週二	每週二

國語	四	講讀、作文、習字	四	同	上
數學	二	算術、幾何	二	同	上
圖書	二	自在書、幾何書	二	同	上
家事	二	衣、食、住	二	看病、育兒、家計簿記 其他一家ノ整理、繕濟	
裁縫	九	縫方、裁方繕方、	九	同	上
手藝	六	編物及刺繡等	六	同	上
音樂	一	單音唱歌	一	單音唱歌、輪唱歌、複音唱歌	
体操	二	遊戲、普通体操	二	同	上
計	三〇		三〇		

体操及音樂ハ前條第三項ヲ適用ス

第三章 入學、在學、退學及懲戒 (四十一年愛媛縣令第五十六號ヲ以テ改正)

第六條 入學願書ハ入學志願者ノ親權ヲ行フ者若ハ後見人ヨリ指定ノ期日迄ニ左ノ書式ニ依リ之ヲ差出スヘシ  
入學志願者尋常小學校卒業以上ノ課程ヲ修了セルトキハ其ノ小學校長ノ證明書ヲ添付スヘシ

入學願書

本籍身分職業戶主某何女姊妹等若ハ戶主

何 某 團

年月日生

一何年何月何日何學校 (高等小學ハ修業年限ヲ記スヘシ) 卒業若ハ第何學年修業

一自何年何月何年何月何所何某ニ就キ何修業

一何年月日何ニ付キ何所ヨリ何賞又ハ何罰ヲ受ク

右之者(某儀)今般貴校第何學年(技藝專修科第何學年)ニ入學志願ニ付御許可相成度此段相願候也  
住所右親權ヲ行フ者若クハ後見人(右)

年月日

何 某 團

愛媛縣立高等女學校長何某殿

第七條 技藝專修科ハ修業年限ニケ年ノ高等小學校卒業以上ノ者ニ限リ入學ヲ志願スルコトヲ得

第八條 入學志願者ニハ身体検査ヲ施行ス

第八條ノ二 入學志願者ノ數入學ヲ許スヘキ人員ニ超過シタルハ國語算術ノ二科目ニツキ撰抜試験ヲ行フ

第九條 入學ノ許可ヲ得タルトキハ左ノ書式ニ依リ市長村長ヲ經テ在學證書及戶籍謄本ヲ差出スヘシ

印紙

在學證書

(用紙美濃形)

某儀今般貴校へ入學許可相成候ニ付テハ御規則等固ク相守申スヘク且在學中某儀ニ係ル事件ハ保証人ニ於テ一切引受ケ申スヘク候依テ誓書差出置候也

年月日

本籍身分職業戸主某何女姉妹等若ハ戸主

何 某 剛

住所右親權ヲ行フ者若ハ後見人

保証人 何 某 剛

住所 同 何 某 剛

愛媛縣立何高等女學校長何某殿

前記保証人何某ハ當市、町、村内ニ住居スル獨立ノ男子ニ相違無之候也

年月日

何市、町、村長 何 某 剛

第十條 在學誓書ニ要スル保証人中一名ハ入學者ノ親權ヲ行フ者若ハ後見人他ノ一名ハ學校所在地一里以內ニ住居セル獨立ノ男子ニ限ル但入學者成年以上ナルトキハ親權ヲ行フ者若ハ後見人ヲ以テスル保証人ヲ要セス

保証人其資格ヲ失ヒ若ハ死亡シタルトキ又ハ學校長ニ於テ不適當ト認メタルトキハ之ニ代ル

ヘキ保証人ヲ設クヘシ

保証人改氏名改印轉居等ヲ爲シタルトキ若ハ旅行ヲ爲ストキハ直ニ學校へ届出ツヘシ但一ヶ月以上旅行ヲ爲ストキハ代理人ヲ設クルヲ要ス

第十一條 生徒ハ學校長ノ指定スル被服ヲ着用スヘシ但學校長ニ於テ特別ノ事情アリト認メタル者ハ此限ニ非ス

第十二條 生徒ニシテ學校ノ圖書器物等ヲ毀損シ若ハ亡失シタル者ハ之ヲ辨償スヘシ

第十三條 生徒中一日以上欠席シタル者ハ其旨ヲ詳記シ保証人ノ証明ヲ得テ出席ノ際學校へ届出ツヘシ若シ欠席五日ニ及フ者ハ疾病ノ場合ニ於テハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ其他ノ場合ニ於テハ其事由ヲ詳記シ保証人ヨリ學校へ届出ツヘシ

第十四條 學校長ハ各學年ノ課程ノ修了又ハ卒業ヲ認ムル爲メ平素ノ成績ヲ考查スルトキハ之ヲ教員ノ會議ニ付シ其意見ヲ徵スヘシ

第十五條 全學科ヲ卒業シタル片ハ左ノ証書式ノ証書ヲ授與ス

卒業証書

校印

族籍

何 某

年月生

本校所定ノ(技藝專修科)全學科ヲ卒業セリ仍テ之ヲ証ス

年 月 日

愛媛縣立高等女學校校長位勳爵何某圖

第何號

第十六條 生徒退學セント欲スルトキハ其事由ヲ詳具シ保証人連署ヲ以テ願出ツヘシ

第十七條 學校長ハ生徒中其本分ニ背戾セル行爲アルト認ムル者ヲ其情狀ノ輕重ニ從ヒ戒飭又ハ

一箇年以内ノ停學ニ處スヘシ

二週間以内ノ停學ハ寄宿生徒ニ限リ舍内ニ於テ謹慎セシムルコトヲ得

第十八條 學校長ハ前條ノ懲戒處分ヲ行ヒタルトキハ其事由ヲ詳記シ直ニ保証人へ通知スヘシ

第四章 授業料

第十九條 授業料ハ生徒一人ノ月額ヲ本科ハ金一圓技藝專修科ハ金八拾錢トス

補習科ヲ設置シタルトキハ其授業料ヲ一人ノ月額金壹圓トス

第二十條 授業料ハ全一ヶ月間學校ノ命ニ依リ出席セサル場合ハ之ヲ徵收セス

第二十一條 授業料ノ納付日限ハ毎月十五日迄トス但場合ニヨリテハ學校ヨリ特ニ之ヲ指定スル

コトアルヘシ

第二十二條 授業料納付日限ヨリ起算シ息納三十日ニ及フ者ニハ停學ヲ命シ息納六十日ニ及フ者

ニハ退學ヲ命ス但夏季休業日ハ此日數ニ算入セス

第五章 寄宿舎

第二十三條 寄宿ハ生徒ノ志望ニヨリ之ヲ許ス但學校長ニ於テ必要ト認メタル場合ハ特ニ之ヲ命スルコトアルヘシ

第二十四條 寄宿生徒外宿又ハ歸郷ヲ欲スルトキハ其事由ヲ詳記シ日數ヲ定メ保証人連署ヲ以テ學校長へ願出ツヘシ若シ其日限ヲ經テ猶歸舎スルコト能ハサルトキハ更ニ前文ノ手續ヲ以テ歸舎延期ヲ願出ツヘシ

第二十五條 學校長疾病ニ罹リタル寄宿生徒ニ對シ日限ヲ指定シ外宿又ハ歸郷ヲ命シタル場合ニ於テ其日限ヲ經テ猶歸舎スルコト能ハサルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添へ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十六條 寄宿生徒ノ學資ハ學校ノ通知ニ依リ豫メ之ヲ送付スヘシ

第六章 雜 則

第二十七條 補習科ハ學校長ニ於テ其規定ヲ設ケ知事ノ認可ヲ受ケテ之ヲ設置スルコトヲ得

第二十八條 本令施行ノ際現ニ第五學年及技藝專修科第三學年在學ノ生徒ニ關シテハ從前ノ學科課程ニヨリ卒業セシムルモノトス

第二十九條 本令施行上ニ要スル細則ハ學校長ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第三十條 明治四十年勅令第五十二號第十八條第一項ニ依ラサル尋常小學校卒業生ノ本科第一學年入學並ニ全條第二項前段ニ依ラサル高等小學校卒業生ノ技藝專修科第一學年入學ニツキテハ仍從前ノ例ニヨル



○中學校教授細目開申方 明治三十五年二月十八日  
受媛縣訓令第四號

受媛縣中學校

本年文部省訓令第三號中學校教授要目斟酌シテ教授細目ヲ定メ本年三月三十一日迄ニ開申スヘシ  
將來之ヲ變更シタル場合ニ於テハ其都度遲滯ナク開申スヘシ

○師範學校中學校高等女學校教科用圖書檢定調査方 明治三十一年十月七日  
文部省告示第五十九號

師範學校中學校高等女學校教科用圖書ノ檢定ハ自今其圖書ノ組織程度分量記事ノ性質誤謬ノ多少  
等ニツキ大體ノ調査ヲ爲スニ止ムルモノトス

○未檢定中學校及高等女學校教科用圖書採用稟申方 明治三十二年四月一日  
文部省訓令第三號

北海道廳 府縣

中學校及高等女學校教科書ニシテ明治三十二年勅令第二十八號中學校令第十二條第一項但書及同  
年勅令第三十一號高等女學校令第十三條第一項但書ニ依ルノ必要アルトキハ地方長官ハ該教科書  
ノ名稱、著作者及發行者ノ氏名、發行年月日、卷冊ノ記號ヲ記載シ文部大臣ニ稟申スヘシ但稟申  
ノ際該圖書一部ヲ納付セシムルコトアルヘシ

(參照)  
中學校令

第十二條第一項

中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ檢定  
ヲ經サル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

高等女學校令  
第十三條第一項

高等女學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ地方長官ノ認可ヲ經テ學校長之ヲ定ム但シ文部大臣ノ  
檢定ヲ經サル教科書ヲ使用スル必要アルトキハ地方長官ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ一時其ノ使用ヲ認可スルコトヲ得

◎職員

○公立學校職員俸給令 明治三十六年三月廿七日  
勅令第六十六號

- 第一條 本令ニ於テ職員ト稱スルハ公立ノ專門學校、師範學校、中學校、高等女學校及實業學校  
ノ職員ニシテ委任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ヲ謂フ
- 第二條 委任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル專門學校及實業專門學校ノ職員ノ年俸ハ第一號表ニ依ル
- 第三條 委任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル師範學校、中學校、高等女學校及實業學校(實業專門學  
校ヲ除ク)ノ職員ノ年俸ハ第二號表ニ依ル
- 第四條 判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ月俸ハ第三號表ニ依ル
- 第五條 官吏ニシテ在官ノ儘職員ニ任セラレタル者ノ俸給ハ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得
- 第六條 一級俸ヲ受ケ在職五年以上ニ至リ特ニ功勞アル職員ニハ本俸三分ノ一以下ノ加俸ヲ給ス

ルコトヲ得

第七條 教員ニシテ舎監、主事ヲ兼ヌル者ニハ相當ノ加俸ヲ給スルコトヲ得

第八條 教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應シ等級相當ノ額ヲ減給スルコトヲ得

第九條 二校以上ノ職員ヲ兼ヌル者ニハ其ノ俸給ヲ分割シテ關係學校ノ經費中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得

第十條 陸軍給與令又ハ海軍軍人俸給令ニ依リ俸給ヲ受クル職員ニハ其ノ間俸給ヲ支給セス但シ其ノ俸給額職員ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得

第十一條 俸給ハ每級在職一年以上ニ至ラサレハ増給スルコトヲ得但シ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ年俸五百圓以下ノ者及判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ニシテ月俸三十圓以下ノ者ハ此限ニ在ラス

第十二條 名稱又ハ待遇ノ異ナリタル職員若ハ種類ノ異ナリタル學校ノ職員ニ轉任スル場合ニ於テ支給スル俸給ハ前職ノ俸給額ニ相當スル俸給以下トス若シ相當額ナキトキハ其ノ最モ近キ上級ノ俸給以下トス但シ前職等級在職一年ヲ踰エタル者ニ在リテハ一級ヲ進ムルコトヲ得

第十三條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第十四條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第十五條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第十六條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第十七條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第十八條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第十九條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第二十條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第二十一條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第二十二條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第二十三條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第二十四條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第二十五條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第二十六條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第二十七條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第二十八條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第二十九條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第三十條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第三十一條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第三十二條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第三十三條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第三十四條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第三十五條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第三十六條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第三十七條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第三十八條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第三十九條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第四十條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第四十一條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第四十二條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第四十三條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第四十四條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第四十五條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第四十六條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第四十七條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第四十八條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第四十九條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第五十條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第五十一條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第五十二條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第五十三條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第五十四條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

第五十五條 退職後一年以内ニ再任セララルル場合ニ於テハ其ノ俸給ハ前職ノ俸給以下トス

一級
二級
三級
四級
五級
六級
七級
八級
九級
十級
十一級
十二級

學校長	三千圓	三千五百圓	三千圓	二千圓	千六百圓	千六百圓	千四百圓	千三百圓
教諭	二千五百圓	二千三百圓	二千圓	千六百圓	千四百圓	千三百圓	千圓	九百圓
舍監							千三百圓	千圓
							九百圓	八百圓
							七百圓	七百圓
							六百圓	六百圓
							七百圓	七百圓
							六百圓	六百圓

第二號表

學校長	二千圓	千六百圓	千五百圓	千四百圓	千三百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓
教諭	千六百圓	千六百圓	千五百圓	千四百圓	千三百圓	千二百圓	千圓	九百圓	八百圓	七百圓	六百圓

教諭ニシテ十二級俸又ハ十四級俸ヲ給スル者ハ女子ニシテ教諭タル者ニ限ル

第三號表

師範	助教諭	教諭	書記	助教諭	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	十三級
	五十圓	七十五圓	七十五圓	五十圓	五十圓	七十圓	六十圓	六十圓	六十圓	五十圓	五十圓	四十圓	四十圓	三十圓	三十圓	二十圓	十五圓
	四十五圓	七十圓	六十圓	四十五圓	四十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	三十圓	三十圓	二十圓	二十圓	二十圓	十五圓	十五圓	

學校	訓導	書記	中學校	教諭	助教諭	舍監	書記	高等女	教諭	助教諭	舍監	書記	實業	學校長	教諭	助教諭	訓導	舍監	實業	門業專	ヲ除ク	
	五十圓	五十圓	七十圓	七十圓	七十圓	七十圓	七十圓	七十圓	七十圓	七十圓	七十圓	七十圓	七十圓	七十圓	七十圓	七十圓	七十圓	七十圓	七十圓	七十圓	七十圓	七十圓
	四十五圓	四十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓	三十五圓
	三十圓	三十圓	二十圓	二十圓	二十圓	二十圓	二十圓	二十圓	二十圓	二十圓	二十圓	二十圓	二十圓	二十圓	二十圓	二十圓	二十圓	二十圓	二十圓	二十圓	二十圓	二十圓
	二十圓	二十圓	十五圓	十五圓	十五圓	十五圓	十五圓	十五圓	十五圓	十五圓	十五圓	十五圓	十五圓	十五圓	十五圓	十五圓	十五圓	十五圓	十五圓	十五圓	十五圓	十五圓
	十五圓	十五圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓
	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓
	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓	十圓

學校長又ハ教諭ニシテ十一級俸ヲ給スル者ハ女子ニシテ教諭タル者ニ限ル

○公立中學校高等女學校專門學校實業學校職員名稱待遇及任免

明治二十年十二月十二日  
勅令第二百四十四號

第二條 公立中學校高等女學校專門學校實業學校職員ノ名稱左ノ如シ (明治二十五年勅令第百十三號ヲ以テ追加)

學校長

教諭

助教諭

合 監

書 記

寄宿舎ノ設アル學校ニ限ル

第二條 學校長教諭助教諭合監書記ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但專門學校及實業專門學校ノ學校長教諭及合監ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クルモノトシ其他ノ學校ノ學校長及教諭三名以內ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ケシムルコトアルヘシ (明治三十六年勅令第百三十一號ヲ以テ本條改正)

學校長ヨリ兼任スル教授ハ前項定員ノ外トス (明治三十一年勅令第百三十二號ヲ以テ本條改正)

第三條 奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル職員ノ任免ハ文部大臣之ヲ奏薦宣行シ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ハ府縣知事之ヲ專行ス

(備考)

明治三十六年勅令第六十五號ヲ以テ改正ノ條項ハ同四月一日ヨリ施行

○奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル學校職員任免ノ奏薦及宣行方

明治二十六年四月十七日  
勅令第二百一十二號

明治二十四年勅令第二百一十七號師範學校官制第二條但書及明治二十四年勅令第二百四十四號公立中學校高等女學校專門學校實業學校職員名稱待遇及任免ニ關スル勅令第二條ニ依リ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル各學校職員ノ任免奏薦及宣行ハ明治二十五年勅令第九十六號高等官官等俸給令第四條及第五條ノ例ニ依ル

(參照)

高等官官等俸給令

第四條 奏任官ノ任官及敘等ハ内閣總理大臣之ヲ奏薦シ其各省及各官廳ニ屬スルモノハ内閣總理大臣ヲ經由シ

テ主任大臣之ヲ奏薦ス

第五條 奏任官ノ辭令書ハ内閣ノ印ヲ鈐シ内閣總理大臣之ヲ宣行ス

○公立學校職員休職ニ關スル規定

明治二十七年八月八日  
勅令第四百四十一號

第一條 學校編制ノ變更事務ノ伸縮等ニ依リ其ノ人ヲ要セサル場合教員養成ヲ目的トスル官立府縣立學校ニ入學スル場合其ノ他傷痍疾病等ノ事故アル場合ニ於テハ地方長官ハ公立學校職員ニ休職ヲ命スルコトヲ得

公立學校職員ニシテ戰時又ハ事變ニ際シ陸海軍ニ召集セラレタルトキハ當然休職者トス (明治三十四年勅令第二百三十四號ヲ以テ改正)

第二編

職員

(奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル學校職員任免ノ奏薦及宣行方)

四七七